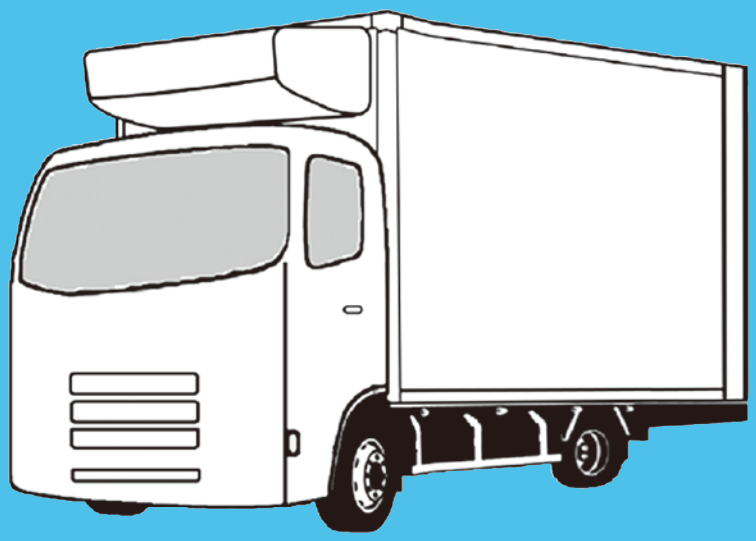
RUEHAUF
日本フルハーフ

保冷バン・冷凍バン
取扱説明書



’26.09

●お車を安全快適にお使いいただくため、ご使用の前に本取扱説明書を必ずよくお読みください。

●お車をゆずられる場合は、次のオーナーのために本取扱説明書を必ず車載してください。

ご使用の前に

このたびは、日本フルハーフ製の保冷バン・冷凍バンをお買上げいただき、まことにありがとうございます。

この取扱説明書は、弊社製保冷バン・冷凍バンの正しい取扱いと点検や手入れについて記載してあります。

積荷をいつも安全確実に輸送するために、この取扱説明書を良くお読み頂き正しい使用方法にて安全に永くご愛用くださいますようお願いいたします。

ご使用の前に本書を必ずお読みください

■ 本書は保冷バン・冷凍バンのボデーについて記載してあります。トラックシャーシや関連機器の取扱いについてはそれぞれのメーカーが発行する「取扱説明書」（別冊）をご覧ください。

■ 冷凍機及びその他機器の取扱いについてはそれぞれのメーカーが発行する「取扱説明書」（別冊）をご覧ください。

■ フルゲートリフター装着車については「フルゲートリフター取扱説明書」（別冊）をご覧ください。

■ 床搬送装置及びその他機器の取扱いについてはそれぞれのメーカが発行する「取扱説明書」（別冊）をご覧ください。

■ その他の特別装備機器（オプション装備機器）の取扱いについてもそれぞれのメーカが発行する「取扱説明書」（別冊）をご覧ください。

■ 本書はいつもお車に保管してください。必要なときにすぐお役に立ちます。

■ 別添「保証書」もご覧ください。

●「安全に使用して頂くために」や ⚠警告 ⚠注意 アドバイス 知識マークのところは重要です。しっかりお読みください。

保証について

製造上の責任にて発生した架装部位の故障については、別添の保証書に記載されている範囲で無料修理させていただきますので保証書をご確認の上、お買い上げの販売店までお申し付けください。

取扱い上の不注意によって生じた故障および事故については保証できません。

本取扱説明書記載の使用方法及び点検・お手入れを守らない場合は、保証期間中であっても保証の適用外となりますので十分ご注意ください。

機能維持のため改造変更を禁止します。もし必要が生じた場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

独自の改造により生じた故障、事故等については一切責任を負いません。

販売店ならびにサービス拠点の所在については別紙の「営業拠点・サービス拠点一覧」よりご確認ください。

●本書で使用されているマークは以下のようになっています。

本書では危険の発生を防止して頂くために大切な事項をシンボルマーク（⚠）とシグナルワード（警告、注意）で表示してあります。 シグナルワードは次のような危険の重大さを表しています。	
⚠ 警　告	取扱いを誤ると死亡または重傷を負う可能性がある状況を示します。
⚠ 注　意	取扱いを誤ると軽傷事故や物的損害の発生が予想される状況を示します。
アドバイス	保冷・冷凍バンのご使用にあたり守って頂きたいことを示します。
知　識	保冷・冷凍バンを快適にご使用頂くために知っておいて頂きたいことを示します。

■本書は保冷バン・冷凍バンの共通事項及び重要事項について説明してあります。

■お客様の個別仕様により本書の内容の一部がお客様の車両とが一致しない場合がございますのであらかじめご了承ください。

■本書ではボデーを後方より見て左右を説明しております。

★ご不明な点がございましたらお買い上げの「自動車販売店」ならびに「日本フルハーフ各支店」におたずねください。

総目次

ご使用の前に

１．安全に使用して頂くために

２．各部の名称

３．ドアの操作

４．非常用装置

５．緊締装置

６．床搬送装置

７．電装品

８．輸送の準備と上手な使い方

９．付属品装備品

10. 点検、お手入れについて

11. 付属書

目　　次

ご使用の前に…… 1

総目次…… 3

目次…… 4

工番（製造番号）について…… 5

1.安全に使用して頂くために…… 6

2.各部の名称…… 20
1.保冷バン　20
サンドイッチバン（E・G系）　20
コルゲートバン　（LB・LC系）　20
2.冷凍バン　21
サンドイッチバン（E・G系）　21
コルゲートバン　（LB・LC系）　22
ザ・冷凍車　（VH系）　23
3.冷凍機器の配置図（参考例）　24
冷凍ユニット　24
スタンバイ装置・コントロールユニット　25

3.ドアの操作…… 26
1.リアドア　26
観音ドア（両開タイプ）　26
観音ドア（3枚開タイプ）　31
観音ドアハイグレード（両開タイプ）　32
観音ドアの固定装置　33
ロールアップドア（ワンタッチロック式）　36
ロールアップドア（鎌錠ロック式）　37
ベントドア　39
はね上げドア　40
2.サイドドア　41
観音両開タイプのサイドドア　41
片開きタイプのサイドドア　41
スライド開きタイプのサイドドア　42

4.非常用装置…… 44
1.非常警報装置　44
2.非常解錠装置　44

5.緊締装置…… 49
1.ラッシングレール　49
2.ラッシングベルト　49
3.角型ビーム　50
4.端末金具　50

6.床搬送装置…… 52
1.手動式　52
ローダ　53
ローラーコンベア　55
2.動力式　55

7.電装品…… 56
1.非常警報用スイッチ　56
2.マーカランプ　57
3.室内灯　57
4.室内作業灯　57
4.路肩灯　57

8.輸送の準備と上手な使い方…… 58
1.輸送の準備　58
保冷・冷凍バンの予冷
保冷・冷凍バンの予冷温度
積み荷の予冷
2.荷物の積み方　59
積込（荷卸）とドア操作　59
積荷の正しい配置　60
3.上手な使い方　61
駐車は日陰で　61
長時間の駐車　61
駐車中の節電　61
ボデー内はいつも清潔に　62
スタンバイ装置　62
4.品目別輸送適温表　63

9.付属品装備品…… 64
1.リアバンパ　64
バンパ　64
バンパステップ　64
2.作業台　64
リアの作業台　65
サイドの作業台　66
3.渡し板　67
4.工具箱　68
5.スペアタイヤキャリア　69
6.後部格納箱　71

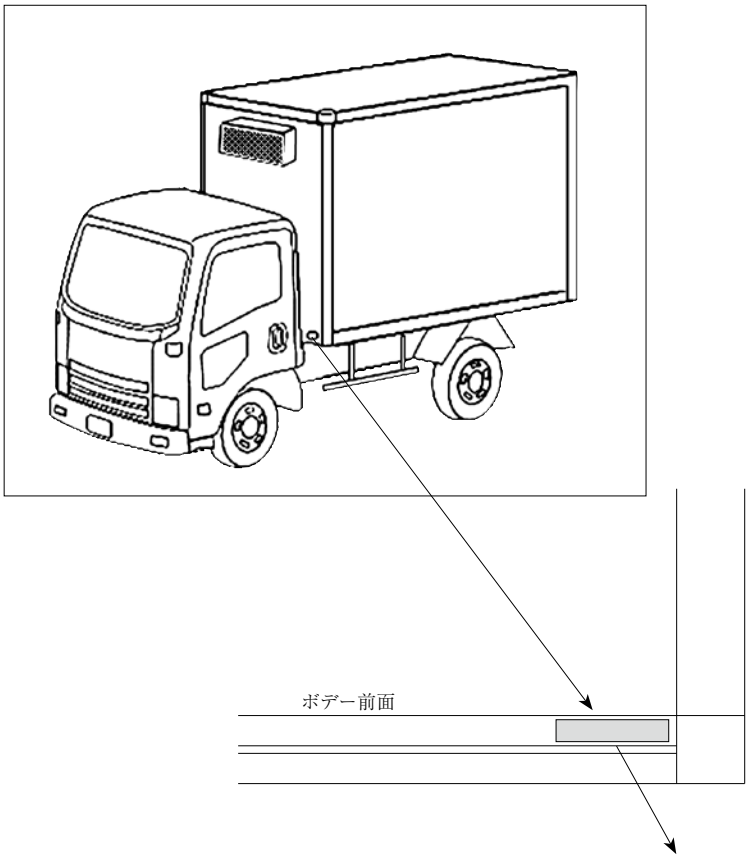
10.点検、お手入れについて …… 72
1.新車時の点検　72
2.日常点検・定期点検　72
3.お手入れ　83
4.ロールアップドアの点検　86
5.定期交換部品と消耗品　86
6.参考配線図　87

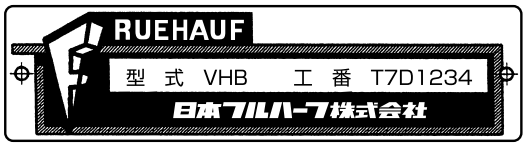
付属書…… 88

工番（製造番号）について

■工番（製造番号）表示位置

ボデー前面左側下部　　例．VHB　T7D1234





ここに型式と工番（製造番号）が表示されています。
修理および部品のご用命のときは、この番号をお知らせください。

1. 安全に使用して頂くために

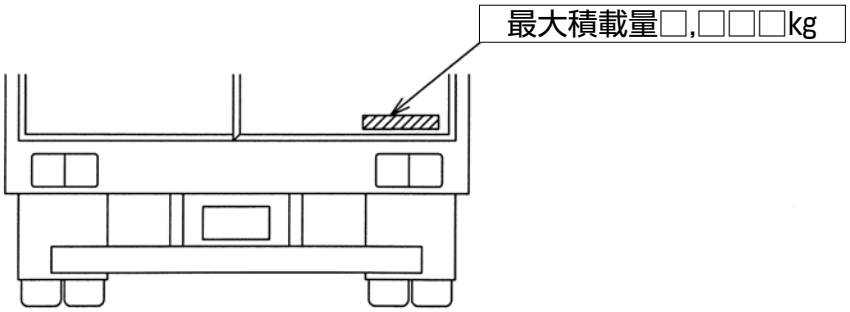
事故や故障を避けるため、以下のことをお守りください。

荷物を積降ろしするとき

⚠警 告

過積載の禁止

過積載は法律で禁止されています。
過積しますとブレーキ制動力が不足となり事故につながります。

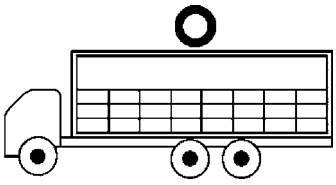


スペアタイヤや工具類は積載物（荷物）扱いになります。

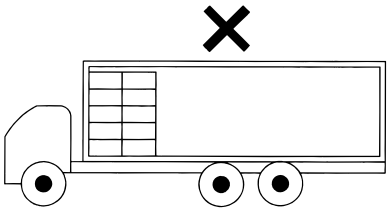
⚠警 告

片荷の禁止

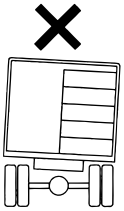
荷物の片寄った積み込みの禁止。
片寄った積み方をしますと、運転操作が不安定になり横転など、
重大な事故を引き起こします。
荷物は床全体に荷重が均等にかかるよう積み込んでください。
前　荷　　：前輪に荷重がかかりすぎパンクのおそれがあります。
左右の片荷：荷崩れや車両が横転するおそれがあります。
後　荷　　：前輪が軽くなり、ハンドル操作性が悪くなります。



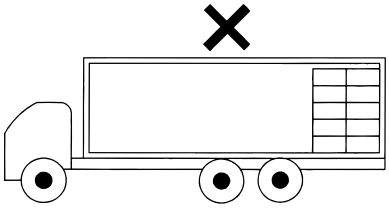
床均等積込



前荷



左右の片荷



後荷

⚠警 告

危険物・強臭気性物品の積み込み禁止

ガソリンなど揮発性、引火性のある危険物を積み込むと、爆発など、重大な事故につながります。

強い臭気のある物品は積まないでください。
(生フィルム等の専用輸送車は別です)

保冷バン・冷凍バンは主に食品輸送に使用され気密・断熱性が高いためガソリン等が気化し庫内に充満すると爆発の危険性があります。
また、臭気性物品を積載すると臭気が残留し食品輸送に不向きになります。

⚠警 告

フォークリフトの乗り込み禁止

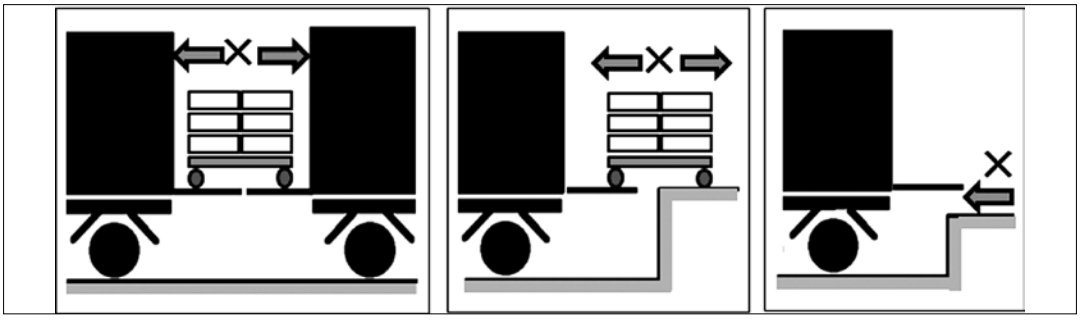
ボデー内に、フォークリフトを乗り入れると、床が破損し、重大事故につながるおそれがあります。

フォークリフト乗り入れが必要な場合は特別仕様をご指定ください。

⚠警 告

不安定な渡し板の使用禁止

渡し板を図のような不安定な方法で使用すると、挟まれ、転落など、重大な事故につながります。



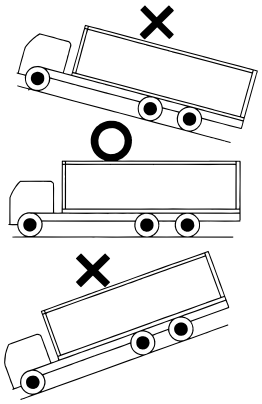
⚠警 告

ボデー後端、開口部を確認しない作業の禁止

ボデー後端部、サイドドア開口部を確認せず作業をすると、転落など重大な事故につながります。

⚠警 告

傾斜地における手動床搬送装置の使用禁止



車両が傾斜した状態で搬送装置を操作すると、荷物の制御ができなくなり、転落など、重大な事故につながります。

傾斜地などでの荷役が避けられないときは、ロープ、ウインチなど確実に荷物を制御できる手段を併用してください。

⚠警 告

荷物を緊締なしでの走行禁止

走行中、緊締のない荷物の荷崩れによりボデーを破損したり、車両の横転など、重大事故になるおそれがあります。

ラッシングベルトやラッシングビーム等を使用して荷物を緊締してください。

荷降ろしの時は､ドアを少し開き､荷崩れしていないことを確認し､開放してください。

⚠警 告

庫内（ボデー内）の酸欠防止

1. ドライアイスや液体窒素を冷却材に使用している場合はドアを開けてしばらく（約3分）たってから庫内に入ってください。
2. ドアやカーテンを閉めきって庫内で作業をしないでください。

庫内への立入はボデーの大小、「積荷がドライアイス」の場合や冷却材として使用量が多い時など、実状に合わせて酸欠の防止を行ってください。

⚠警 告

ドライアイス・液体窒素の取扱い

ドライアイス･液体窒素の取扱い（保管･使用･輸送･持ち運び･温度管理など）については保護具の着装、換気、温度などに十分配慮して行ってください。

ドライアイスは二酸化炭素の氷で温度は－78℃液体窒素は低沸点－196℃になります。
取扱は必ず専門業者に取扱方法を確かめてから行ってください。

⚠注 意

床面の水ぬれ、結氷

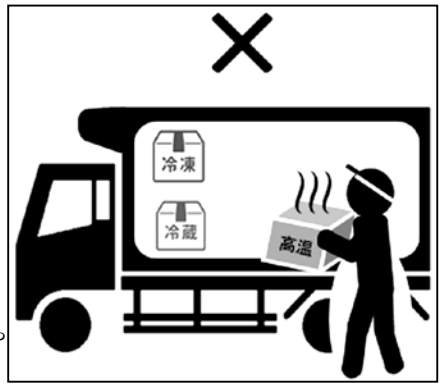
床面がぬれていたり結氷している場合は滑りやすく転倒してけがをしますので、出入･作業などは気をつけて行ってください。

水分は、結氷する前に拭浄しておきましょう。水ぬれ、結氷時の作業には滑りにくい靴を履きましょう。

⚠注 意

目的外用途での使用禁止

本保冷・冷凍バンは輸送用機器としてご使用ください。
冷凍された物品や生鮮食料品を中心に輸送します。

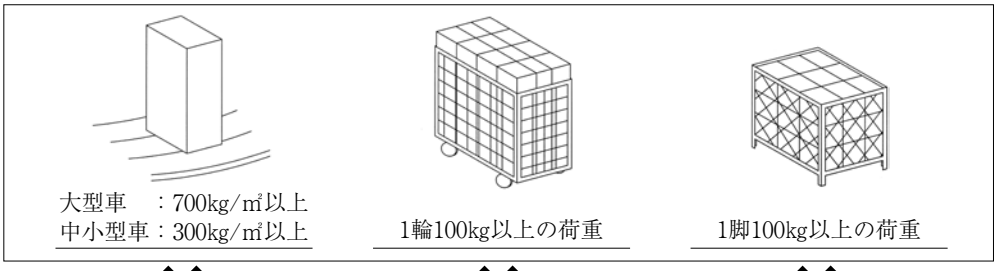


目的外の用途に使用すると・安全性の阻害や車両の損傷・事故や故障の原因になります。

⚠注 意

床への集中荷重禁止

床との接地面積が小さく重い荷物の積み込み禁止。
四本足（車輪付き）パレットに重い荷物を入れての積み込みや重い荷物を
ハンドリフターでの荷役禁止。
床に集中荷重をかけますと床板の損傷の原因となります。



集中荷重対策としては特別仕様（床SUS板張り等）をご指定ください。

⚠注 意

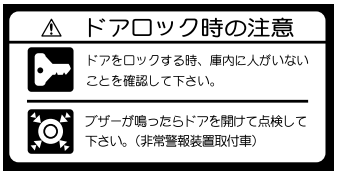
発熱する装置付近の積荷注意

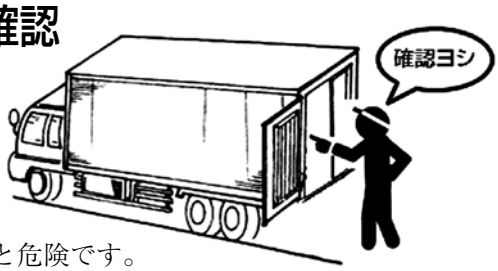
火災の原因になりますので、発熱する装置（ヒーター、ライト等）
付近に物を置かないでください。

※庫内のランプ類は使用後必ず電源OFFにしてください。

⚠警 告

ドアロック時のボデー内確認





万一庫内（ボデー内）に人が閉じこめられると危険です。

⚠注 意

手や指の挟みこみ

ドアの開け閉めの時に、指や手を挟まれないようにしてください。

特にロールアップドアのパネル継目部分には手を掛けないでください。指を挟みます。

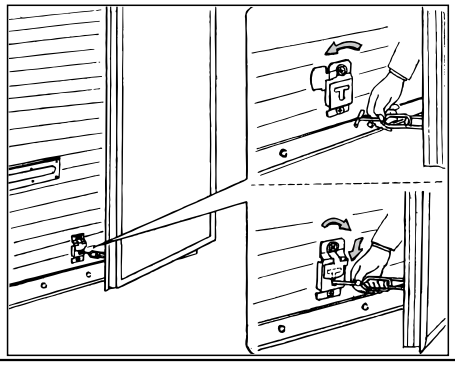
⚠注 意

ドアの開放と固定

1．ドアを開けるときは他の交通・物・特に歩行者に気をつけてください。

2．開けたドアは必ずストッパで固定してください。

固定してないドアは、通過車両にあおられたり風などで動いて思わぬ事故の原因になります。



走行の前に

⚠警 告

出発時のドアロック点検

出発の前に各ドアが確実にロックしてあるか点検してください。

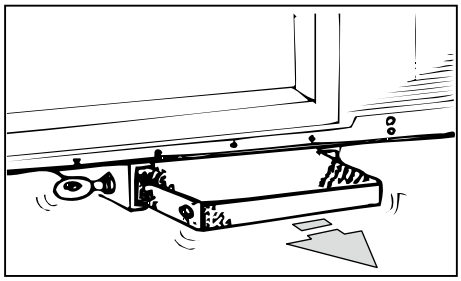
走行中にドアが開いて煽られたり荷物が落ちると後続車や歩行者等に危害を与えます。

⚠警 告

作業台の不十分な格納での走行禁止

サイド作業台は確実に格納してください。

作業台の格納が不十分だと、走行中に飛び出し歩行者などに接触し、重大な事故を引き起こします。

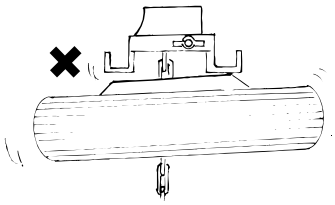


⚠警 告

スペアタイヤの固定が不完全な状態での走行禁止

スペアタイヤの固定が不十分だと、走行中脱落し、重大な事故を引き起こします。

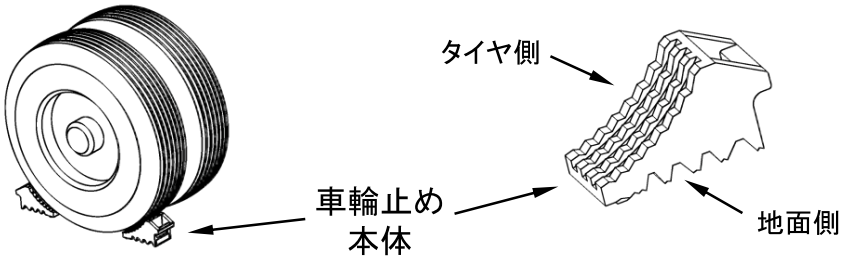
始業点検時必ず固定している事を確認してください。

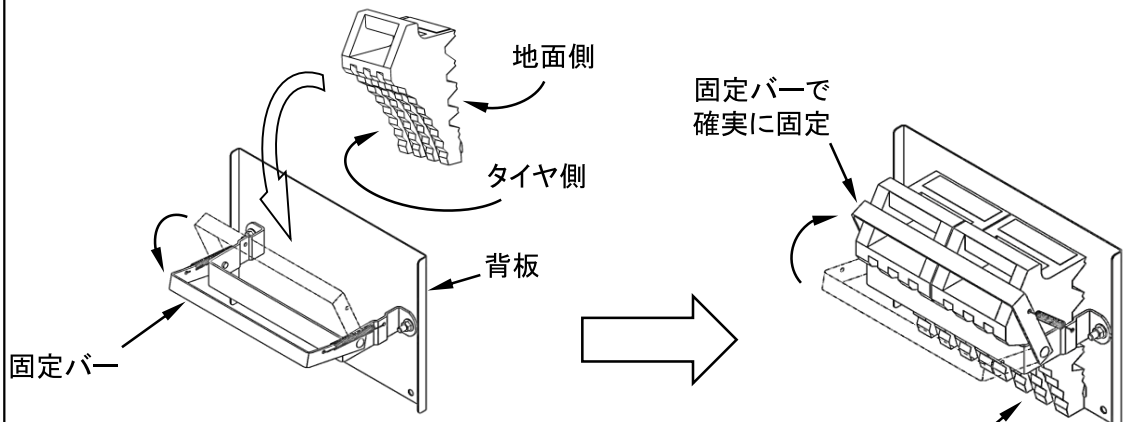


⚠注 意

車輪止めは正しい向きで確実に格納する事

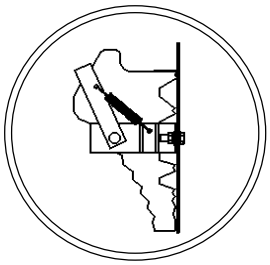
・車輪止めの格納を正しく行わないで走行すると、
格納装置の破損や、車輪止めが脱落し
重大事故発生になるおそれがあります。



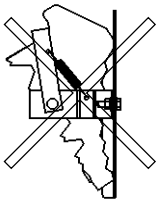


・固定バーを下げて車輪止めの
地面側が背板側になるように格納して
固定バーを上げて確実に固定する

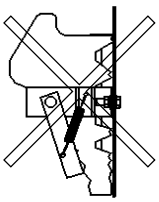
固定バーにはバネを使用しています
手や指の挟み込みに十分注意してください。

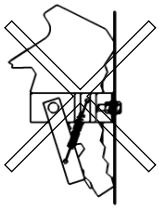


正しい格納



車輪止め逆向き格納



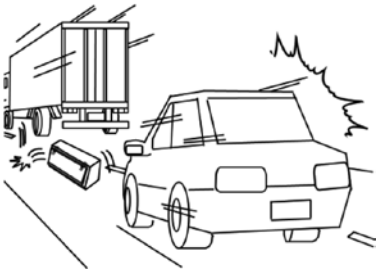


固定バーをしない

⚠警 告

架艤装品（下廻り品）などの取付状態の確認

スペアタイヤや工具箱・リヤバンパなどの架艤装品の固定が不十分だと、走行中に脱落し、重大な事故を引き起こす可能性があります。



日常点検時に必ず取付状態を確認してガタや損傷がある場合には修理を行なってください。

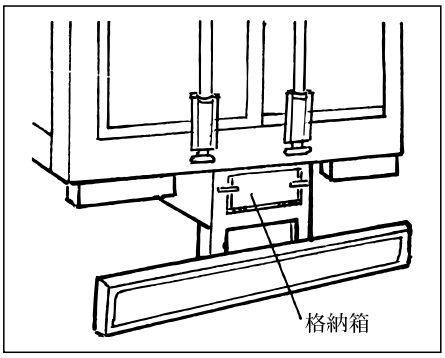
⚠警 告

後部格納箱、工具箱の施錠が不完全な状態での走行禁止

1．後部格納箱を使用したときは蓋についている「落し錠」でしっかりと施錠してください。

2．工具箱の使用後も確実に施錠してください。

積込み品のローダやコンベア・工具等が落下すると重大な事故を引き起こします。



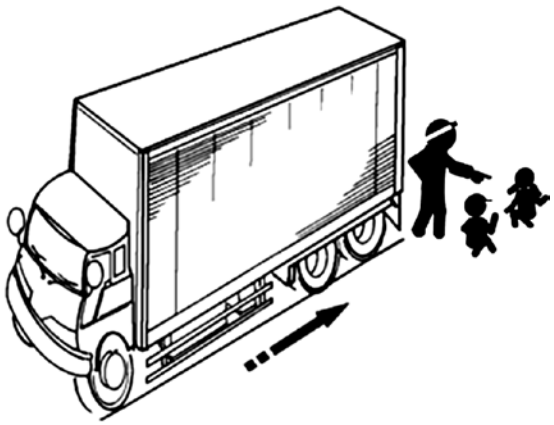
⚠警 告

車両後退時の安全確認

1．後退をするときは誘導員の指示に従ってください。

2．誘導員のいない場所で後退せざるを得ないときは降車して後方の安全を確かめた後、ゆっくりと行ってください。

後方の安全確認をしないで後退すると危険です。



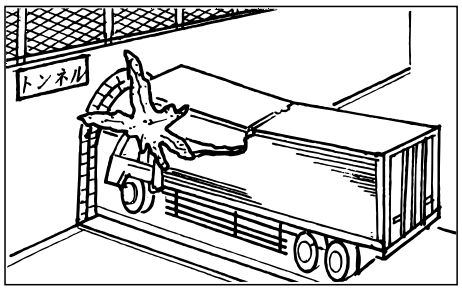
バックブザー、バックアイカメラ等の整備は確実に行ってください。

⚠注 意

キャブとボデーの段差に注意

トンネル・門の梁・ガード下などを通過するときはボデーがキャブより高いことに気をつけてください。

構造物に当たるとボデーの破損や事故になります。



⚠警 告

テールゲートなどのメインスイッチがON状態での走行禁止

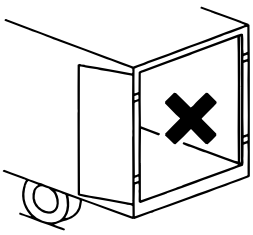
走行中の振動などで装置が動き、重大な事故を引き起こします。

⚠注 意

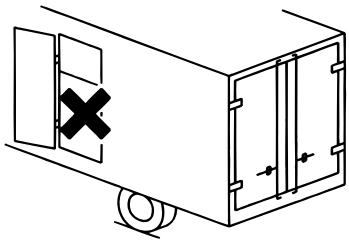
ドア開放での走行禁止

ドア（サイド及びリア）を開けたままで走行しますと故障、事故の原因となります。
必ずドアを閉めロックしてから走行してください。

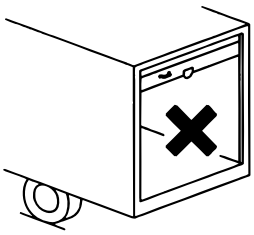
〈参考例〉



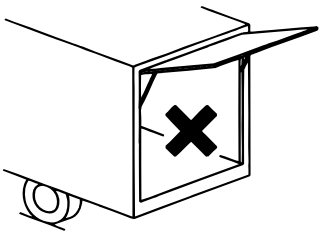
観音ドア



サイドドア



ロールアップドア



はね上げドア

⚠警 告

車のホーン、ブザーが鳴り続けるときは、庫内に人が閉じ込められていないか、確認してください

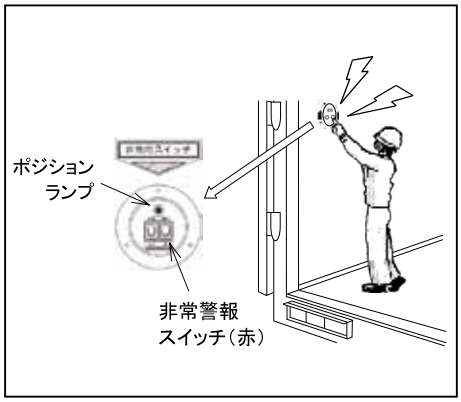
車のホーン、ブザーが鳴り続けるときは、閉じ込み警報装置が働いている場合があります。直ちにドアを開けて庫内を点検してください。ボデー内へ人が閉じ込められると、中からドアを開けることができず、重大な事故につながります。

⚠警 告

ボデー内に閉じこめられたときは

万が一ボデー内に閉じこめられたときは落ち着いて行動してください。

1. 非常警報装置のある車両
   非常用スイッチを押して運転室のブザーまたはホーンを鳴らし外部に知らせます。
2. 非常警報装置のない車両
   音の出る積荷やドア・内壁を叩いたりして大声で知らせます。
3. 非常解錠装置付ドアの場合は救出を待たず自力で開けて外へ出てください。



車両が走行中は停車を待つ・ドアのみ開けて待つ、など実情に合せ安全を確かめながら対応してください。

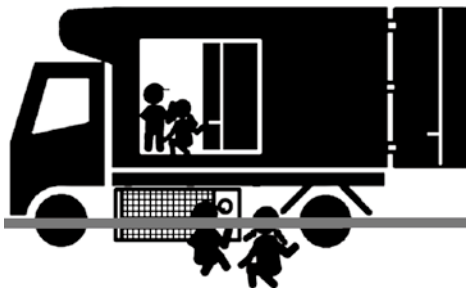
非常用スイッチは、ボデー内左後方の赤色ポジションランプの下です。

⚠警 告

休車中の車両にも目配りを

休日や修理待ちなどで休車している車両についても置場や駐車ブレーキ・車輪止め・施錠を確かめ安全に保管してください。

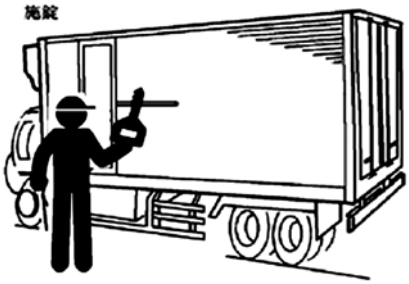
遊び場になると、子供が遊戯中に転落したりボデー内に閉じこめられたりして思わぬ事故を起こすことがあります。



車から離れるときは

⚠警 告

ドアを施錠せず車から離れることの禁止



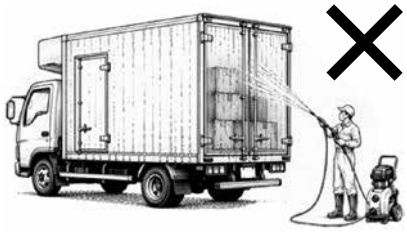
車から離れるときは、庫内を確認しドアに施錠してください。

盗難やいたずらの防止に役立ちます。

洗車するときは

⚠注 意

洗車時の注意



洗車は、荷物を積んでいないときに行ってください。水圧によってボデー内に水が侵入し、荷物等が濡れるおそれがあります。

高圧洗浄機でのボデー洗車禁止

ガスケットによる防水処理部（ドア周りなど）や工具箱、シーラー部などに高圧で洗車しますとボデー内に水が侵入します。

冷凍機の取扱い

⚠注 意

冷凍機器類の取扱い

冷凍機器類の詳しい取扱方法については取扱説明書をご覧ください。

取扱を誤ると故障や事故の原因になることがあります。

⚠注 意

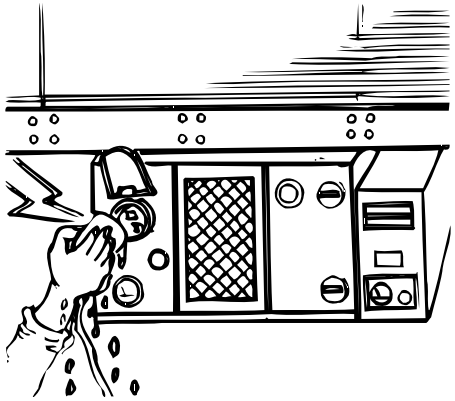
冷凍機器類の水洗いと注水

通電中の冷凍機器類は水洗い、注水などをしないでください。

短絡や感電の原因になります。

⚠警 告

感電の防止



コードやコンセント、スイッチ類通電部分は濡れた手で触れないでください。

感電する恐れがあります。

⚠注 意

電源コード接続時の車両の移動

スタンバイ装置他の機器とコードを接続したまま車の移動はしないでください。

事故や故障の原因になります。

改造はしないで

⚠警 告

改造の禁止

自己流の改造や変造、部品の後付けはやめてください。

性能を損なったり、車両の保安基準から外れたり、故障や事故の原因になることがあります。

登録後の改造で無届けの車両は法律で使用を禁じられています。

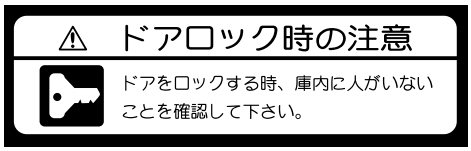
コーションラベルの整備

⚠注 意

破損、不鮮明なラベルの使用注意

コーションラベルは、使用時、お守りいただきたい項や、注意が書かれています。
見にくくなったラベルは、速やかに交換してください。

＜例＞



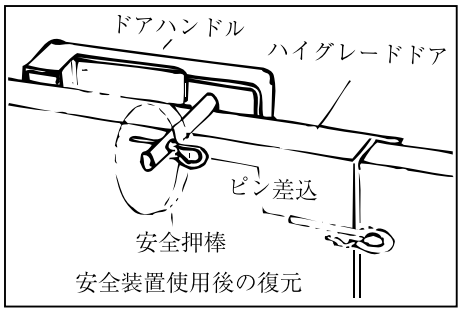
非常解錠装置の復元

⚠警 告

非常解錠装置の復元

装置使用後は必ず使用前の状態に戻してください。

戻さないで走行すると、積荷の干渉等でドアが開くことがあり、大変に危険です。



安全装置使用後の復元

ドレンの操作

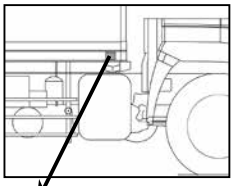
⚠注 意

ドレン排水時の注意

シャシの車型によりボデーのすぐ下にマフラーなどがあり、ボデーにドレンガイドを装備した車両があります。
その場合は、下記注意を守ってください。

- マフラーにかかった排水は速やかに洗い流してください。マフラーの汚れ､腐食等の原因になります。
- 水量により排水が勢いよく流れ出る場合があります。
- エンジン運転後は、ドレンガイドが熱くなるので触らないでください。

コーション
ラベル及び
取付位置



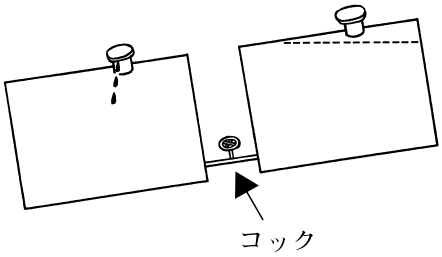
連結燃料タンクの扱い注意

⚠注 意

連結燃料タンク満タン時の注意

燃料タンクが２個以上連結されている車両で、燃料が満タン時に坂道を走行中や、駐車中に片側のタンクから燃料が漏れることがあります。

この場合は、タンクの連結コックを閉じメインタンクの量が半分位になってからコックを開くことをお勧めします。



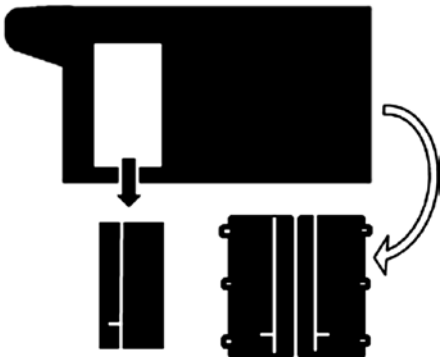
ボデーを破棄するときは

⚠警 告

ドアなどを取り付けたままボデーを破棄することの禁止

廃却する場合は、ドアや突起物、鋭利な物は取外し、倒れないよう安定した状態にして置きます。

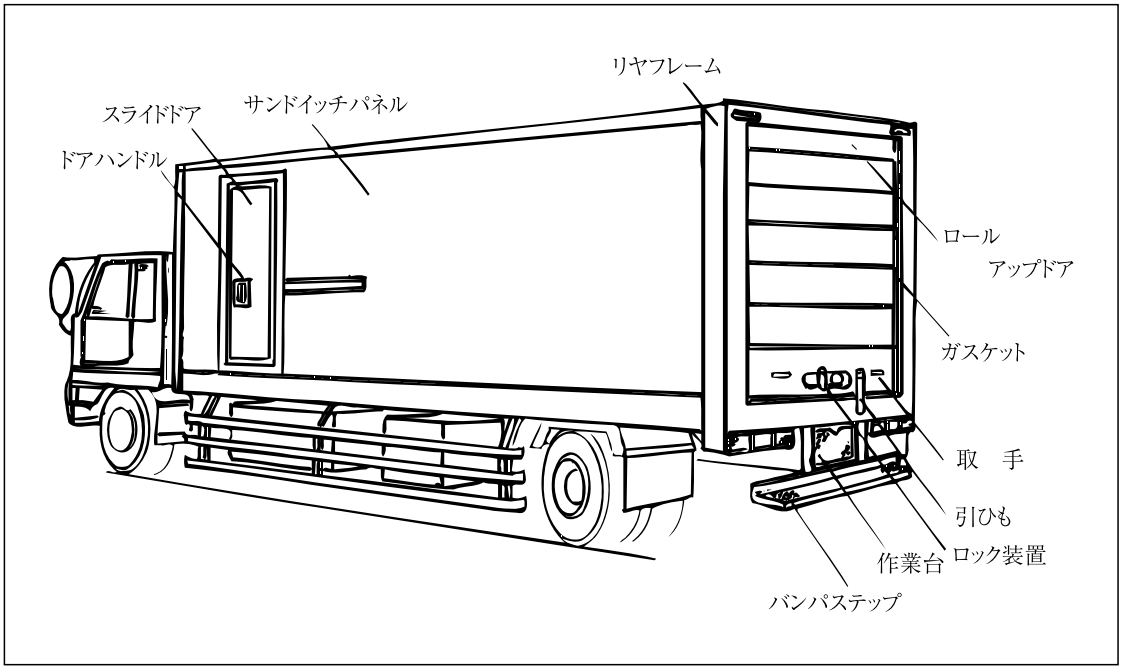
シャシから外したままにして置くと子供等が入って遊び場になり閉込められたり怪我をしたりする恐れがあります。



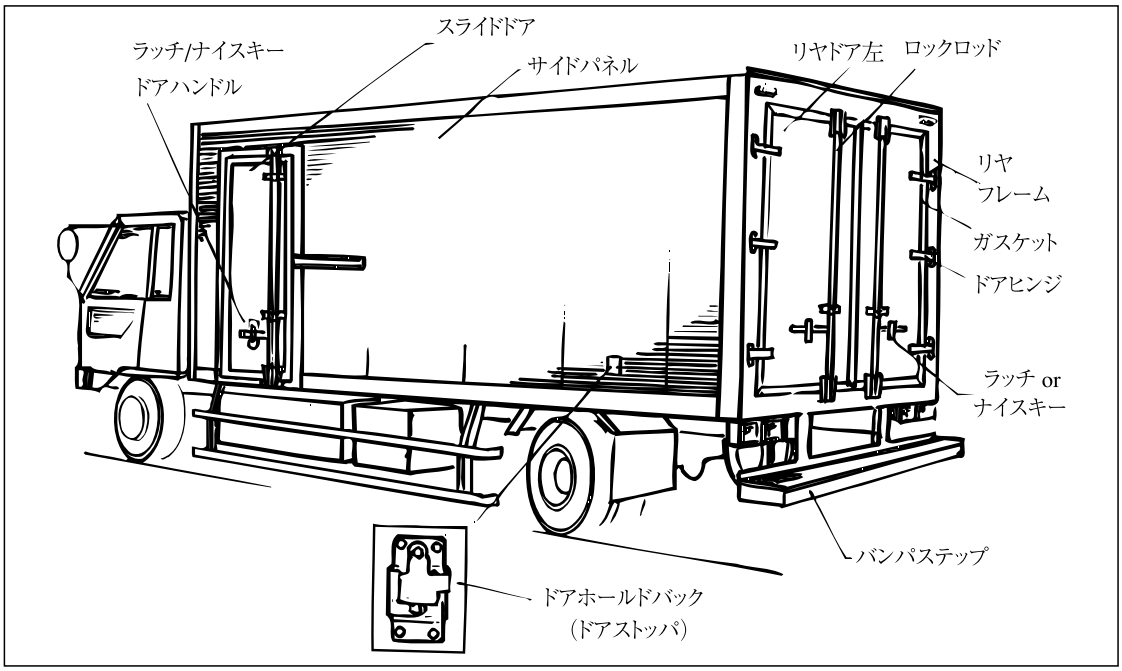
2. 各部の名称

1. 保冷バン

1. サンドイッチバン（E・G系）

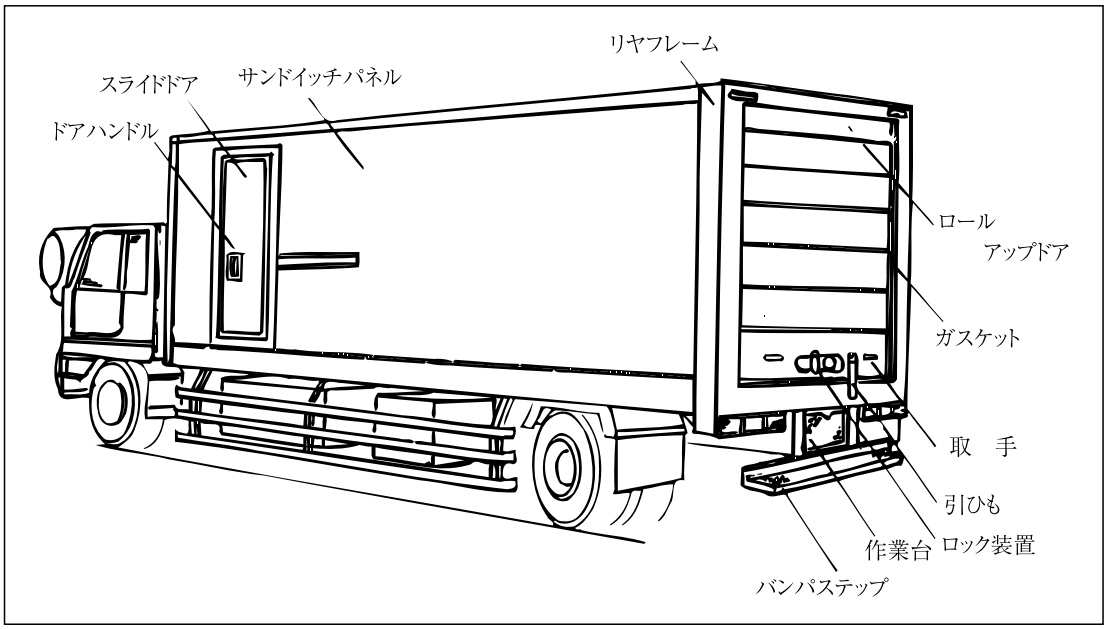


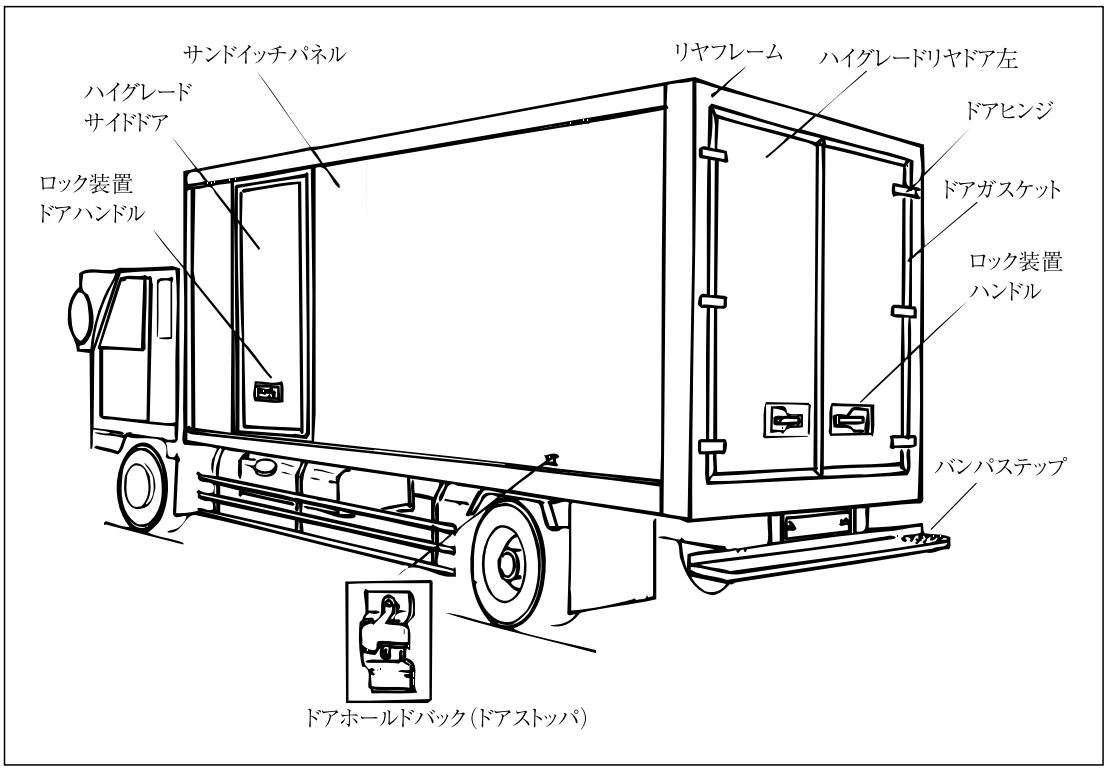
2. コルゲートバン（LB・LC系）



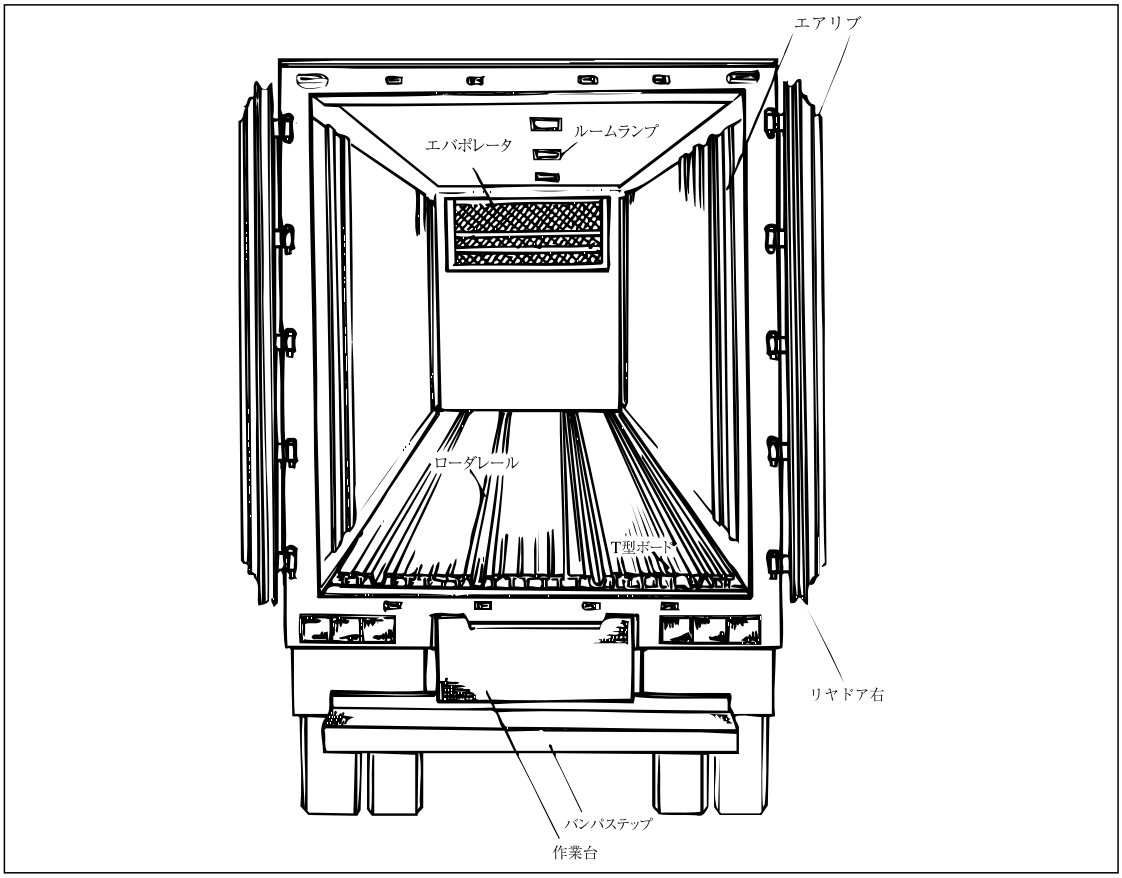
2. 冷凍バン

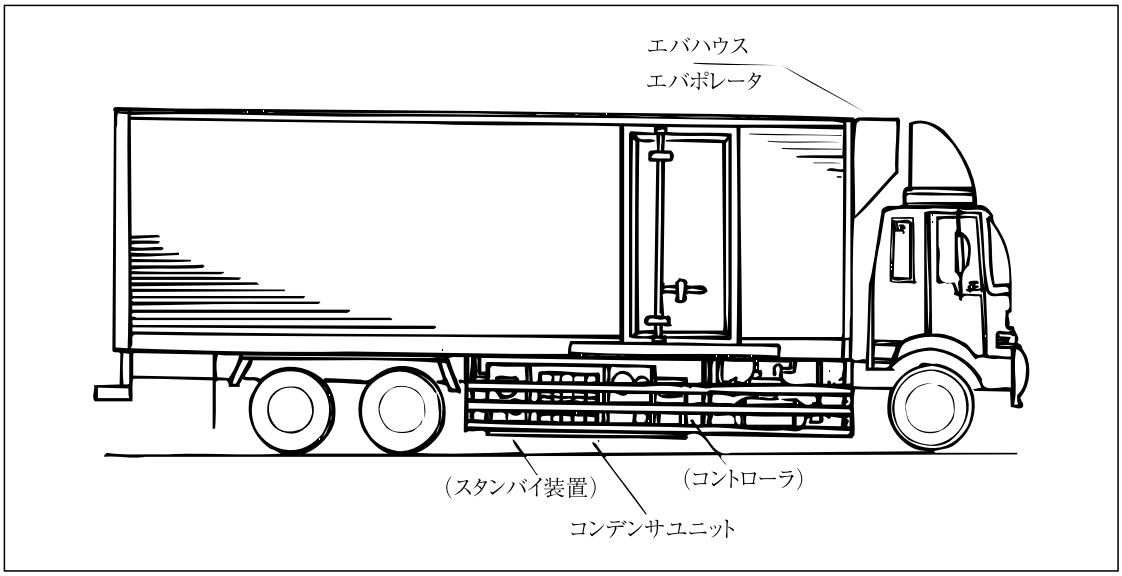
1. サンドイッチバン（E・G系）



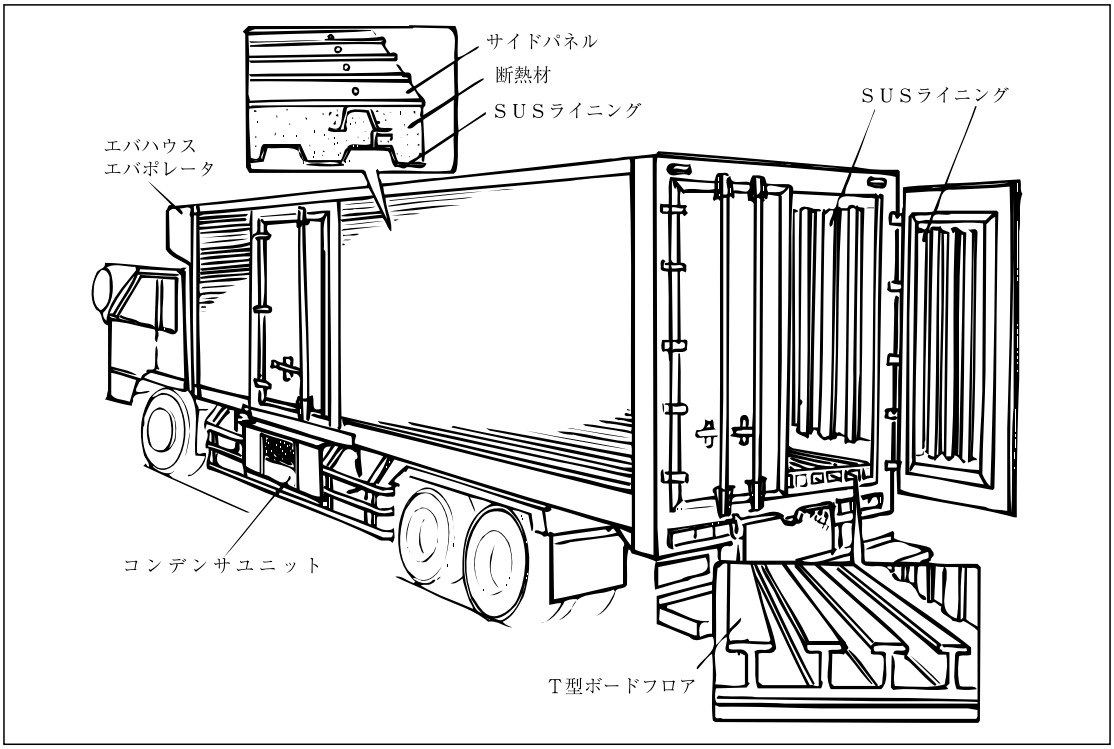


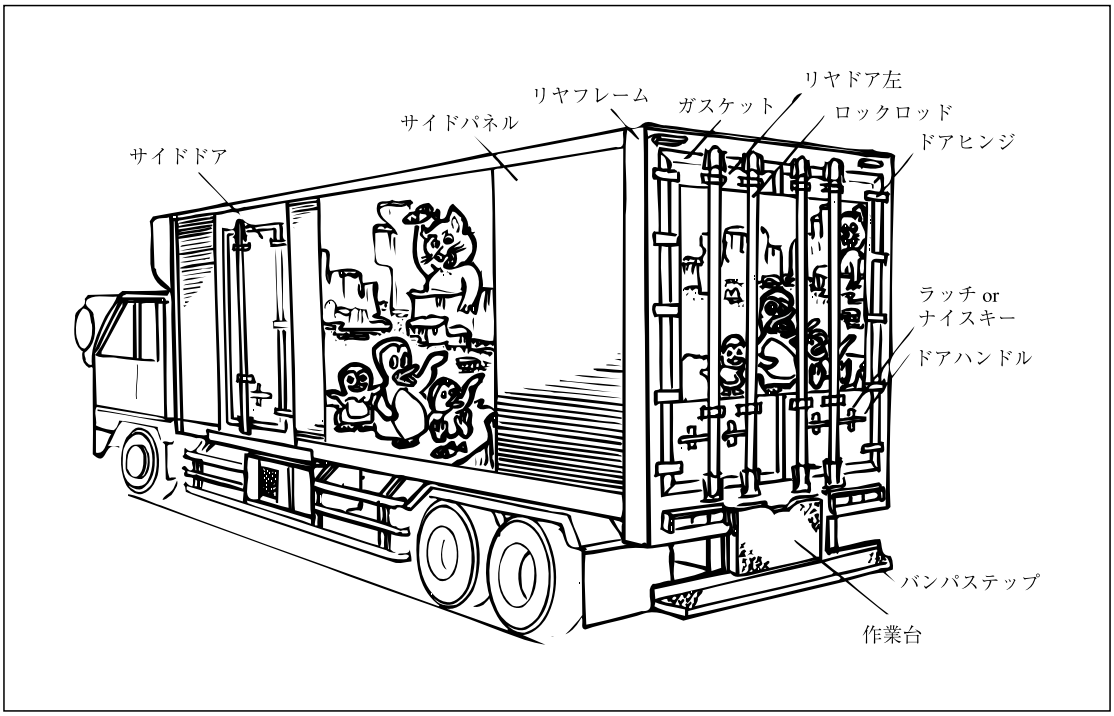
2. コルゲートバン（LB・LC系）





3. ザ★冷凍車（VH系）


サイドパネル
断熱材
ＳＵＳライニング
ＳＵＳライニング
エバハウス
エバポレータ
コンデンサユニット
Ｔ型ボードフロア

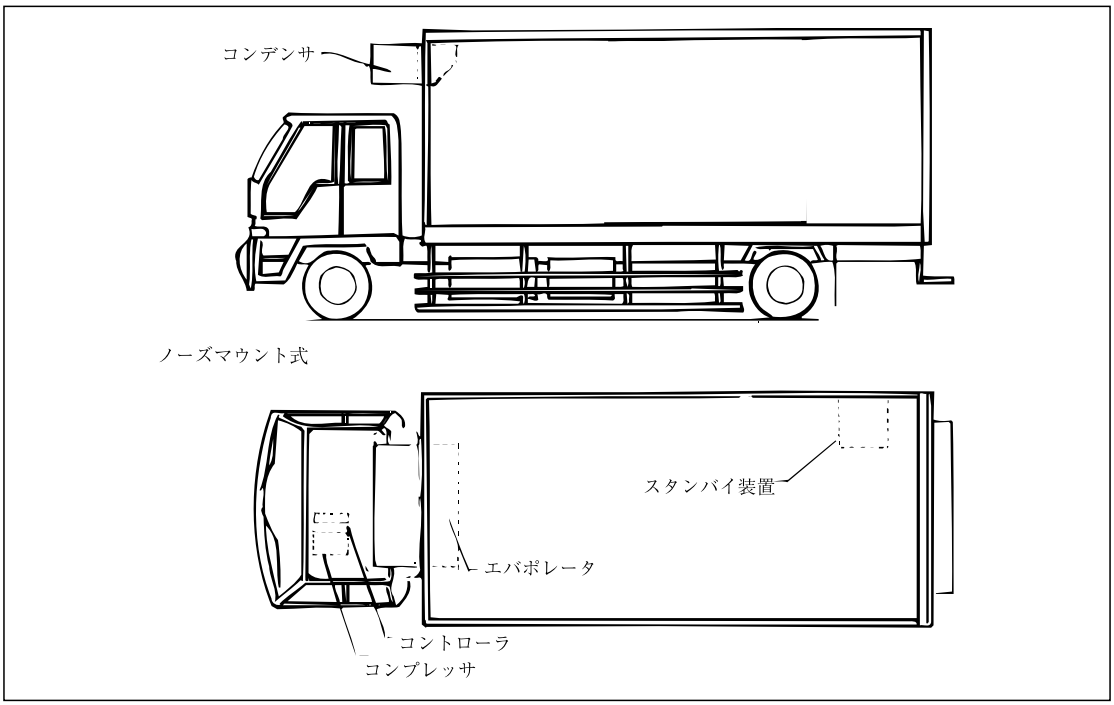

リヤドア左
リヤフレーム
ガスケット
ロックロッド
サイドパネル
ドアヒンジ
サイドドア
ラッチ or
ナイスキー
ドアハンドル
バンパステップ
作業台

3.　冷凍機器の配置図（参考例）

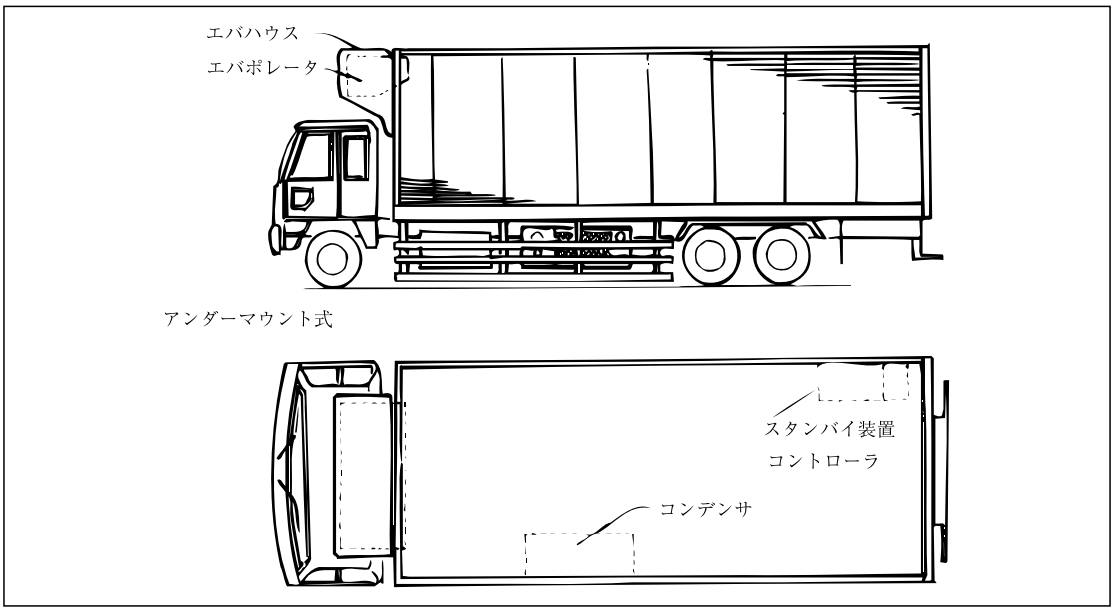
冷凍機器類の取付位置は機器類の型式・シャシ型式やボデーの型式・仕様によって異なりますので現車で確認してください。

1.冷凍ユニット

（1）ノーズマウント式

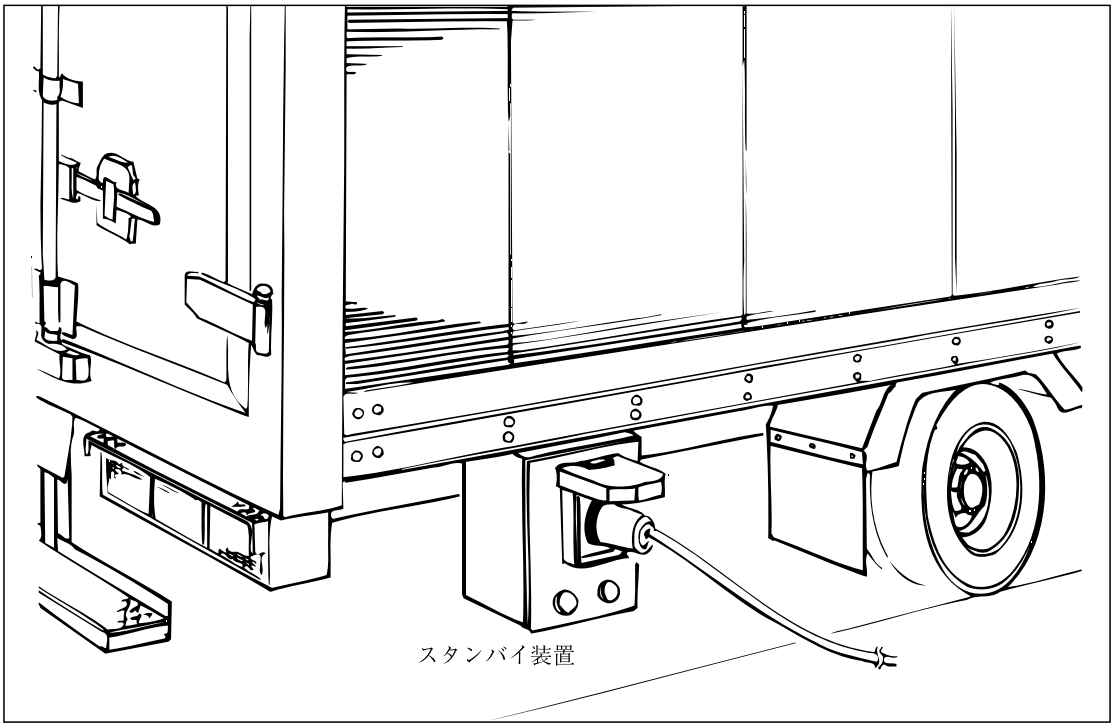


（2）アンダーマウント式

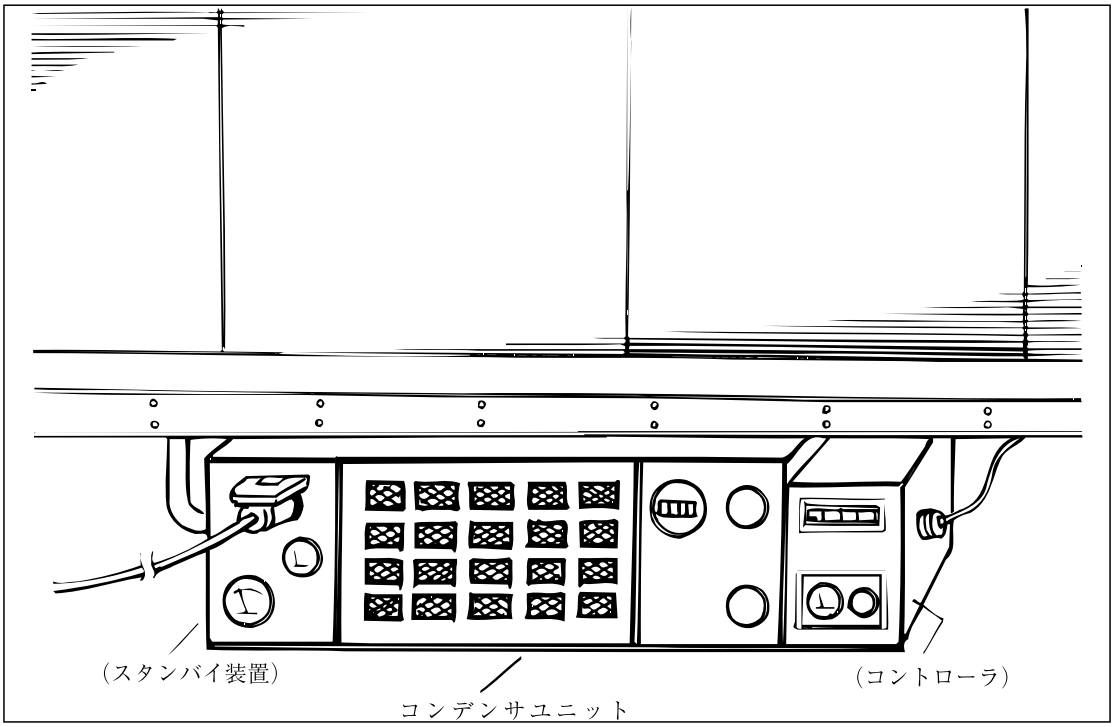


2.スタンバイ装置・コントロールユニット

（1）スタンバイ装置



（2）コンデンサーユニット（スタンバイ装置とコントローラ）

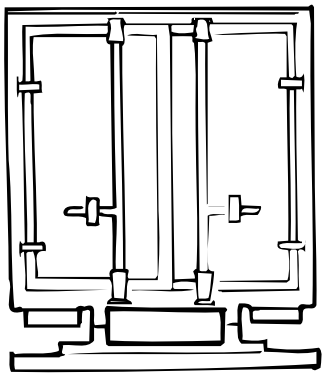


3. ド　ア　の　操　作

1. リアドア

1.観音ドア（両開タイプ）

リアの観音ドアは左から先に開けます。閉めるときは右から先に閉めてください。
なお、右から先に開ける仕様のものもあります。



知識

ハンドル及びラッチとブラケット

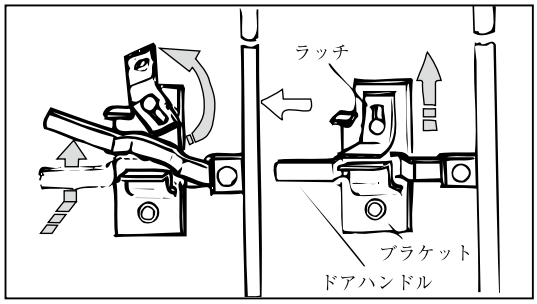
車型や仕様によって形状が少し異なる場合があります。

操作の方法は共通です。

(1)ラッチ式

■開け方

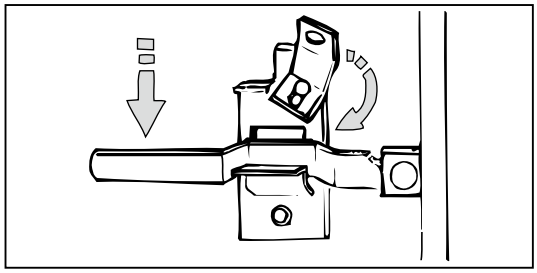
1) ラッチを上方にをスライドさせながら上げ、下端部が上になるように回転させストッパの位置で止めます。



2) ドアハンドルを握り、ドア方向へ押し込みながら上げると、ブラケットからハンドルが外れます。

3) ハンドルを回転させながら手前に引くと、ドアが開きます。

4) ドアを開けたらハンドルはブラケットに戻しておいてください。



⚠ 注意

ドアハンドルの格納

使用後のハンドルはブラケットに戻してください。

戻さないでドアを全開するとボデー側面などにハンドルが当り損傷させることがあります。

■ドアの固定

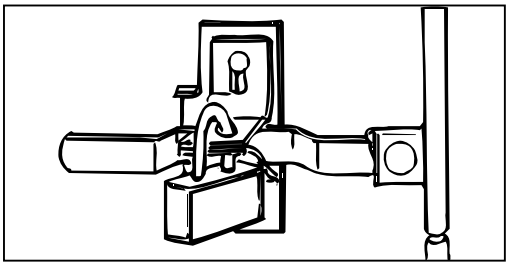
ドアを開けたときはドアストッパで固定します。
（ドアの固定方法・装置の使用方法は本章の1.4項(観音ドアの固定装置)を参照してください。）

■閉め方

開けたときの逆の手順で行います。

■施錠

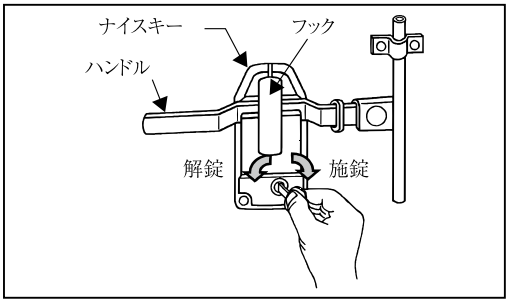
ラッチとブラケットの鍵穴を通して施錠します。市販の錠が使用できます。



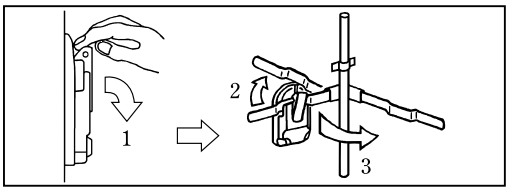
(2)ナイスキー（キー付き）式

■開け方

1) キーをシリンダ錠に差込み左に90度回転させると解錠できます。



2) キーを抜き取りナイスキーのフック上部を引くとドアのハンドルが開放されます。



⚠ 注意

ドアの開放と固定

強風の時やドアを大きく開ける時は周辺の人・物・交通の状況に気を付けてください。

開けたドアは固定してください。

⚠ 警告

ドアロック時の確認

ドアをロックするときはボデー内に人がいないことを確認してください。

万一、人が閉込められると危険です。

⚠ 注意

施　錠

車から離れるときはドアに必ず施錠してください。

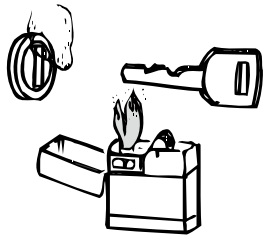
いたずらや盗難予防になります。

知識

ナイスキー

1.ナイスキー式にはキー無しのものもあります。施錠・解錠を除き操作は同じです。

2.冬季凍結により解錠できないことがあります。
融かしてから操作してください。

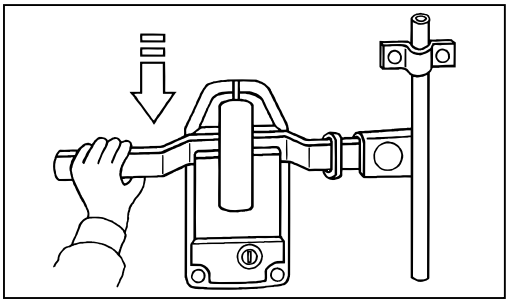


応急解凍の一例

やけどに注意

3) ハンドルを持ち上げて手前に引くとドアが開きます。

4) ドアを開けたらハンドルをナイスキーに戻し格納します。

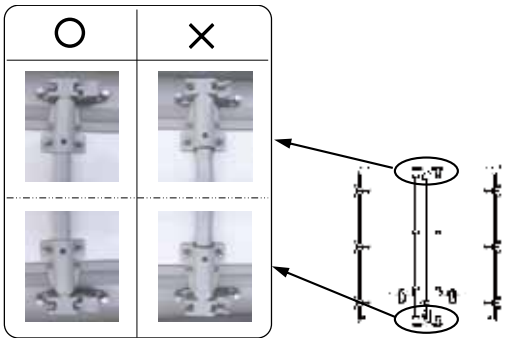


■ドアの固定

ドアを開けたときはドアストッパで固定します。
（ドアの固定方法・装置の使用方法は本章の1.4項（観音ドアの固定装置）を参照してください。）

■閉め方

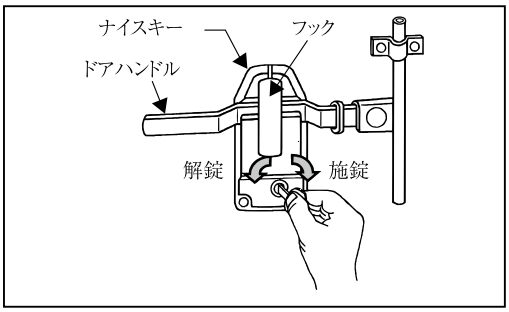
開けたときの逆の手順で行います。



※上記画像は左側を示す。

■施錠

キーをシリンダに差込み右に90度回転させると施錠されます。



▲ 注意

パネルの損傷

ドア開放後のハンドルはブラケットに戻してください。

戻さないでドアを全開にするとハンドルがサイドパネルに当たり損傷させることがあります。

知識

ナイスキーの手入れ

鍵の作動不良を防止するために、定期的にキー差込み穴よりスプレー式鍵穴用ドライタイプ潤滑剤を注入してください。

▲ 注意

ドアを閉じているときに、上下共カムとキーパーが確実にかみ合っていることを確認してください。
かみ合っていないと、密閉性が損なわれ塵や雨水等の侵入の原因となります。

⚠ ドアロック時の注意

ドアをロックする時、庫内に人がいないことを確認して下さい。

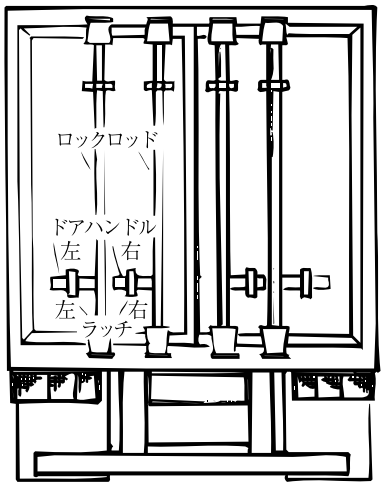
▲ 注意

施　錠

車から離れる時は必ず施錠してください。
いたずらや盗難予防になります。

(3) ダブルロックロッドラッチ式

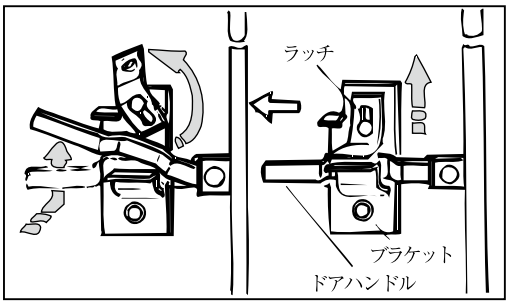
リアドアをロックするロッドがドアの片面に2本づつ装着されています。
ドア開閉用のハンドルを固定する金具はラッチです。



■開け方

1) 左側ドアの左ラッチを上方にスライドさせながら上げ、下端部が上になるように回転させストッパの位置で止めます。

2) 右のラッチも同様に操作します。



3) 左側ドアの左右のハンドルを左右の手で持ち同時操作をしてください。
- ◯ハンドルを握りドア方向へ押し込みながら上げるとブラケットから外せます。
- ◯次にハンドルを右方向に回転させながら手前に引き寄せドアロックを解除します。
- ◯ハンドルを手前に引くとドアが開きます。

知識

ハンドルの固定方法

ダブルロックロッドのハンドル固定方法にはナイスキー式のものもあります。

ナイスキーとハンドルの取扱は前項の（1）（2）と同じです。

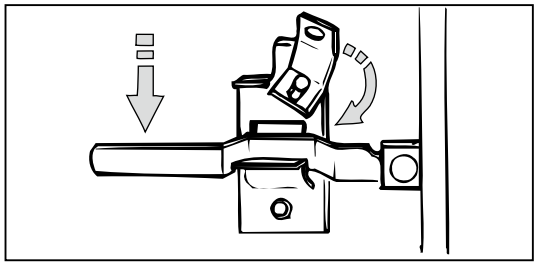
⚠ 注意

ダブルロックロッドの
ドアハンドル操作

ドア開閉時のハンドル操作は常に両手で同時操作をしてください。

ハンドルを片側づつ操作すると思いもよらない事故の原因になることがあります。

4) ドアを開けたらハンドルはブラケットに戻しておいてください。



⚠ 注意

ドアの開放と固定

ドアを全開したり強風時に操作する場合は周辺の人・物・交通の状況に気を付けてください。
開けたらドアストッパで固定してください。

■ドアの固定

ドアを開けた時はドアストッパで固定します。
（ドアの固定方法・装置の使用方法は本章の1.4項(観音ドアの固定装置)を参照してください。）

■閉め方

開けたときの逆の手順で行います。

⚠ 警告

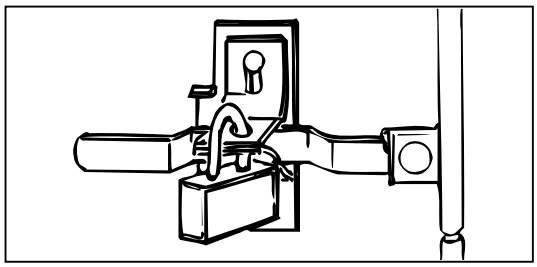
ドアロック時の確認

ドアをロックするときはボデー内に人がいないことを確認してください。

万一、閉じ込められると危険です。

■施錠

ラッチとブラケットの鍵穴を通して施錠します。市販の錠が使用できます。



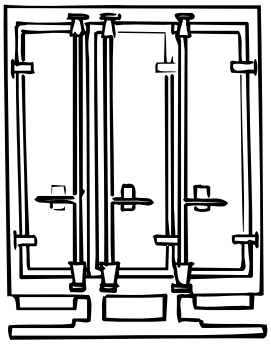
⚠ 注意

施　錠

車から離れるときは施錠してください。
いたずらや盗難予防になります。

2.観音ドア（3枚開タイプ）

このタイプのドアは3枚に分割されております。
通常は中央のドア（センタドア）を使用します。
ドアは右開きが普通ですが左開きのものもあります。
取扱方法は何れも共通です。



■開け方

開け方は両開きタイプと基本的に同じです。

（1）センタドア

1）ドアは右側に開きます。開いたら必ずドアハンドルをナイスキーまたはブラケットに戻しセットします。
2）次に右ドアの右下部にあるドアストッパにドアを固定してください。

（2）センタドア＋右ドア（2枚開の場合）

1）右ドアに固定したセンタドアを外します。
2）センタドアを押さえながら右ドアのハンドルを操作しドアロックを解除します。
3）センタドア＋右ドアを静かに開いて270度回転させボデー右側のドアストッパに固定してください。

■ドアの固定

ドアを開けた時はドアストッパで固定します。
（ドアの固定方法・装置の使用方法は本章の1.4項（観音ドアの固定装置）を参照してください。）

■閉め方

開けた時の逆の手順で行います。

⚠ 注意

ドアハンドルの格納

ドアを開けたらハンドルをナイスキーまたはブラケットに戻してください。
戻さないでドアを全開するとハンドルでドアやボデー側面を損傷させることがあります。

知識

3枚ドアの使い方

積荷・荷姿・重量・温度管理・荷扱いの人数などに合わせ適宜2枚・3枚開きにしてお使いになると荷扱いがスムーズに行えます。

⚠ 注意

開けたら固定してください

センタドアは軽量です。小さい力（風力・人力等）でも動いたり煽られたりします。
固定しないと挟まれたりドアやサイドのパネルを損傷することがあります。

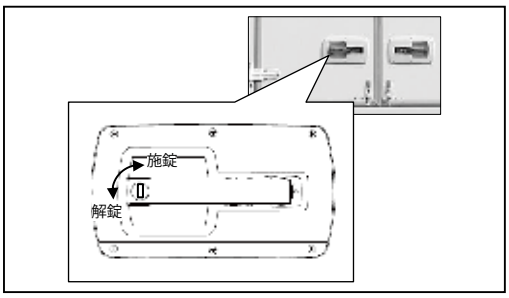
3.観音ドアハイグレード（両開タイプ）

ハイグレードドアは、表面は平坦ですっきりしています。開ける時は、左を先に開け、閉める時は右から先に閉めてください。

※仕様により右側から先に開けるドアもあります。その場合は逆の操作を行なってください。

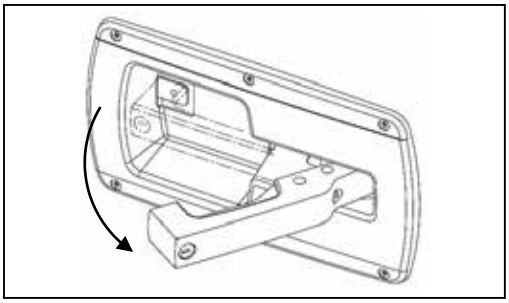
■開け方

⑴ハンドルのシリンダ錠にキーを差込み先に90度回転させて解錠し､キーを抜き取ります。



⑵ハンドルを持ち、裏側にあるストッパレバーを共に握るとロックが外れます。

⑶ハンドルを90度起立させます。



⑷起立させたハンドルを手前に引くとドアを開けられます。

⑸ドアを開けたらハンドルを倒して元の位置に戻し、ドアはストッパで固定します。

■ドアの固定

ドアを開けた時はドアストッパで固定します。

（ドアの固定方法・装置の使用方法は本章の1.4項（観音ドアの固定装置）を参照してください。）

■閉め方

⑴ドアストッパからドアを外してください。

⑵ハンドルを再び90度起立させ、そのままドアを押し込みながら閉めます。

⑶ハンドルを倒し、「カチッ」と音がするまで押し込んでください。

知識

ハイグレードドアの構造

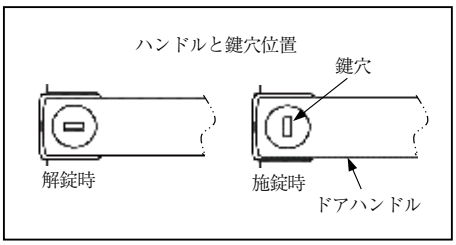
ドアをロックするロックロッドは、ドア本体に内臓されています

ドアの固定は、ドアフレームに付けられたキーパとロックロッド端部のカムにより行います。

⚠ 注意

ドアハンドルの戻し

ドアを開けた時は､ハンドルを倒し､元の位置にセットしてください。

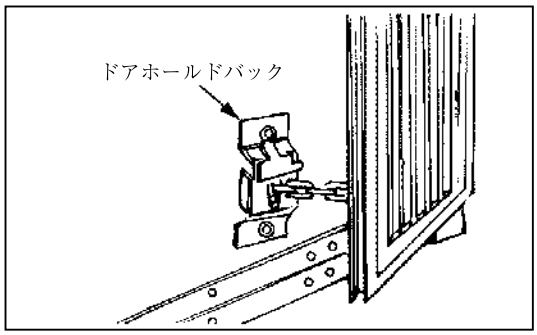


4.観音ドアの固定装置

リア両開・3枚開・ハイグレード両開の各観音ドアを開けた場合の固定と操作の方法は次の通りです。

(1)通常の固定

開けたドアを全開（270度回転）しボデー側面に取付けられているドアホールドバック（ドアストッパ）に固定します。



(2)半開時の固定

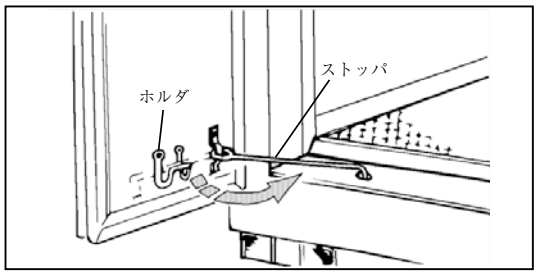
この装置は車の使用場所や荷役の都合等によりリアドアを半開（約90度開き）の状態で固定して使用する場合に用います。

1)簡易型（タイプ1）

■使用と格納

ドアを開き内側のホルダに格納されているストッパを外してドアフレーム側の受穴に差込み固定します。

使用後はホルダに格納してください。



知識

操作固定方法の説明

ドアの操作や固定方法は左側を基準にして説明してあります。

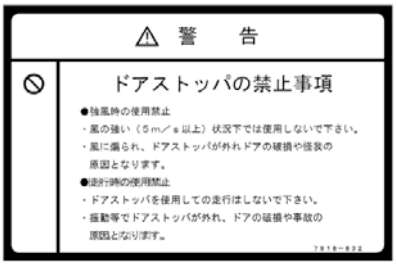
⚠ 注意

ドアハンドルの戻し

全てのドアハンドルはドアロックを解除後、元（解除前）の位置に戻してください。
ドアやボデー側面の損傷を防ぎます。

⚠ 警告

強風時の半開時ストッパの使用禁止


⚠ 警　告

ドアストッパの禁止事項

●強風時の使用禁止
・風の強い（5m／s以上）状況下では使用しないで下さい。
・風に煽られ、ドアストッパが外れドアの破損や怪我の原因となります。
●走行時の使用禁止
・ドアストッパを使用しての走行はしないで下さい。
・振動等でドアストッパが外れ、ドアの破損や事故の原因となります。

風力4以上のときはドアホールドバックをお使いください。
風力4とは
- 砂埃が立つ
- 紙片が舞い上がる
- 小枝が動く

状態です。
風力4以下でも突風には注意してください。

アドバイス

格納は確実に

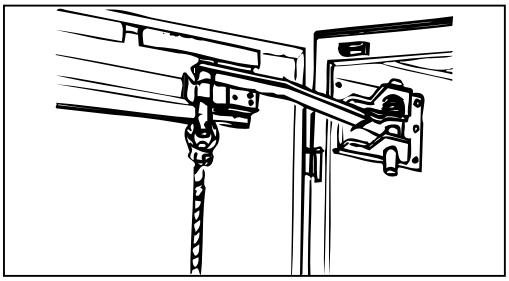
ストッパの格納はしっかりと行ってください。

しなかったり、外れたりするとドアが閉まらない場合があります。

2）ノッチ型（タイプ2）

■使用方法

この装置が取付けられているドアは通常90度の開閉で使用します。



■全開（270度開）にする場合は

◯ドアを閉じた状態から45度開きにする。
◯ストッパピンをノッチに合せロープを引く。
◯ストッパピンをノッチから外す。
◯ドアを外側に開きロープを離す。
◯ボデー側面のドアストッパに固定する。

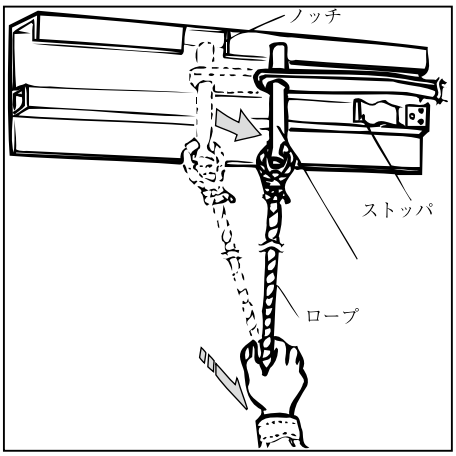
■閉じ方：全開方法の逆の手順で行います。

知識

通常時のドア開閉

このドアを90度開きで使用する場合は特別の操作は不要です。

ドアを開くと90度で止まります。



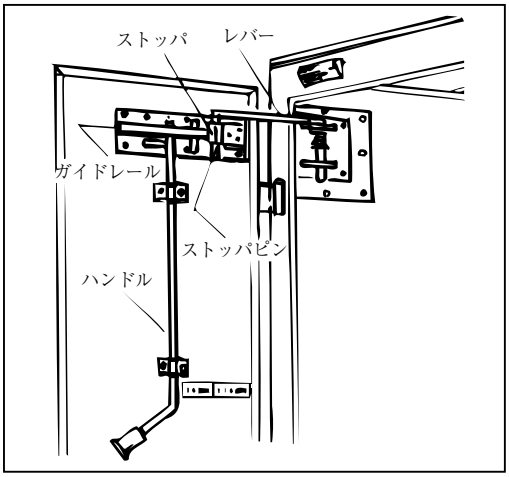
3）ハンドル型（タイプ3）

■使用方法

ハンドル型のドアストッパはハンドルの切換え操作によりドアの開閉を90度開きと全開（270度開）にすることができます。

■90度で開閉する場合

ハンドルを左に倒したまま開閉します。



▲ 注意

ハンドル型の使用方法（固定）

次のどちらかにしてお使いください
1.90度開放後にハンドルを右に切替えてドアを固定してください。

2.全開にして側面のストッパをお使いください。

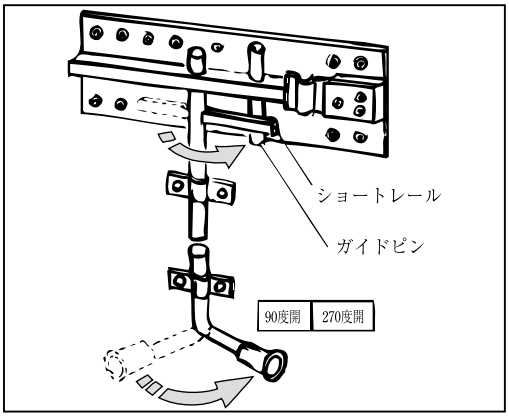
■全開（270度開）にする場合

◯ドアを開ける。

◯すぐに（開角度45度以内）ハンドルを右に切換える。

◯ドアを引続き開けて全開にする。

◯ドアストッパで固定する。



■**閉め方**：ドアストッパを外しそのまま閉めます。

知識

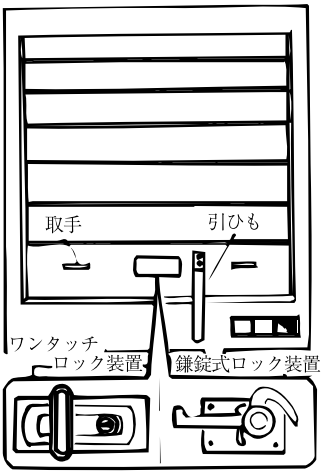
ドア全開：ハンドル型

ドアを全開にするもう一つの方法（90度開で使用中→全開に）

ドアを45度以上開→ハンドルを右に切換→ドア反転開方向へ→全開しドアストッパに固定します。

5.ロールアップドア

保冷・冷凍バンのロールアップドアはロック装置の形状と機能によりワンタッチロックタイプと鎌錠ロックタイプの2つがあります。



⚠ 注意

キーを抜取って下さい

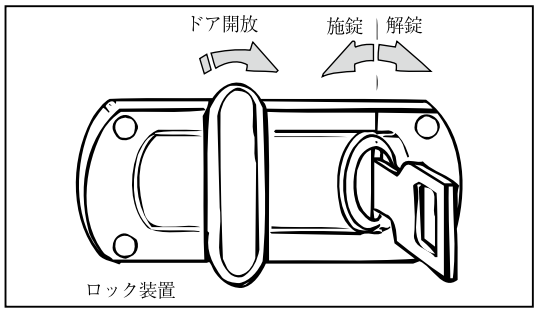
解錠したキーを付けたままロールアップドアを上昇させるとドアフレームに当たり損傷することがあります。

(1)ワンタッチロックタイプ

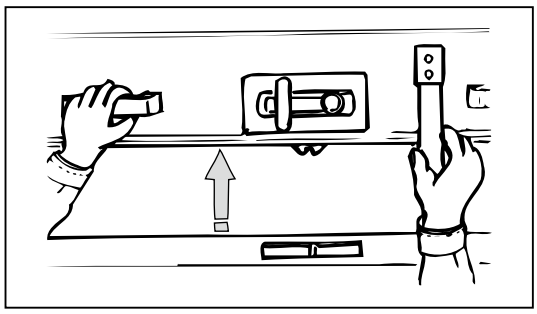
このタイプのロールアップドアはロックを解除すると自動的に上昇し、完全に閉じると自動的にロックされます。

■開け方

1) ロック装置のシリンダ錠にキーを差込み右に90度回転させ解錠します。
2) キーを抜取り取手を押さえドア開放「ツマミ」を右に回すとドアロックが解徐されロールアップドアが上昇し始めます。

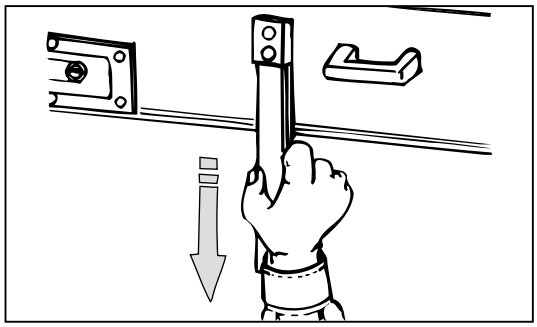


3) 引続き取手を押さえながら引きひもを握り静かにドアを上昇させ、取手・引きひもの順に手を離して全開します。



■閉め方

1) 引きひもを持ちドアを引下ろします。



アドバイス

しっかり押えて

ドアの巻上力は「初期強め」にしてあります。ドアを開けるときは取手を押さえ込む位強く握って置きます。引きひもも同じです。

⚠ 注意

静かに開けて下さい

ロールアップドアを勢いよく開放しないでください。

ドアケーブルが乱巻きになり開閉不能になります。

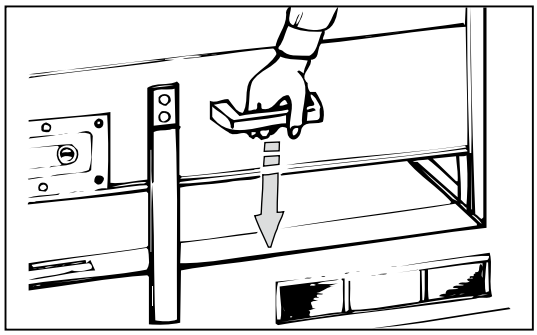
アドバイス

引きひものかみ込み

引きひもがロックの爪部分にかみ込まれないようにしましょう。

かみ込まれるとロック装置故障の原因になります。

2) 取手を持ち完全に閉じるまでドアを押下げると自動的にロックされます。



■施錠

キーをシリンダ錠に差込み左に90度回転させると施錠できます。

⚠ 注意

飛び降りないで

引きひもを持って床面やバンパから飛降りないでください。

引ひもが切れたり思わぬ怪我の原因になります。

⚠ 警告

ドアロック時の確認

ドアをロックするときはボデー内に人がいないことを確認してください。

万一、人が閉込められると危険です。

(2) 鎌錠ロックタイプ

鎌錠ロック装置の付いているロールアップドアはドアロックを解徐して押上げて開きます。またドアを閉めた後のロックは手動で行います。

⚠ 注意

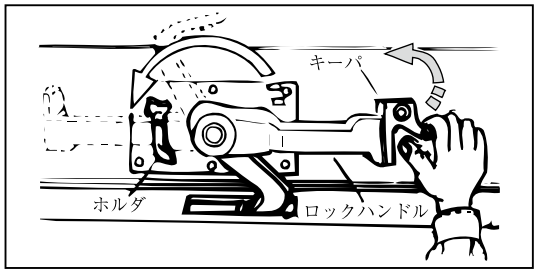
回転部に気をつけて

鎌錠ロック装置は回転部が多くあります。

手・指等挟まれないようにしましょう。

■開け方

1) キーパを押上げ90度左へ回転させます。
2) ロックハンドルを持上げ左へ180度回転させるとドアのロックが解除されます。



3) ハンドルはホルダにロックされます。
4) 取手を持ち押上げてドアを開きます。

⚠ 注意

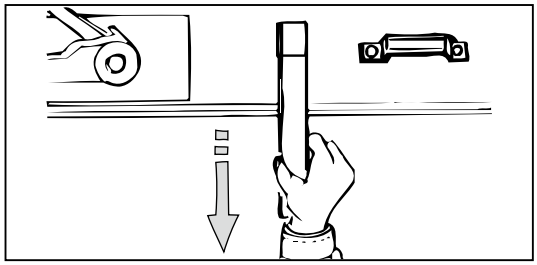
ドアを押上げる前に

ロックハンドルがホルダにロックされているか確かめてください。

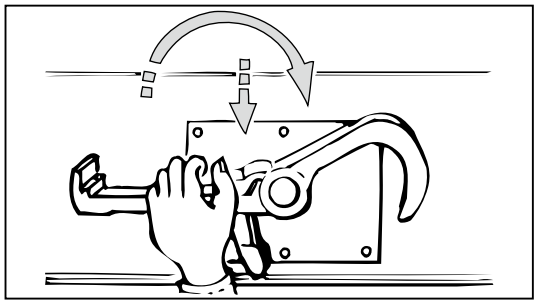
ロックしないでドアを上げるとハンドルでルーフを損傷したりドアが閉まらなくなることがあります。

■閉め方

1) 引きひもを持ちドアを引下ろしながら取手に持替えて閉めます。



2) ロックハンドルの内側にあるホルダを押下げホルダのロックを外します。
3) ハンドルを180度右に回転させるとドアがロックされます。



4) キーパを左下へ回転させながら降ろしハンドルのテールに合わせます。

⚠ 注意

飛び降りないで

引きひもを持って床面やバンパから飛降りないでください。

引きひもが切れたり思わぬ怪我の原因となります。

アドバイス

ロックの確認

ロックした後はハンドルとキーパの鍵穴位置が合っていますか？

合っていれば正しくロックされています。

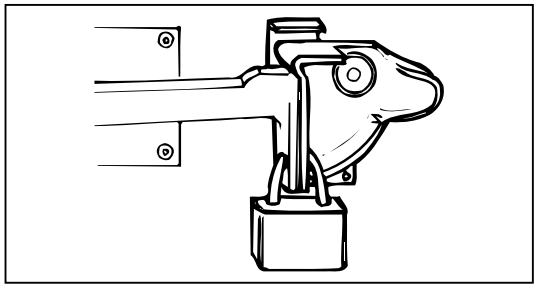
アドバイス

引ひもの交換

引ひもが切れますとドアの引下ろしが大変になります。引ひもが切れ始めましたら交換することを勧めします。

■施錠

ハンドルのテールとキーパ下部に錠前用の穴があり市販の錠が使用できます。



⚠ 注意

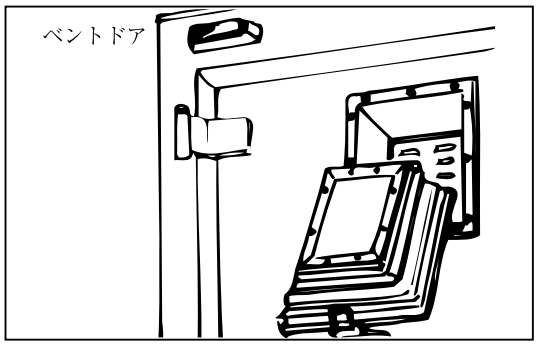
鍵を掛けて下さい

車を使用しないときや離れるときはいつも施錠しましょう。

盗難やいたずら防止に役立ちます。

6.ベントドア

ベントドアは冷凍・保冷バンのフロントとリア観音ドアの上部に取付けされます。



このドアは、野菜等の呼吸をする商品を輸送する場合に積荷の状況や温度、輸送時間等によりドアを開閉し温度調整をし、酸欠を防止して鮮度を保持するのに役立ちます。

■開閉と固定（使い方）

◯ロックを解除してドアを下方に向け静かに開けます。

◯ドアを開けたらリングをフックに掛けて固定してください。

◯ドアは積荷の種類や量、庫内外の温度輸送時間等により適宜開閉して使用します。

アドバイス

荒天時のベントドア

降雨・風塵等荒天時はベントドアを閉じてください。

⚠ 注意

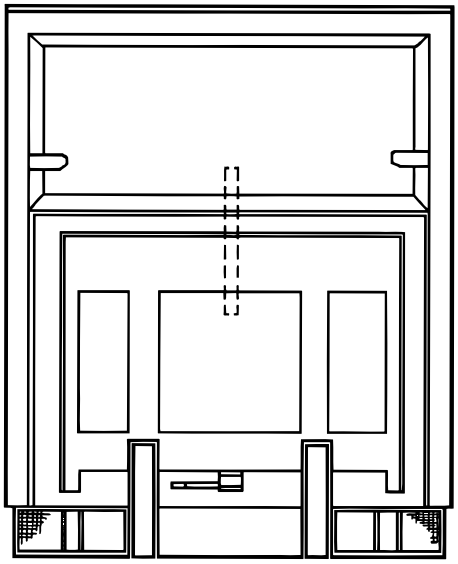
固定はしっかりと

開けたベントドアは確実に固定してください。

固定しないと車の走行中あおられてドアやヒンジが損傷する原因になります。

7.はね上げドア

はね上げドアは、フルゲートリフターとドアを組み合わせてあり、ドア部にはガズダンパを用いて開閉をしやすくしてあります。

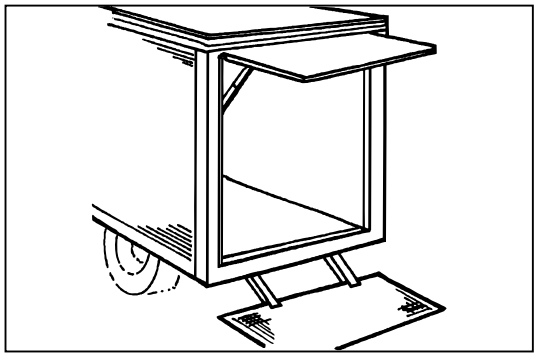


■開け方

1) フルゲートリフターのフロアプレートを先に開けます。

フルゲートリフターの取扱いについては別冊「取扱説明書」をご参照ください。

2) ドアの下端部を持ち静かに上方に押上げます。



■閉じ方

ドアの端部、又は引ひもを持ち静かに降ろして閉じます。

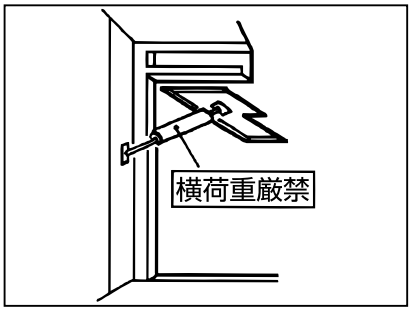
⚠ 注意

ガスダンパとドア

1.ガスダンパには荷物などをぶつけないでください。

2.ガスダンパに横荷重が掛かるとガス漏れのため、反力がなくなります。

3.ドアを開けるときは、手で押さえ、または引ひもを用い静かに上げてください。



知識

ガスダンパの反力低下

冬季は、ガス圧が低下してドアを開放したときすこし下がることがありますが故障ではありません。

⚠ 注意

ドアを開放したままの走行

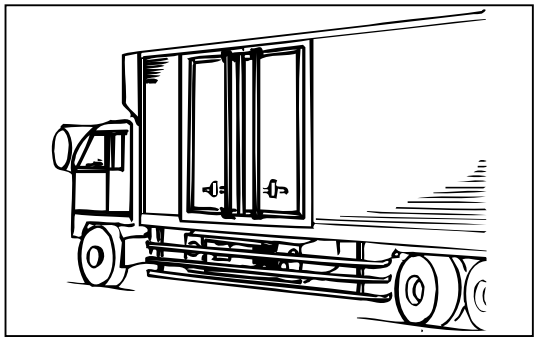
フルゲートリフターのみを閉じ、ドアを開放したままで車を走行させないでください。

2. サイドドア

サイド荷役を行う時は、サイドドアが便利です。保冷・冷凍バンのサイドドアは、両開・片開・スライド（引戸）開きの各タイプがあります。

1.観音両開タイプのサイドドア

ボデーのサイドにリアの観音ドアまたはハイグレード観音ドアと同じ形状のものを装備しサイドドアとしたものです。



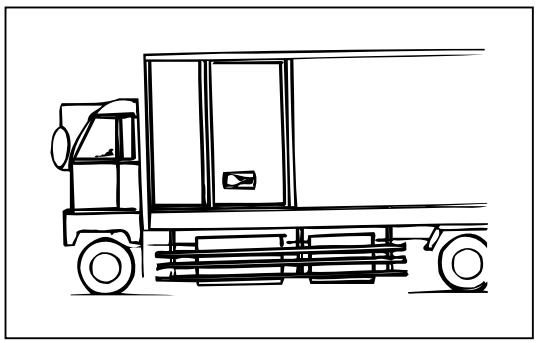
■操作取扱

リアドアに準じた操作取扱いとなります。
（但し90度開閉装置はありません）

2.片開きタイプのサイドドア

リアの観音ドア、ハイグレード観音ドア、それぞれの片側ドアと同じ形状のものをサイドドアとして装備したものです。

(1)片開きハイグレードサイドドア
(2)片開きサイドドア……があります。



■操作取扱

リアドアに準じた操作取扱いとなります。

⚠ 注意

ハンドルの格納

1.ドアを開けたらハンドルはラッチブラケット／ナイスキーに格納してください。

2.起立しているハイグレードドアのハンドルは元（倒して）元に戻してください。

⚠ 注意

開けたら固定

サイドドアを開けたらドアストッパに固定してください。

固定されていないと風や通過車両に煽られてキャブやボデーを損傷する原因になります。

⚠ 警告

ドアロック時の確認

ドアをロックするときはボデー内に人がいないことを確認してください。

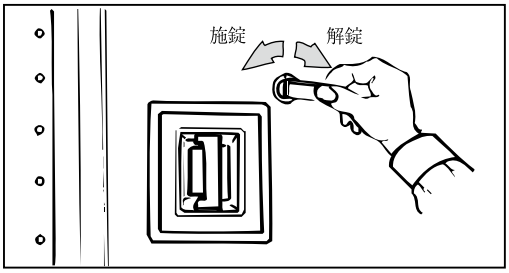
万一、人が閉込められると、危険です。

3.スライド開きタイプのサイドドア

ワンタッチタイプとNFタイプがあります。

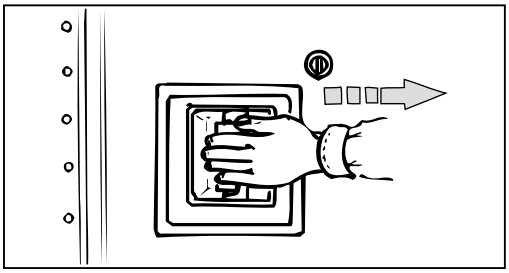
■解錠と施錠

キーをシリンダ錠に差込み左に回すと施錠、右に回すと解錠できます。



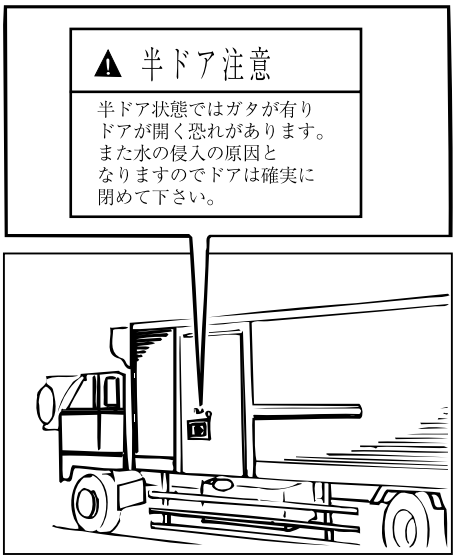
■開け方

1) 解錠したらキーを抜き取ります。
2) ハンドルを握りドアを開方向へ引きます。(ドアロックが解除されます)
3) ストッパが掛かる位置までドアを全開にしてください。



■閉じ方

1) ハンドルを握り、戸閉りの方向へ引きます。(ストッパが外れます)
2) 戸閉めは少し強めにします。
3) ドアが完全に閉ればロックが掛ります。



▲ 注意

全開にしてください

スライドドアは全開にすると自動的にストッパが掛かります。

ストッパが掛からないとドアが逆走し挟まれることがあります。

▲ 注意

サイドドアの施錠もお忘れなく

車から離れるときはサイドドアにも施錠してください。

いたずらや盗難を防ぎます。

▲ 注意

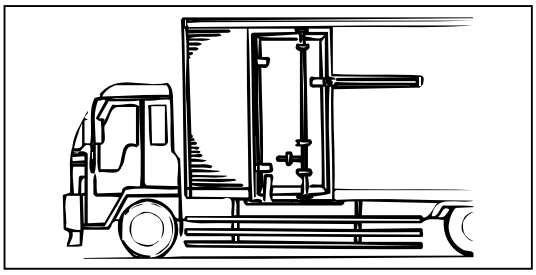
開閉はハンドルで

スライドドアの開閉はハンドルを持って行ってください。

ドア本体を持つと巻き込まれて怪我をすることがあります。

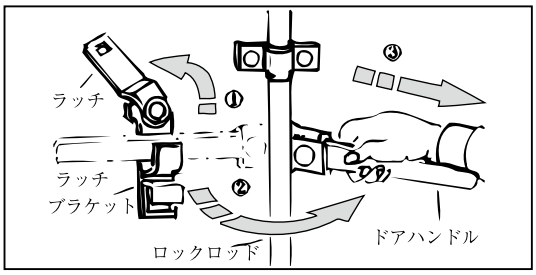
(2) NFタイプ

NFタイプのサイドドアはロックロッド式のスライドドアです。
ドア閉めの確実性・堅牢性等に優れています。



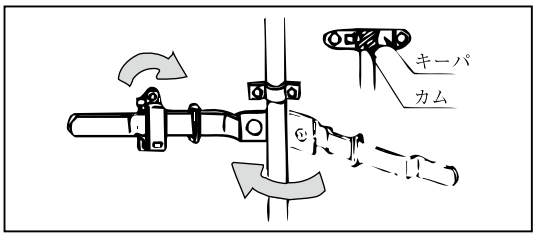
■開け方

1) ラッチを左上部方向へ回します。
2) ブラケットからドアハンドルを外し回転させながら手前に持ってきます。
3) ハンドルを手前からボデー側に倒しリアドア方向へ引くとドアが開きます。



■閉め方

1) ロックロッドを持ちゆっくり運転台方向へドアをスライドさせて閉めます。
2) ブラケットに納めてあるハンドルを外します。
3) 上下のカムとキーパのかみ合いを確かめハンドルを回しドアをロックします。
4) ロック後のハンドルはブラケットに掛けて固定します。



■施錠　市販の錠を取付けられます。

⚠ 注意

開閉はロックロッド
とハンドルで

NFスライドの開閉はロックロッドとハンドルを持って行ってください。

ドア本体を持つと巻込まれて怪我をすることがあります。

⚠ 注意

全開にして下さい

スライドドアは全開にすると自動的にストッパが掛かります。

ストッパが掛からないとドアが逆走して挟まれることがあります。

アドバイス

ドア開閉中の不円滑

開閉中にドアが渋くなったりつかえたりしたらハンドルを取出し前後に回転させたり動かしたりして開閉してください。

4. 非　常　用　装　置

非常用の警報装置は、保冷・冷凍バンに装備されています。
解錠装置は、サンドイッチパネルバン系と特定の装置を付けた保冷･冷凍バンに装備されます。

1. 非常警報装置

この装置は、万一、ボデー内に閉込められた場合に内部から運転室の非常ブザー又は車のホーンを鳴らし、外部に知らせる装置です。

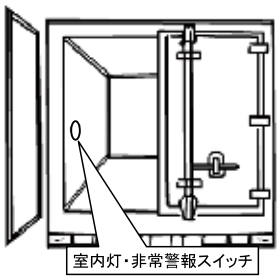
(1) 非常警報の鳴らし方

非常用スイッチ（赤）の上側を押すとON状態となり、鳴り続けます。

(2) ワンタッチスライドドア

ON状態（鳴り続いている）にある時にスイッチの下側を押します。

非常警報用スイッチの取付位置
↓
ボデー内左側後方にあります。



2. 非常解錠装置

非常解錠装置は、万一、ボデー内に閉じ込められた場合、内部からドアを開けて脱出する装置でリア及びサイドの各ドアに装備されます。

アドバイス

非常用装置を確かめてください

万一のこともあります。
非常用の各装置は、あらかじめ操作法・取付位置を習得・確認しておいてください。

⚠ 警告

非常警報（ブザー・ホーン）

万一、ボデー内に閉じ込められた場合は、非常用スイッチを押して警報（ブザー・ホーン）を鳴らし庫外に知らせます。

知識

非常用スイッチON－OFF

非常用ブザー･ホーンは､スイッチを切らないかぎり鳴り続けます。

⚠ 警告

非常時の解錠
（非常解錠装置取付車のみ）

万一、ボデー内に閉じ込められた場合は警報を鳴らすと共に非常用の解錠装置でドアを開けて外に出てください。

車両が走行中は停車を待つ･安全に十分配慮してドアのみ開ける等、実状に合わせ対応してください。

1.非常解錠装置がリアドアに装備される型式等

ハイグレードサイドドア又はワンタッチロック付きのロールアップドアを装着した保冷・冷凍バンに装備されます。

リアドアの非常解錠装置取付位置		
ハイグレードリアドア	→	中央下部
ロールアップドア	→	中央下部
非常開付きナイスキー	→	中央下部

(1)ハイグレードリアドア

■非常時の開け方（非常解錠）

○室内灯を点灯して装置を確認してください。
○安全押棒のストッパピンを抜いてください。
○安全押棒の中心部を親指で強く押し込んでください。
○ドアロックが解除されます。
○ドアを内部から押開けて外へ出てください。

(2)ロールアップドア

■非常時の開け方（非常解錠）

○室内灯を点灯して装置を確認してください。
○装置右側の切欠穴のレバーを押してください。
○レバーを押すとドアが上昇を始めます。
○ドアを開け、外へ出てください。

(3)非常開付きナイスキー装着のリアドア

■非常時の開け方（非常解錠）

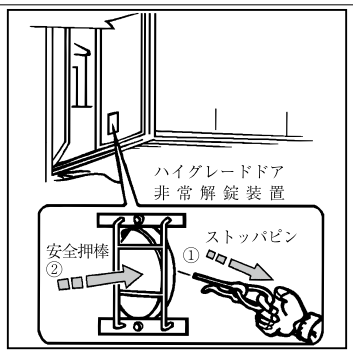
○室内灯を点灯して装置を確認してください。
○フタを右又は左に回し、フタを開けてください。
○押しボタンを親指で奥まで押します。
○ドアハンドルが解除されます。
○ドアを押して開けてください。
開かない場合は、ステッカー部分を足で何度も蹴って開け、外へ出てください。

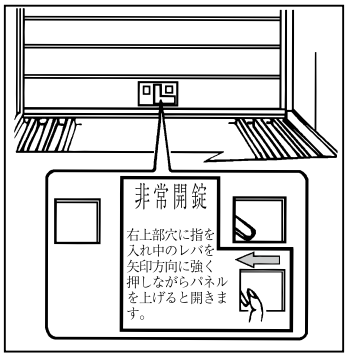
⚠ 注意

押棒は、押すだけ

ハイグレードドアの安全押棒は、引っ張ったり、突いたりしないでください。

引っ張りや突きは、解錠不良や損傷の原因になります。

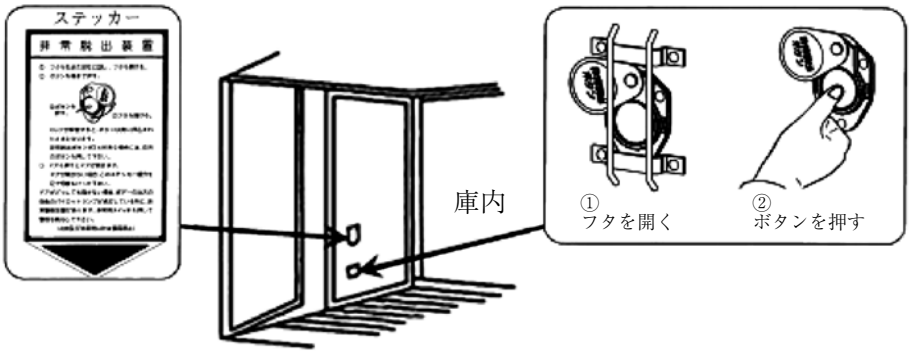




知識

積荷とドアパネル

非常解錠してドアを開ける時、積荷がドアパネルに干渉していると開かないことがあります。



2.非常解施錠装置がサイドドアに装備される型式等

ハイグレードサイドドア又はワンタッチロック付きのスライドドアを装着した保冷・冷凍バンに装備されます。

サイドドアの非常解錠装置の取付位置		
ハイグレードドア	→	下 端 部
ワンタッチスライドドア	→	中央下部

(1)ハイグレードサイドドア

■非常時の開け方（非常解錠）

○ハイグレードリアドアに準じた操作取扱いになります。

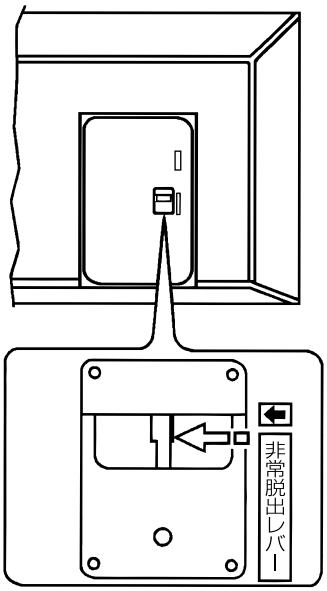
(2)ワンタッチスライドドア

■非常時の開け方（非常解錠）

○室内灯を点灯して装置を確認してください。

○ドア内側にあるレバーを矢印の方向に押し、ロックを解除後、取手を持ってドアを開けてください。

○外へ出てください。



ワンタッチスライドドア
非　常　解　錠　装　置

アドバイス

非常用装置を確かめてください

万一のこともあります。サイドドアの非常解錠装置は、あらかじめ操作法及び取付位置を習得及び確認しておいてください。

積荷の状態によっては手が届かず、室内灯が点灯できないこともあります。

⚠ 警告

非常時の対応
（非常解錠装置取付車のみ）

万一、サイドドア周辺に閉じ込められた場合は、積荷の状態で室内点灯や警報ができないことがあります。

直ちに非常用の解錠装置でドアを開け、外に出てください。

車両が走行中は、停車を待つ、ドアのみ開けて待つ等、実状に合わせて安全に充分配慮して行ってください。

アドバイス

非常開錠装置の特別装着

サイドドアには特別仕様で非常開付ナイスキーが装着される場合があります。

この場合の非常開の操作方法は、リアドアと同じですので、リアドアでの説明に従って非常解放を行ってください。

3.非常解錠装置の復元

非常解装置使用後は必ず使用前の状態に戻してください。

(1)非常開付きナイスキー装着のリアおよびサイドドア

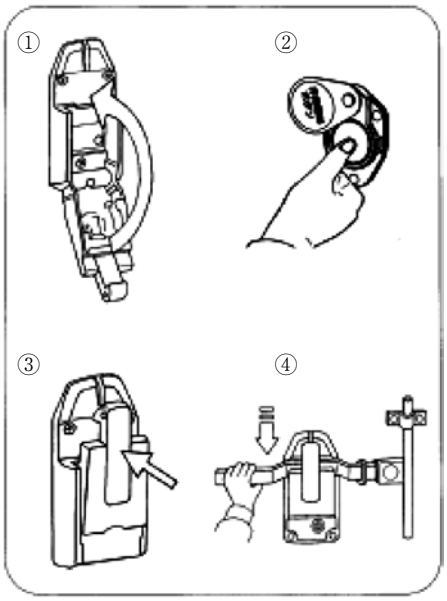
○ドアを開けた状態で外側の開いたナイスキーを上がる所まで持ち上げてください。

○内側の押しボタンのフタを開いてください。

○押しボタンを押しながらナイスキーを押し込んでください。(この時ナイスキーが押しボタンを押しながら元の位置に戻ります。)

○押しボタンのフタを閉じてください。

○ナイスキーにドアハンドルを格納し復元の確認を行ってください。



(2)ハイグレードドア

○ハンドルを元の位置に戻しストッパピンを装着してください。

(3)ロールアップドアおよびワンタッチサイドスライドドア

○使用後自動的に復元します。

4.非常用装置の点検

非常用装置はいつでも使用可能な状態になければなりません。このため非常用装置の日常点検は、必ず実施し使用可能を確認してください。

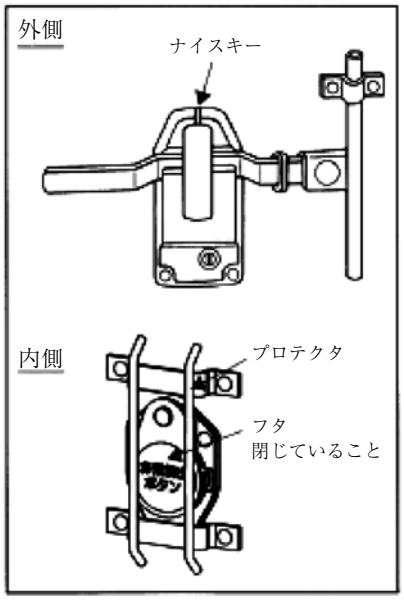
(1)非常ブザー・ホーンの点検

○日常点検は非常ブザー・ホーンが鳴る事を確認してください。

- 鳴らない場合は、早急に修理を行ってください。

(2)非常開付きナイスキーの点検

○日常点検は目視による外観点検を行い、装置のキズ・変形を確認してください。
キズ･変形がひどい場合は､非常開放を行って作動確認してください。



- 外側部の変形がひどく内側からボタンが押し込めない場合は、外側部を修理又は本体を交換してください。
- 内側部の変形で押しボタンのフタが開かない。プロテクタの変形による場合は、修理又は、プロテクタを交換してください。

  フタの変形による場合は、修理又はフタをアッセンブリ交換してください。

◯3ヶ月毎の点検は庫内側から、非常開放操作を行って作動を確認してください。

(3) ハイグレードドアの点検

◯日常点検は目視による外観点検を行い、装置のキズ・変形を確認してください。

キズ･変形がひどい場合は､非常開放を行って作動確認してください。

- 安全押し棒を押しても開放しない場合は、修理してください。

◯3ヶ月毎の点検は庫内側から、非常開放操作を行って作動を確認してください。

(4) ロールアップドア及びワンタッチスライドドアの点検

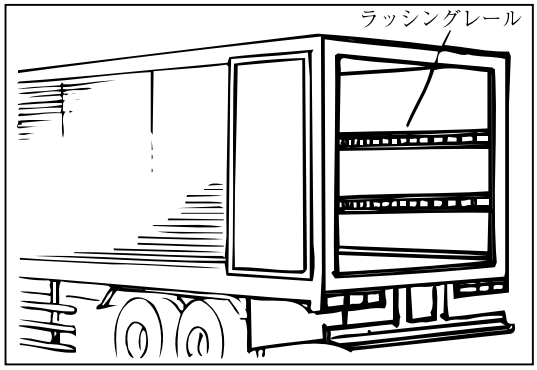
◯日常点検は庫内側からレバーを押し、作動確認を行ってください。

- レバーを押しても作動しない場合は、修理してください。

5. 緊　締　装　置

1. ラッシングレール

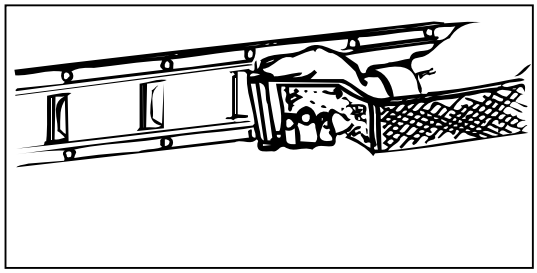
緊締装置の基本的システムでラッシングベルトや角型ビームとの併用で積荷を固定します。



2. ラッシングベルト

■掛け方

ベルトの端末金具のツメを押さえ金具の上部をレールに掛け次に下側を掛けます。



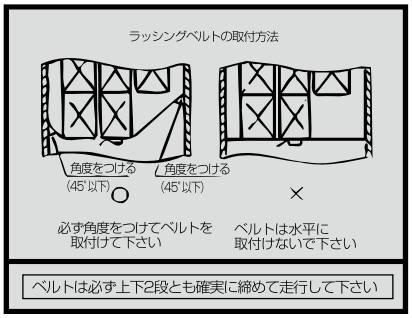
■外し方

掛けたときの逆の手順で行います。

⚠ 注意

ラッシングベルトの使い方

1.取付方法



2.締付け

ラッシングベルトの締付力は200kgf以下にしてください。

3.ベルト掛け禁止の箇所

サイドドア部にあるラッシングレールにはベルトを掛けないでください。

3項ではベルトに替えて角型ビームの使用が可能です。

アドバイス

ベルトの取付確認

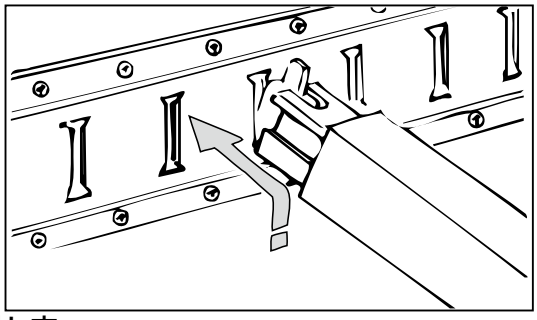
ラッシングベルトを掛けたら手で引いてベルトに緩みがないかを確かめてください。

3. 角型ビーム

■掛け方

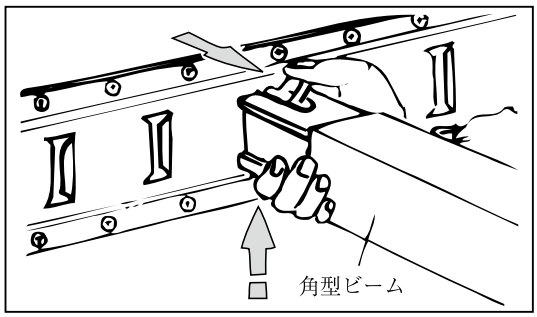
(1)角型ビーム端末金具の下側をラッシングレールに掛けます。

(2)ビームを水平に上げながら押込むと固定できます。



■外し方

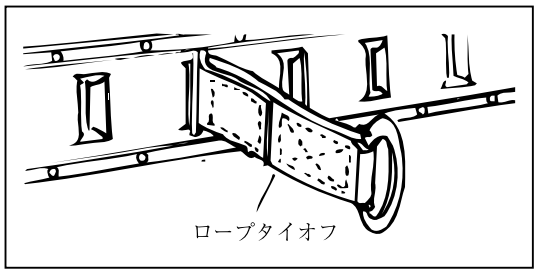
端末金具のつめを押さえ角型ビームを上げながら端末を手前に引くと外れます。



4. 端末金具

(1)ロープタイオフ

ラッシングレールに取付けロープ使用時に用います。



知識

角型ビームの用途

角型ビームは簡易2段床・カゴ車ダンボール・定型貨物の固定に適しています。

⚠ 注意

手指を挟まれないように

角型ビームの脱着時などに手指を挟まれないようにしてください。

知識

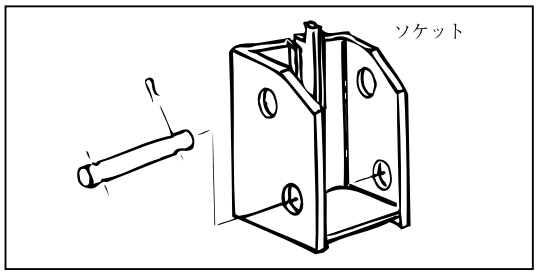
ロープタイオフの使用数

1.ロープタイオフはボデーの大きさにより6～18個位の使用数が便利です

2.ロープタイオフを使用しないときはレールに付置きができます。

(2) ソケット

左右のラッシングレールに取付け、角材を渡して角型ビームと同様に使います。



知識

ソケットの用途

ソケットは通常単体では使用しません。
角材との組合わせで行うことが多く、角型ビームと同様の用途に向きます。

6. 床　搬　送　装　置

保冷・冷凍バンの内部でパレットや定型貨物の荷役をスムーズに行う装置で手動式のものと動力式のものがあります。
床搬送装置や機器をお使いになる場合は、地盤のしっかりした平らなところでお使いください。

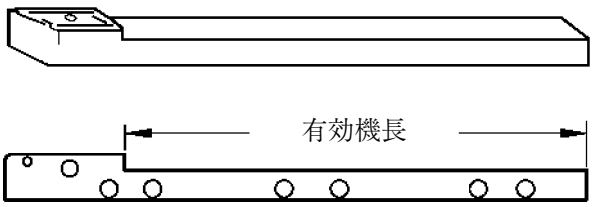
知識

床搬送装置

1.手動式
2.動力式
（1）油圧
（2）エアー
（3）電力
を利用したものなどがあります。

1．手動式（ローダ）

ボデー内に通常2列又は4列のレールを敷設し、そのレール内をローラ付きの細長い台車状運搬具にパレット化した積荷を載せて、人力で移動させる装置です。



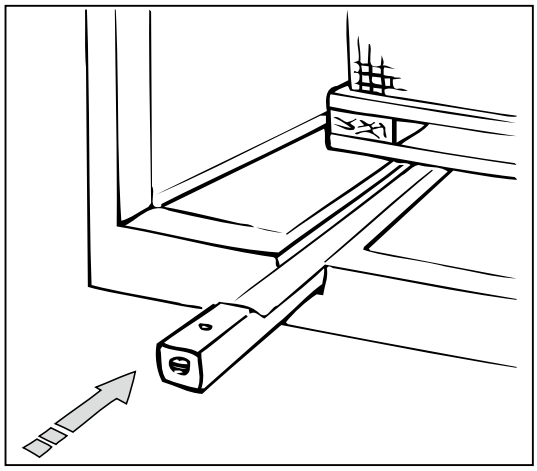
ローダ概略図

(1)ローダ

■代表的な使い方

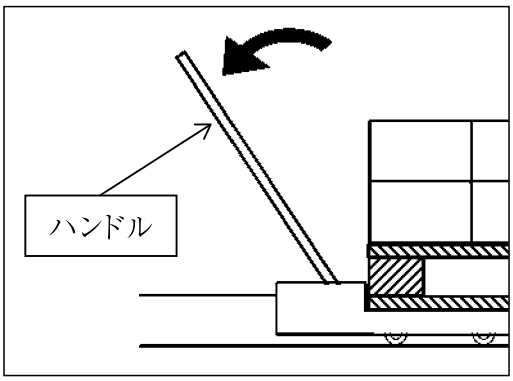
1)積荷の位置とローダ

荷物を２本のレールに均等に掛けて積込みます。次にローダを左右のレールに差し込みローダのヘッドが積荷に当たるまで前進させます。



2)操作

左右のローダにハンドルを差込み2本共に手前に倒してください。
これで積荷が移動できる状態になります。



3)積荷の移動

積荷を移動させる前に荷物の状態を点検し荷崩れに気を付けましょう。移動は積荷を手押しで行います。

アドバイス

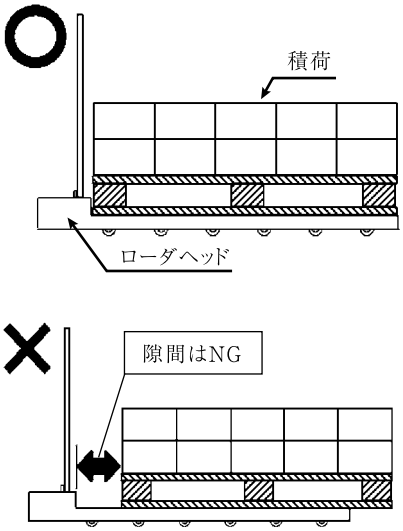
パレットの積込み

レールと直角で端部が平行になるように置くと移動時に荷物や側壁との接触がなくスムーズに移動できます。

⚠注意

ローダヘッドと
積荷の隙間無いように

ローダヘッドと積荷の間が開いた状態でリフトしないでください。（ローダヘッドと積荷が当たるように）



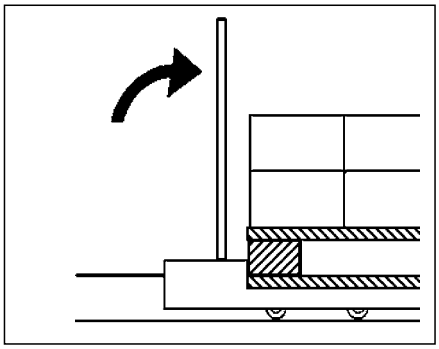
⚠警告

床搬送装置・機器の使用

床搬送装置・機器で荷役を行う場合は車両の水平・地盤・積み荷のコントロール・荷崩・転落などに充分配慮して行ってください。

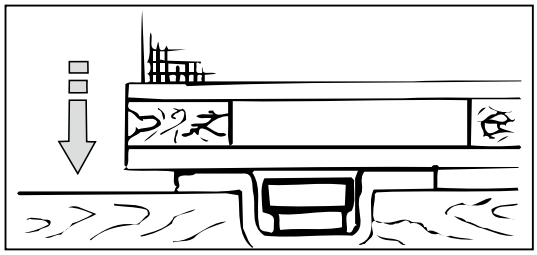
4）荷役終了後のローダの取出

左右のハンドルを垂直に立てるとローダの負荷が解かれて抜出せます。



○ローダの無負荷状態

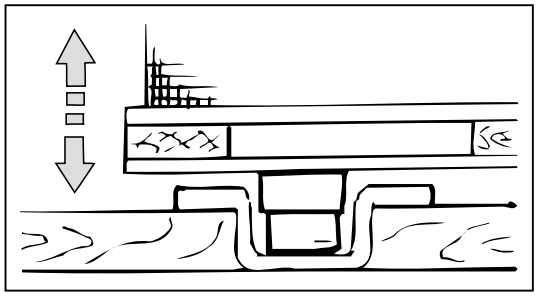
ローラ部が概略10 ～ 20ｍｍ位下って本体のなかに入ります。これによりローダの差込・抜取・一時休止等ができます。



○ローダの負荷状態

ローラ部が概略10 ～ 20ｍｍ位本体より突出します。

これによりローダのみの移動・積載移動等ができます。



5）荷役終了後の格納

荷役が終了した後は後部格納箱など所定の場所に収納します。

アドバイス

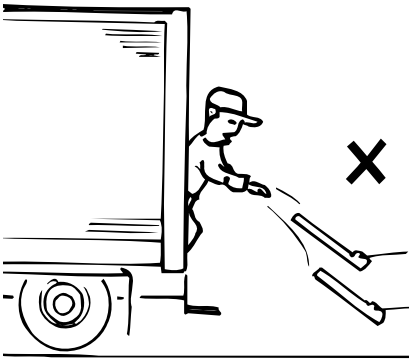
レールとローダの清掃

1.レールとローダはいつも清掃をしておきましょう。
2.荷物移動方向にじゃまになる物がないようにしておきましょう。

⚠ 注意

ローダの取扱

1.いかなる場合でもハンドルの押引でローダを移動させないでください。
2.ローダが急停止をしても荷崩れしないように積込んでください。



3.ローダは投げないでください。
4.積荷やローダのハンドル操作で手足を挟まれないようにしてください。

アドバイス

床搬送装置の取扱

取扱の詳しいことは各装置メーカー発行の取扱説明書をお読みください。

(2) ローラコンベア、ソロバンコンベア類

手軽な荷役機器として広く利用されています。回転部の形状によりローラ、ソロバンと言われ、また本体の形状により直線型・カーブ型などとも呼ばれています。
積荷や用途にあった機種を選定し正しくお使いください。

⚠ 注意

コンベアの取扱

1.コンベア類での荷役は荷物に手を添えて移動させてください。

2.コンベア類のローラ部に乗ると転倒します。

3.荷物や回転部に手足を挟まれないでください。

4.ボデー開口部で荷役を行うときは常に転落に気をつけてください。

2. 動力式

ボデーの床面に埋込んだローラを上下させたり床面を移動させるものがあります。
油圧、エア、電力を動力源にした装置があります。

アドバイス

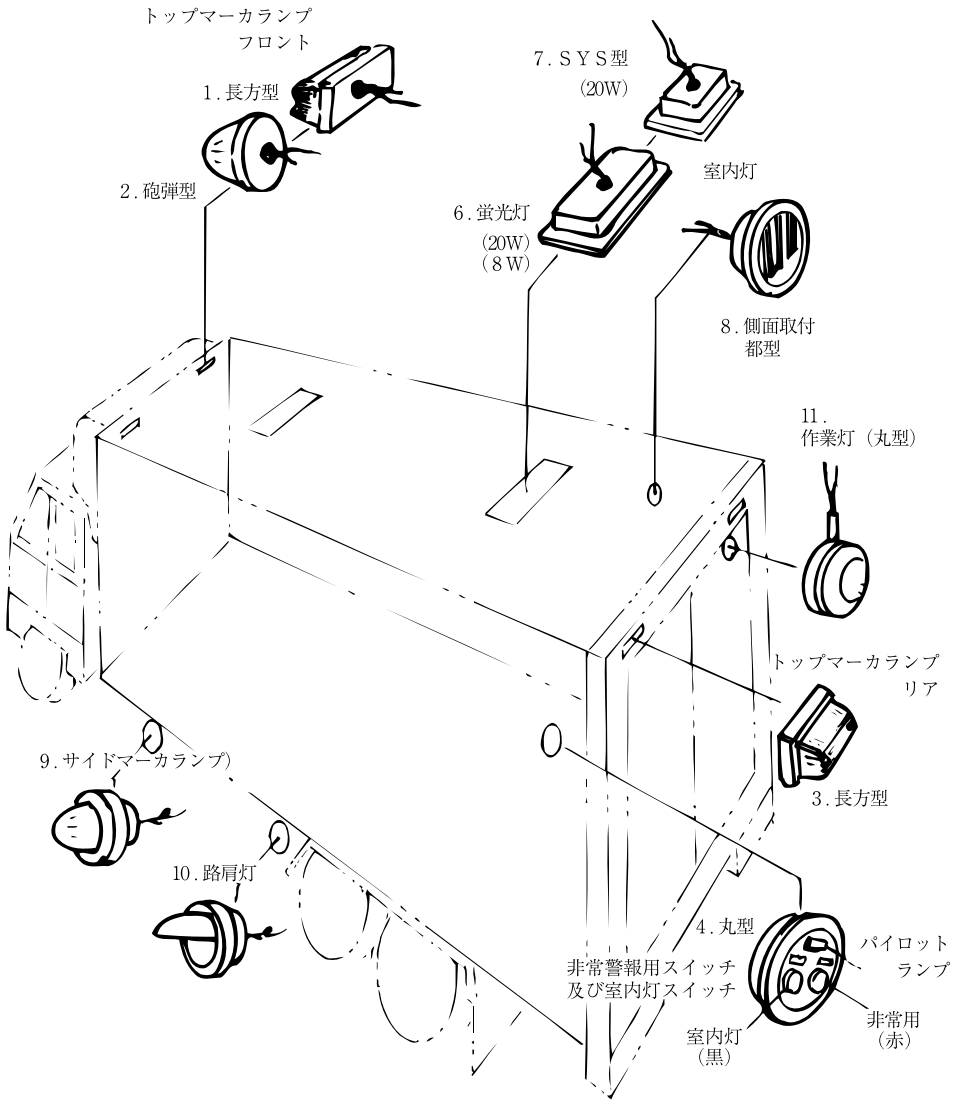
・動力式の荷役装置について

積荷やお車の使用条件に合せて正しくお使いください。

・機器・装置の細部について

取扱の細部については各装置・機器メーカーの取扱説明書をお読みください。

7. 電　装　品



1.非常警報用スイッチ　→　NO：4

非常用のスイッチはボデー内左側後方にあります。4番丸型の常時点灯している赤色の視認灯（パイロットランプ）の下にあります。

（1）非常警報（スイッチON″）

4番の非常警報スイッチ(赤)の上側を押すと運転室のブザーまたは車のホーンが鳴り続けます。

（2）警報の解除

ON″状態（鳴り続けている）のときにスイッチの下側を押します。

知識

スイッチのON・OFF

ＯＮ　：　スイッチの上側を押す
ＯＦＦ：　スイッチの下側を押す

操作は：非常警報・室内灯共通です

2.マーカランプ　→　NO. 1. 2. 3. 9

トップ・サイドの各マーカランプ1or2. 3. 9番はキャブ内の独立スイッチで点（消）灯します。

3.室内灯　→　NO. 6or7or8

室内灯の点（消）灯はNo.4の室内灯スイッチで行います。

（1）点灯　→　スイッチ（黒）の上側を押してON″にすると点灯し続けます。

（2）消灯　→　点灯状態でスイッチの下側を押すと消灯します。

4.室内作業灯　→　NO. 11

室内灯と連動するものはNo.4の室内灯スイッチで点（消）灯します。
独立スイッチ付きのものは独立スイッチで点（消）灯します。

5.路肩灯　→　NO. 10

サイドマーカランプと連動するものやキャブ内（外）独立スイッチで点（消）灯するものがあります。

⚠ 注意

消灯してください

1.室内灯、作業灯は使用後必ず消灯してください。
ドアを閉めても自動消灯になりません。
2.独立スイッチを用いたランプも同じです。
3.各ランプはエンジンを停止したまま長時間使用しないでください。バッテリ上がりの原因になります。

⚠ 注意

電装品の増設

冷凍バンには多くの電装品が装着されています。
工場で製造されるときはそれらの電装品についてバッテリ容量やハーネス、消費電力等が充分に検討され基準に適合する製品で出車されています。

電装品の増設については車両トータルでの検討が必要になります。

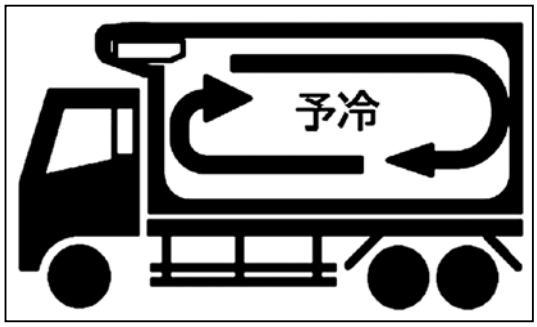
8. 輸送の準備と上手な使い方

保冷・冷凍バンの性能を十分に発揮し安全で効率的な輸送を行うのには製品について正しい知識と上手な取扱が必要です。
ここには、定温輸送などをするために大切な事項をまとめてありますので良くお読みいただきお仕事にお役立てください。

1. 輸送の準備

1.保冷・冷凍バンの予冷

品物を積込むまでに、予めボデー内の冷却を終了させてください。



2.保冷・冷凍バンの予冷温度

予冷温度は次表を目安にしてください。

積込品の温度帯℃		予冷温度	積込品温度
クーリング帯	5～15	10℃	輸送適温
チルド帯	−5～ 5	0℃	↑
フローズン帯	−5以下	−7℃	↑

3.積荷の予冷

積荷は予め冷凍設備で輸送適温以下まで冷却してください。

知識

冷凍・保冷バン（車）

1.冷凍バン（車）
断熱仕様のバンに冷凍装置を取付けた車です。積荷の温度を下げたり冷凍したりする機能はありませんが冷凍装置が付けてあるので適温での長距離輸送に適しています。

2.保冷バン（車）
基本的には冷凍車と同一の構造機能になりますが冷凍装置を付けていません。
冷却には、氷やドライアイスが用いられるので輸送は近距離が中心になります。
また、温度のコントロールはほとんどできません。

知識

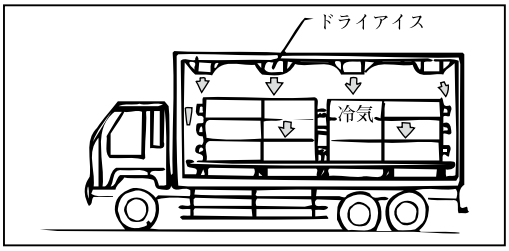
積荷の適温

積荷には鮮度や品質を維持するために適した温度があります。この温度をその積荷の適温といいます。

品目別輸送適温表（参考資料）はP.63にあります。

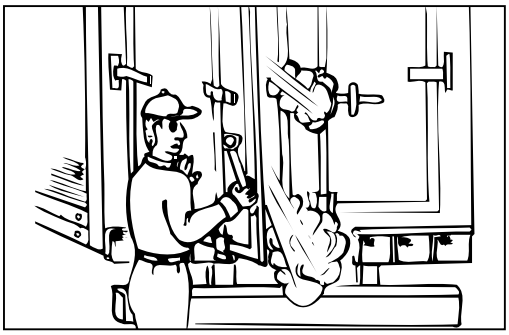
2. 荷物の積み方

積荷は予冷された物をバランスよく積みます。積込品は冷凍機やドライアイスの冷気がボデー内をスムーズに循環したり降下できるよう天井床面壁面などに隙間を開けて速やかに積んでください。



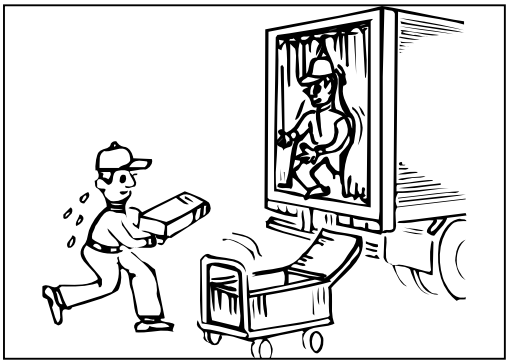
1.積込（荷卸）とドア操作

ドアを開けると外気がボデー内に流込み瞬間的に温度が上昇します。ドアの開閉と荷物の積込（荷卸）は素早く行って少しでも冷気の流出が防げるようにしてください。



（1）荷卸中の荷物

荷卸中の荷物が長時間、庫外に放置されないよう気をつけましょう。



⚠ 注意

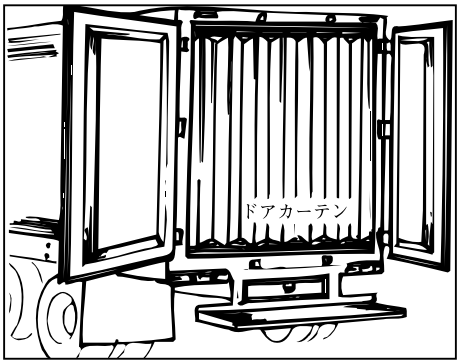
呼吸熱を発生する積荷

青果物などは冷気の循環が悪いと、中央部分の温度が上昇して鮮度や品質を損なう原因になります。

また、吹出口に近い積荷は冷気で傷みが発生するおそれがあるので予めシートでカバーするなどの処置が必要です。

（2）荷役中に車を離れるとき

一時車を離れるときは、ドアやカーテンをしっかりと閉めてからにしましょう。

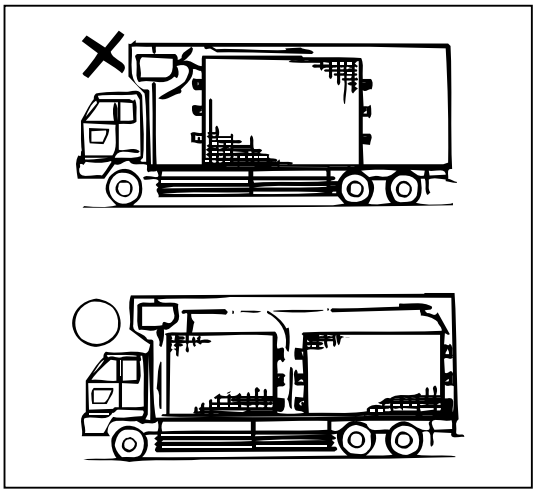


2.積荷の正しい配置

積荷はバランスよく積み、集中荷重や片荷にならないようにしてください。

(1)積荷とロードライン

積荷はロードラインより上に出ないように積んでください。冷気がスムーズにボデー内を循環できる様に天井と床面、また、両側面及び前後面と積荷間にも隙間を空けてください。



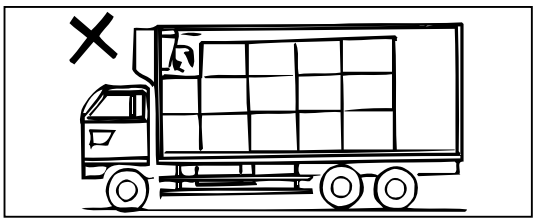
知識

ロードライン

エバポレータの冷気吹出出口下部から水平にリアドア方向に延長した線で冷気の通路になります

(2)積荷とエバポレータ

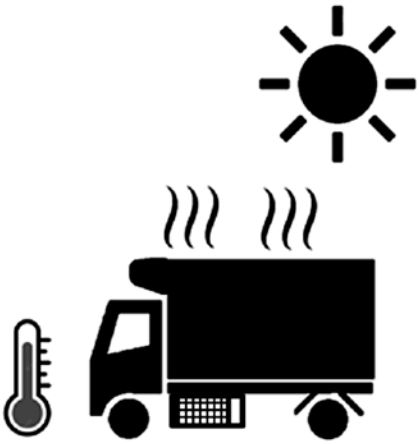
エバポレータの冷気吹出口や吸入口をふさぐような荷物の積み方は禁物です。



3. 上手な使い方

1.駐車は日陰で

日差しが強いときの直射日光はボデーの外板を熱し、壁面からの熱の侵入を増大させ庫内温度を上昇させます。
駐車は、なるべく日陰で風通しの良い所を選んでください。

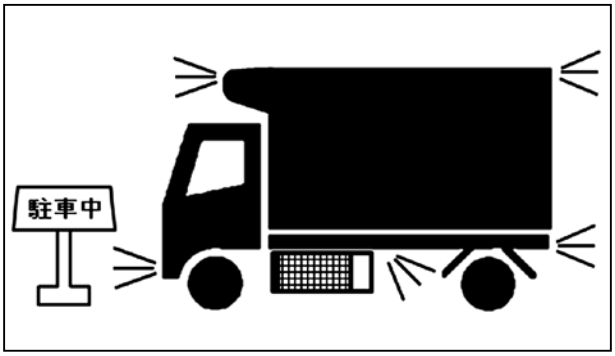


2.長時間の駐車

運行中長時間駐車するときなどの対応については「シャシメーカ」や「冷凍機メーカ」の取扱説明書をご参照ください。

3.駐車中の節電

冷凍車には冷凍機器をはじめとして多くの電装品が装着されています。
駐停車中の電装品の使用は必要最小限にするようにしましょう。



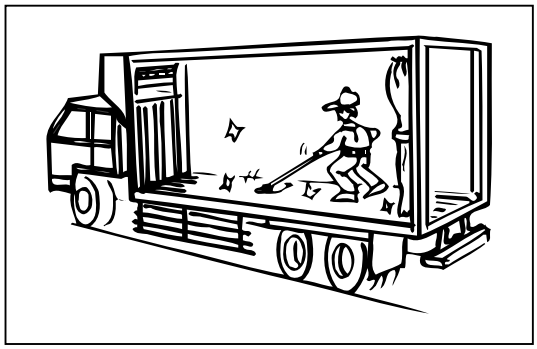
知識

ボデー内の温度が上昇すると

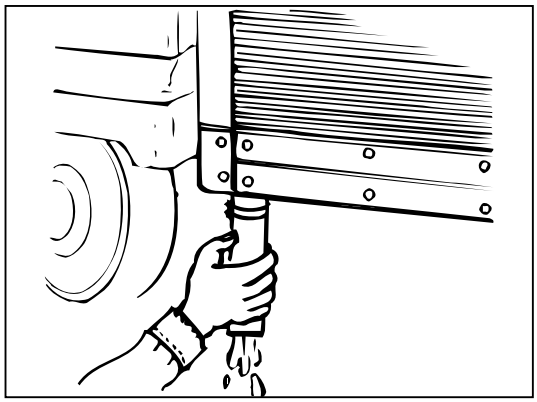
ドア開閉や外板を通してボデー内に侵入する熱量は意外に多くあります。
せっかく冷やしたボデー内温度を上昇させてしまうことになりそれは大きなロスです。
更には積荷の品質低下の原因にもなります。

4.ボデー内はいつも清潔に

保冷・冷凍バン（車）は食料品の輸送が中心になります。
鮮度や品質の維持等と並んで輸送機器類の清潔さも強く求められます。
また、食品衛生上からもいつも清潔にして置くことが大切です。



特に、床面の清掃と排水口のつまりの取除きは丁寧に行ってください。



アドバイス

ボデー内付着物の除去と清掃

油脂分や塩分などがボデー内に付着して残留すると細菌発生の原因になることがあります。

清掃・水洗を行い除去し清潔にして置きましょう。

5.スタンバイ装置

スタンバイ装置の電源は3相200ボルトです。供給電源の設置については現有設備や使用条件などを含め専門業者と相談してください。

アドバイス

スタンバイ装置の使用

スタンバイ装置を使ってボデー内を予冷したり保冷庫として使用する場合は、冷凍機器メーカの取扱説明書を参照してください。

4. 品目別輸送適温表

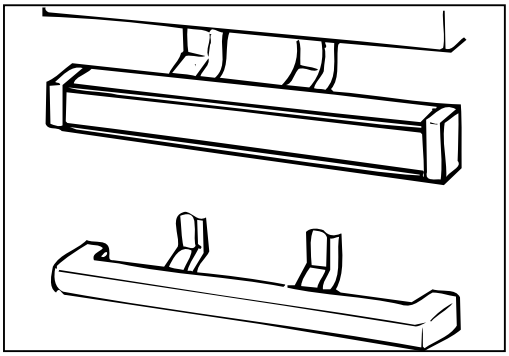
輸送適温 ℃	フローズン帯 -20		-15		-10		-5	チルド帯 0			5	クーリング帯 10			15		20	
●冷凍食品																		
冷凍果実																		
冷凍牛豚鶏肉魚貝類																		
調理冷凍食品																		
●○生鮮肉類																		
ソーセージ																		
生鶏肉																		
生羊豚牛肉																		
卵																		
くん製ベーコン.塩漬ハム																		
●○生鮮魚貝類																		
半加工品																		
えび.かに.貝類.鮮魚																		
くん製魚類																		
●○乳製品																		
アイスクリーム																		
バター .マーガリン																		
チーズ																		
牛乳.乳酸飲料																		
●○生鮮果実類																		
いちご																		
さくらんぼ.すもも.桃.ぶどう																		
梨類																		
オレンジ.みかん																		
りんご																		
メロン																		
レモン.グレープフルーツ																		
パイナップル																		
バナナ																		
●○生鮮野菜類																		
玉ねぎ																		
アスパラガス.法蓮草																		
セロリ.レタス																		
カリフラワ.グリンピース																		
人参.キャベツ																		
胡瓜.ナス																		
馬鈴薯																		
さつまいも																		
トマト																		
●○その他																		
生ジュース.惣菜																		
生めん																		
洋菓子																		
＊生ハム.生ベーコンは生牛肉と同温度帯																		

9. 付 属 品 装 備 品

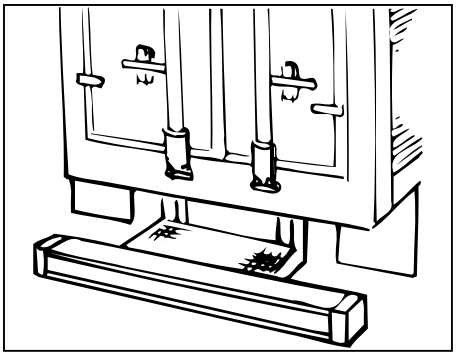
1. リアバンパ

リアバンパにはバンパとステップ兼用バンパがあります。

1.バンパ



2.ステップ兼用バンパ



⚠ 注意

踏外し滑落

1.バンパやバンパステップを足場に使うときは踏外し、転落に気をつけてください。
2.特に降雨雪、結氷時は滑りやすくなります。

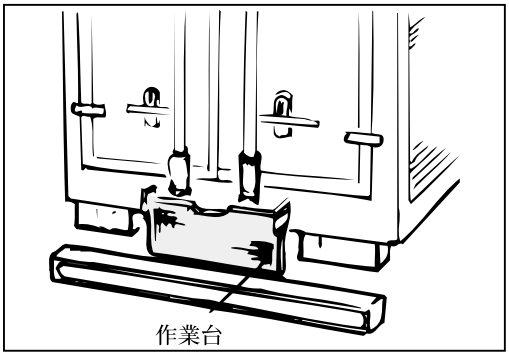
⚠ 警告

リヤバンパなどのガタ

リヤバンパなどのガタつきや緩みがあるまま走行するとリヤバンパが脱落し重大な事故を引き起こします。

2. 作業台

ボデーの後方やサイドでの簡単な作業や荷物の一時置場として使います。



⚠ 注意

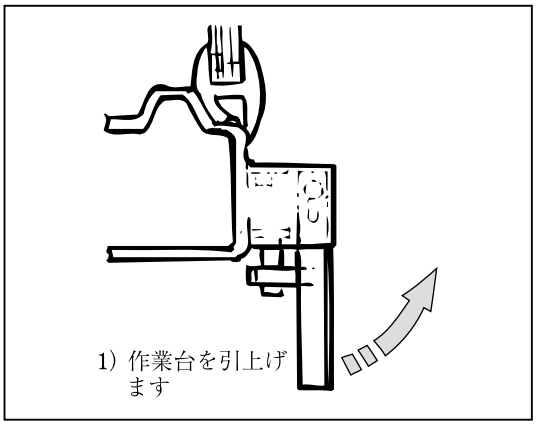
リア作業台の扱いと耐荷重

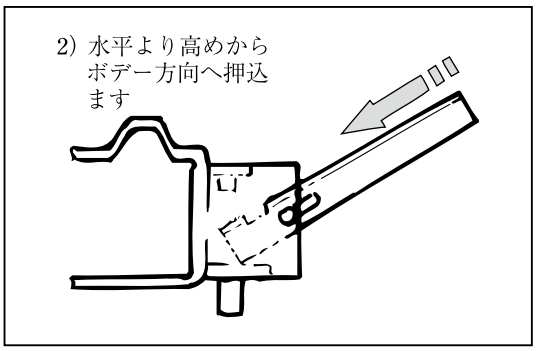
1.荷物を落としたり投置きなどをしないでください。
2.荷物が置いてあるときは乗らないでください。

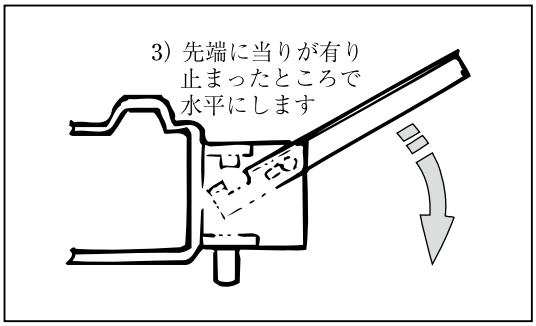
耐荷重：作業台中心100kgf

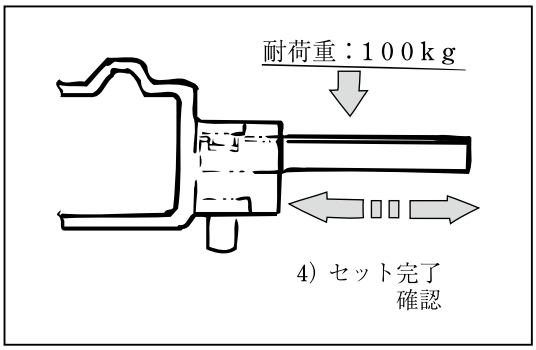
1.リアの作業台

リアの作業台は図のようにセットします。









⚠ 注意

セットの確認

リアの作業台を使用するときはセットの完了を確かめてください。

⚠ 注意

リア作業台の格納

格納は確実に行ってください。

不十分の場合は走行中に作業台が外れて飛出す恐れがあります。

⚠ 注意

リア作業台の取扱と耐荷重

1.荷物を落としたり投げ置きなどをしないでください。
2.荷物が置いてあるときは乗らないでください。

耐荷重：作業台中心100kgf

⚠ 警告

作業台不良時は使用禁止

作業台の固定が不安定（ガタや緩みなど）・不良及び作業台が変形している場合は使用しないでください。

転落または作業台の脱落の危険があります。早急に修理してください。

■格納

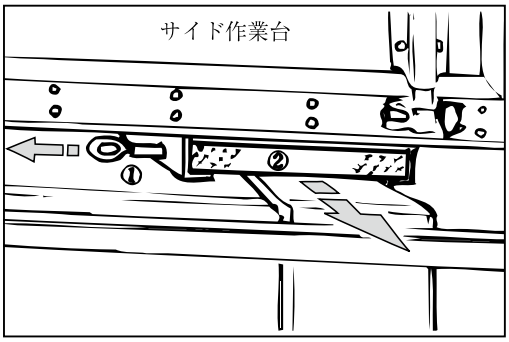
セット方法の逆の手順で行います。

2.サイドの作業台

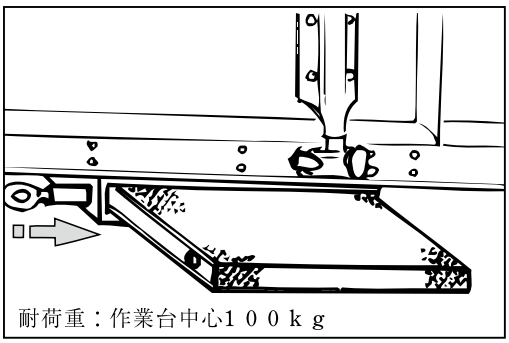
■サイド作業台のセット方法

(1)作業台の側面にあるバネ付落錠①を引き出してロックを解除します。

(2)作業台②を引き出します。



(3)バネ付落錠を作業台の基部にある受部に勘合し固定します。



■格納

セット方法の逆の手順で行います。

⚠ 注意

セットの確認

サイドの作業台を使用する場合はセットの完了を確かめてください。

⚠ 注意

サイド作業台の取扱いと耐荷重

1.荷物を落としたり投げ置きなどをしないでください。
2.荷物が置いてあるときは乗らないでください。

耐荷重：作業台中心100kgf

⚠ 警告

作業台不良時は使用禁止

作業台の落錠の不良・ロックが掛からない及び作業台が変形している場合（ガタや緩みなど）は使用しないでください。

転落または作業台の脱落の危険があります。早急に修理してください。

⚠ 警告

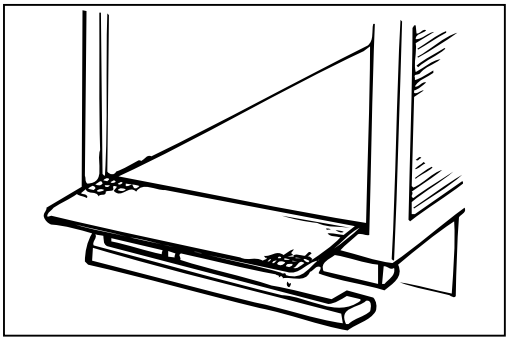
作業台の不十分な格納禁止

サイド作業台は確実に格納してください。

不十分な場合は走行中にロックが外れて作業台が側方に飛出す恐れがあり危険です。

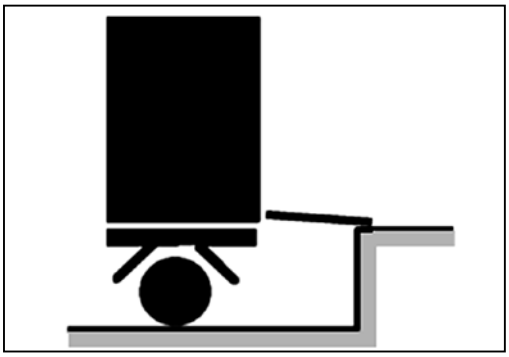
3. 渡し板

ボデーとプラットホーム間で主に使用します。

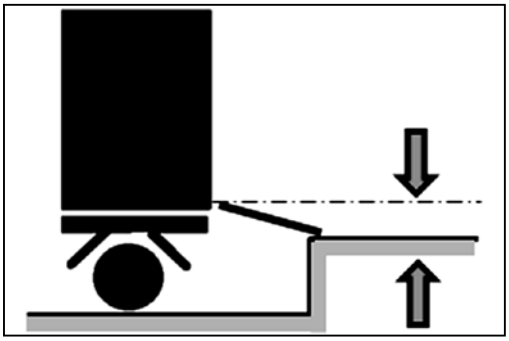


■使い方

(1)渡し板を使用するときは駐車ブレーキと車輪止めで車両が動かないように固定しプラットホームに先端を十分に載せてください。



(2)台車の使用時にはボデー床面とプラットホーム段差は70㎜以下にしてください。

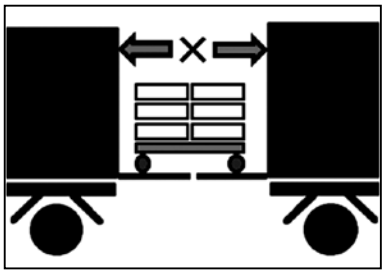


(3)使用後は“きちっと”格納してください。

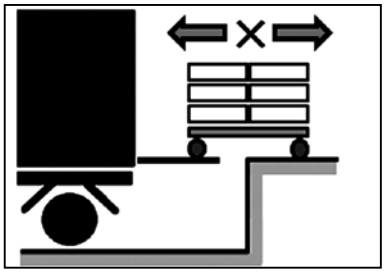
⚠ 警告

次の状態での渡し板使用禁止

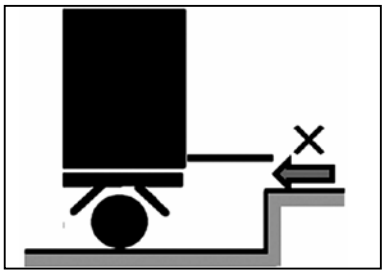
1.渡し板⇔渡し板へ



2.渡し板とプラットホームにすき間がある。



3.渡し板とプラットホームに段差がある。



⚠ 警告

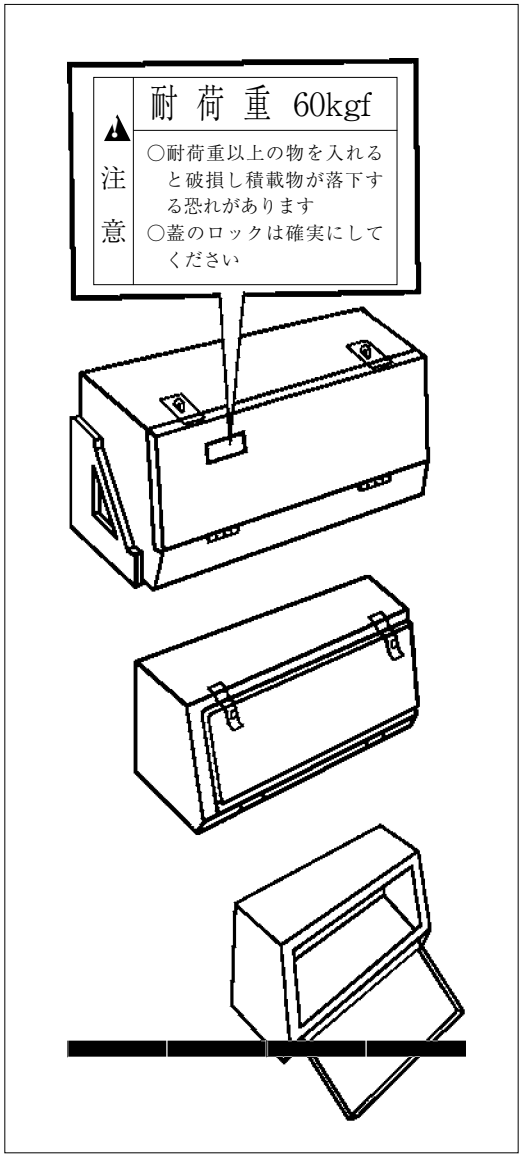
渡し板不良時は使用禁止

渡し板の変形・損傷（ガタや緩みなど含む）が著しい場合は使用しないでください。

人や荷物の転倒・転落・渡し板の脱落など重大な事故を引き起こします。早急に修理してください。

4. 工具箱

工具箱は使用材質と大きさ別に分けると右表「工具箱の種類」のようになります。
また、耐荷重は「工具箱の耐荷重」表のとおりです。



⚠ 警告

工具箱などのガタ

工具箱本体、取付部などのガタつきや緩みがあるまま走行すると工具箱が脱落し重大な事故を引き起こす危険性があります。

知識

工具箱の種類

サイズ＼材質	鉄製	SUS	FRP
大	○	○	○
中	○	○	○
小	○	○	○

知識

工具箱の耐荷重

区分	長さ㎜	耐荷重kgf
大	900	60
中	700	50
小	500	30

＊耐荷重は材質を問わず長さにより区分されます。

⚠ 警告

不良工具箱の使用禁止

損傷・腐食が著しい工具箱は使用しないでください。

内容物の落下による重大な事故を引き起こします。早急に新しい工具箱に交換してください。

⚠ 警告

工具箱の取扱

1.工具箱には耐荷重を超える積載をしないでください。
2.内容物の落下防止などのため施錠をしてください。

⚠ 注意

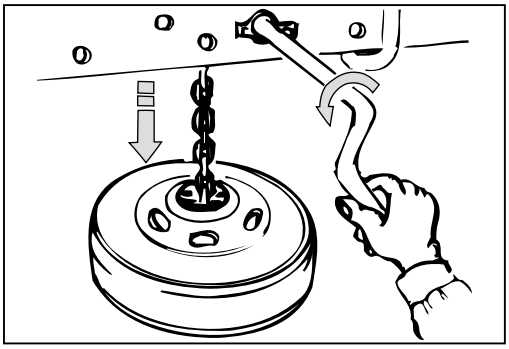
■車両に取り付けの工具箱について。

車両に取り付けの工具箱は防水構造ではありません。
水漏れを嫌う物の収納はおやめください。

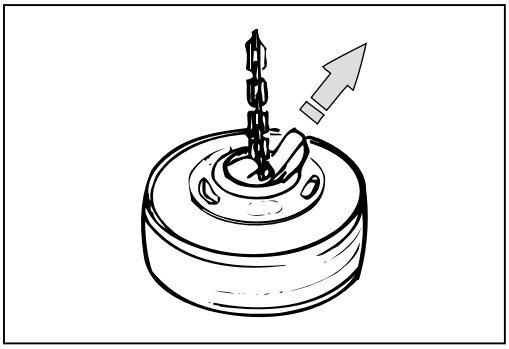
5. スペアタイヤキャリア

1.スペアタイヤの取外

(1)クランクハンドルをセットして左に回すとタイヤが下降します。
ハンガが接地するまで下げてください。



(2)ハンガをタイヤから外すとタイヤの移動が出来ます

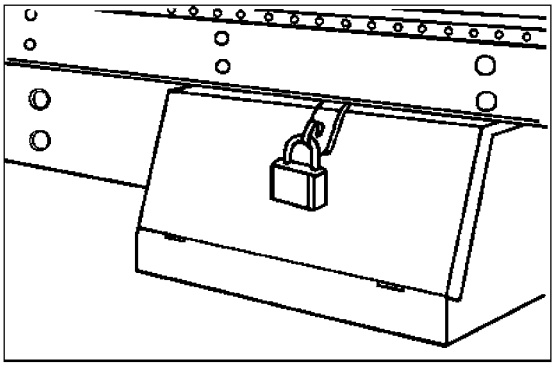


アドバイス

ハンガの格納

スペアタイヤを吊らないときはハンガを巻上げて固定して置きましょう。

(3)使用後のクランクハンドルは工具箱に格納します。



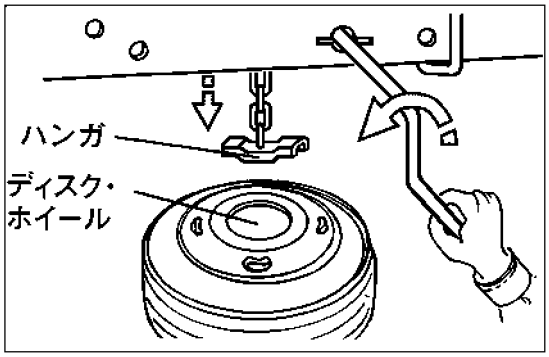
⚠ 警告

工具箱の取扱い

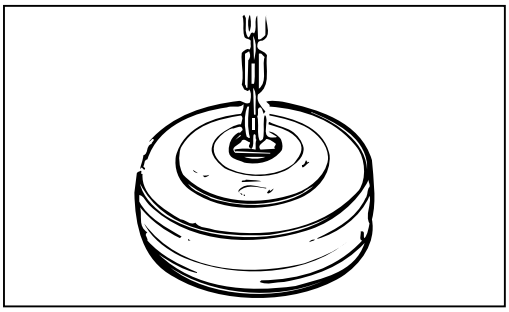
クランクハンドル格納後は蓋を“きちっと”閉め施錠してください。走行中工具箱が開いて積載物が落下すると、後続車や人・物にあたる恐れがあり思わぬ事故の原因になります。

2.スペアタイヤの取付

(1)ディスクホイールの凸部を上にしてください。
(2)タイヤをスペアタイヤキャリアの下に運び入れます。
(3)クランクハンドルを差込み左に回しハンガを下げてください。



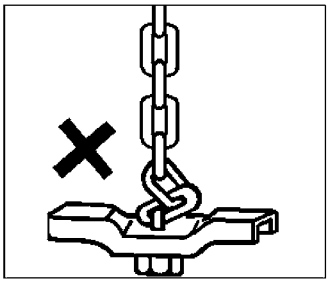
(4)ハンガを斜めにしディスクホイールの内にいれます。
(5)ハンドルを右に回しながらハンガを少しずつ吊上げホイールの中心部で左右に均等に掛かるようにします。
これで吊上げ準備が完了です。



(6)ハンドルを右に回してスペアタイヤを巻上げます。
(7)巻上げ後さらにクランクハンドル先端を下図の力で締め付けを行ってください。タイヤを足で強く押してガタがないことを確認してください。
(8)締付けが終わったらハンドルを抜き工具箱に格納します。

アドバイス

チェーンのねじれ



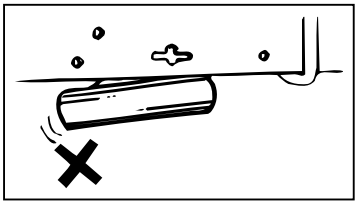
タイヤ吊上げのときはハンガのチェーンのねじれに気をつけましょう。ねじれたまま巻上げると走行中に振動でゆるみタイヤが脱落し重大な事故を引き起こします。

⚠ 警告

スペアタイヤ本体及びキャリアハンガのガタの緩み・損傷

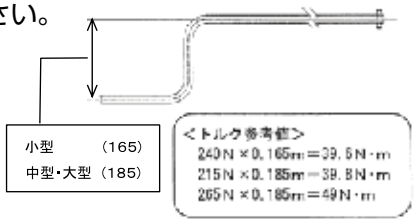
スペアタイヤ本体及びキャリアハンガに緩みやがた及び損傷があるまま走行するとタイヤが脱落し重大な事故を引き起こします。

スペアタイヤの重量は：1本120kg超のものもあります

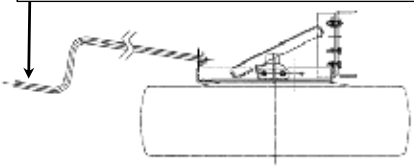


※スペアタイヤ、スペアタイヤキャリア、ツールボックスについては、3ケ月ごとの法定点検が定められています。」

スペアタイヤキャリアハンガの締付については、クランクハンドル先端を右表の力で締め付けを行ってください。

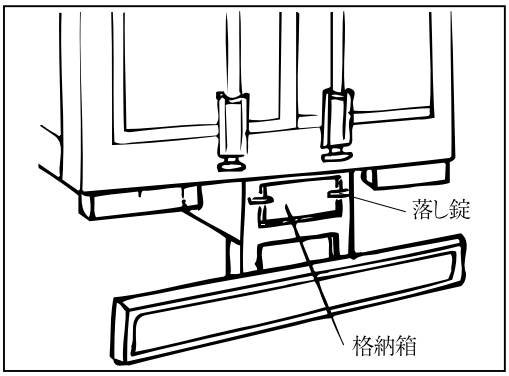


小型 240～355N(24.4～36.2kgf)
中型 215～315N(21.9～32.1kgf)
大型 265～395N(27.0～40.3kgf)
の力でクランクハンドルを回す



6. 後部格納箱

車両後部シャシフレーム間に設置されます。
ローダ格納箱とローラコンベア格納箱があります。



⚠ 警告

内容物の落下防止

後部格納箱にローダなどを積み込んだ後は蓋に取り付けてある「落し錠」でしっかりと施錠してください。
積込品のローダやコンベアが落下すると重大な事故を引き起こします。

⚠ 警告

格納箱不良時の使用禁止

格納箱が錆・損傷が著しい場合は使用しないでください。

内容物の落下により重大な事故を引き起こします。早急に修理してください。

10. 点検・お手入れについて

1. 新車時の点検

新車時の点検は使用開始後１ヶ月目に実施し適切な整備を行なってください。
点検項目は下記「点検項目」を参照してください。

2. 日常点検・定期点検

保冷バン・冷凍バンを効率的に使用し快適な輸送をしていただくためには日常点検・定期点検及び整備が必要です。点検は下記「点検項目」にもとづき実施してください。

■点検項目

点検箇所		点検内容	点検整備時期
装置名	部品・組立部品		
下廻り部	燃料タンク	漏れ・変形・がた	日常点検
	リアフェンダ	変形・損傷・取付部の緩み	12か月ごと
	ツールボックス（各種物入れ）	作動・変形・損傷・取付部の緩み	3か月ごと（注）
	タイヤキャリア・スペアタイヤ	作動・変形・損傷・取付部の緩み・錆	3か月ごと（注）
	タイヤチェーン掛け	変形・損傷・取付部の緩み・錆	3か月ごと
	灯火器	点灯・破損・がた	日常点検
架装部（結合部）	U・架装ボルト・滑り止め	変形・損傷・取付部の緩み・錆	1か月ごと
	滑り止め・スペーサ	ズレ・外れ・脱落	1か月ごと
	サブフレーム	変形・損傷・錆	1か月ごと
	アングルクリップ	変形・損傷・取付部の緩み・錆	1か月ごと
ガードステップ	ステップ	変形・損傷・取付部の緩み・錆	1か月ごと
	リアバンパ	変形・損傷・取付部の緩み・錆	1か月ごと
	サイドバンパ	変形・損傷・取付部の緩み・錆	3か月ごと
ドア及びドアフレーム	リアドア・サイドドア	ドア本体･金具の変形･損傷･取付部の緩み･錆	3か月ごと
		開閉が円滑に作動・異音・がた・取付部の緩み	日常点検
		フレームの損傷・塗装剥離・錆	3か月ごと
		非常解除装置の作動	日常点
	スライドドア	開閉が円滑に作動・異音・がた・取付部の緩み	日常点検
ドア部品･組立部品	ワンタッチロック装置	作動・取付部の緩み・錆	日常点検
	ドアケーブル・巻取機構（シャフト･スプリング･ガイドレール）	作動・変形・損傷・取付部の緩み・錆	1か月ごと
外板	両サイド・フロント・ルーフ	変形･損傷･歪･膨らみ･リベットの緩み･塗装剥離	3か月ごと
内板	両サイド・フロント・ルーフ	変形・損傷	3か月ごと
	床	変形・損傷	3か月ごと
緊締装置類	ラッシングレール他	変形・損傷・取付状況・錆	1か月ごと
電装品	スイッチ・ランプ	作動・損傷	日常点検
	非常警報装置	作動・損傷	日常点検
	バッテリ	液量・端子の点検	3か月ごと

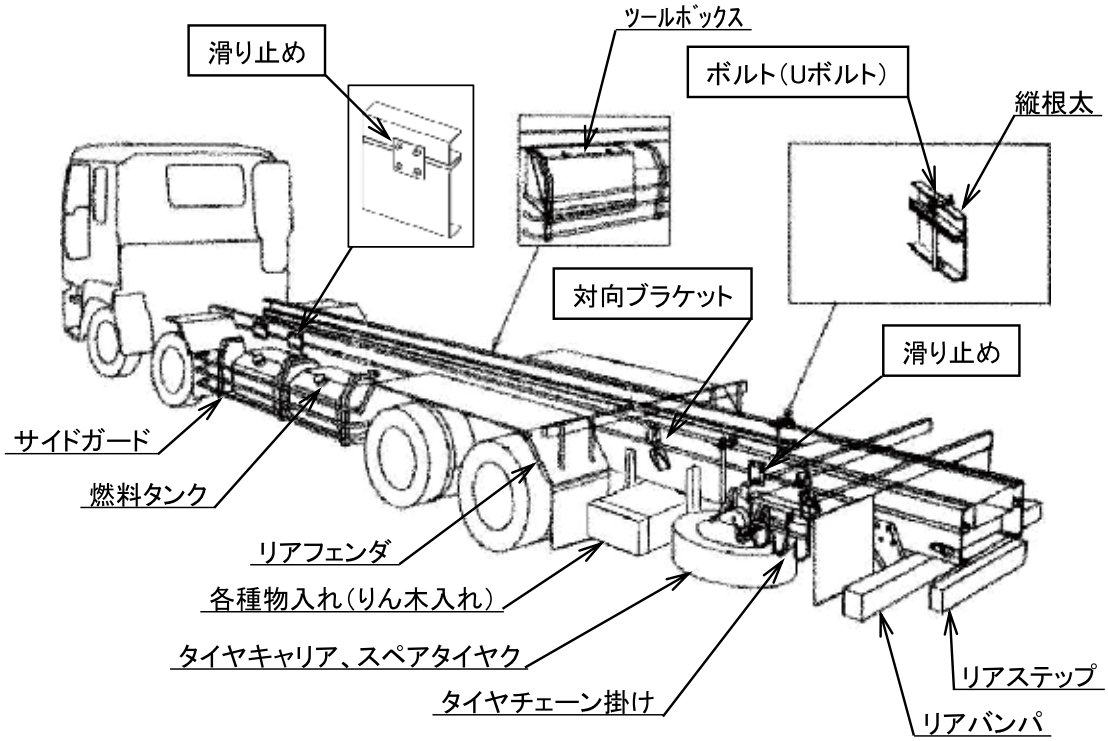
※点検の結果については内容により調整・増締・修理・整備・予防整備を実施してください。
※ボルトの緩みについては上記以外の箇所も点検し緩みのある場合は増し締めを実施してください。
※スペアタイヤ・ツールボックス等の参考事例については、巻末の「付属書」をご覧ください。
（注）車両総重量8t以上の大型トラック・トレーラについては道路運送車両法にもとづく「自動車点検基準」で義務化されております。

●点検箇所と名称

【下廻り部】

【結合部】

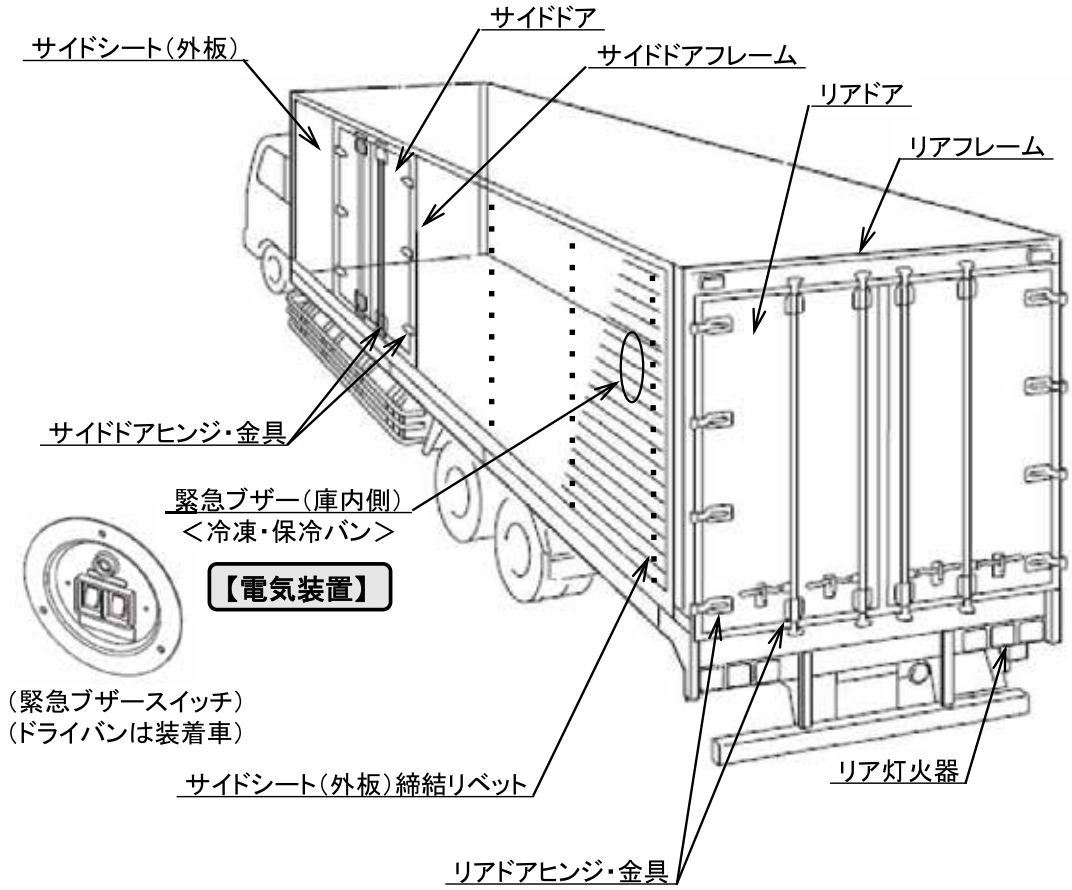
枠内は、結合部（シャシーと架装物の連結部）を示します。



※この図は、シャシーからボデー部を取除いた状態を示します。

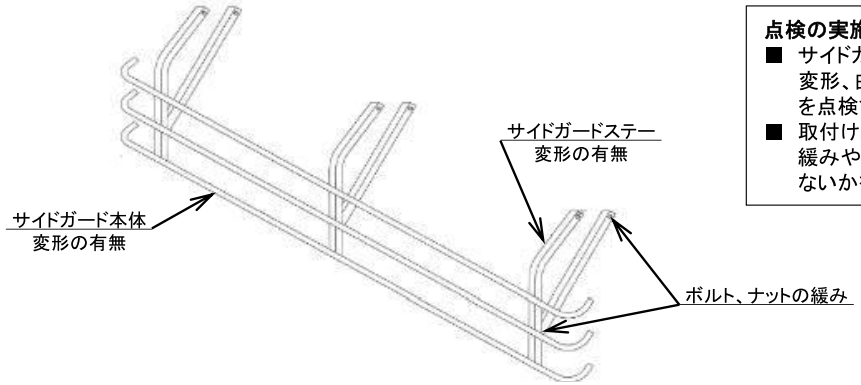
●点検箇所と名称

【ボデー部】
ドライバン/冷凍・保冷バン



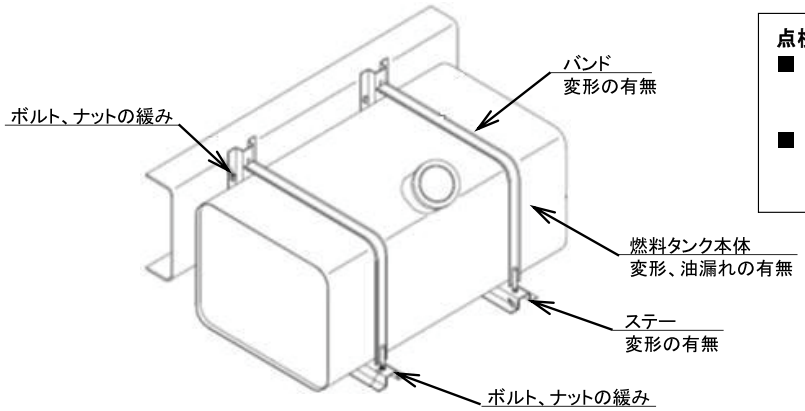
●点検要領　　【下廻り部】

点検箇所	サイドガード
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



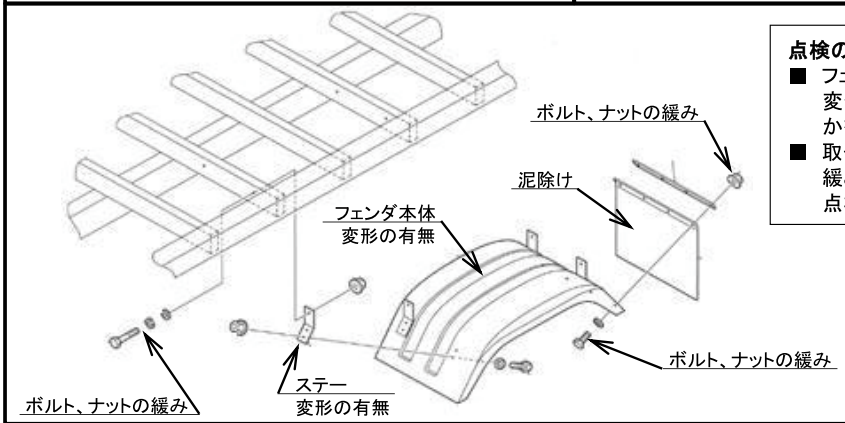
点検の実施方法
- ■ サイドガード本体やステーに変形、曲がり等の損傷がないかを点検する。
- ■ 取付けボルトやナット、溶接 に、緩みやがた、損傷及び腐 食がないかを点検する。

点検箇所	燃料タンク
点検項目	漏れ、変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



点検の実施方法
- ■ 燃料漏れ、タンク、バンド、ステーなどに、変形等の損傷が ないかを点検する。
- ■ 取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷及び腐 食がないかを点検する。

点検箇所	リアフェンダ
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検

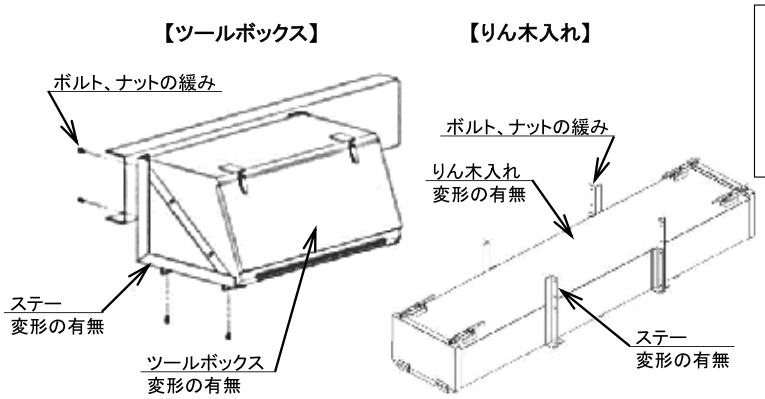


点検の実施方法
- ■ フェンダ本体やステーなどに、変形、曲がり等の損傷がないかを 点検する。
- ■ 取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

●点検要領

【下廻り部】

点検箇所	ツールボックス（各種物入れ）
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検

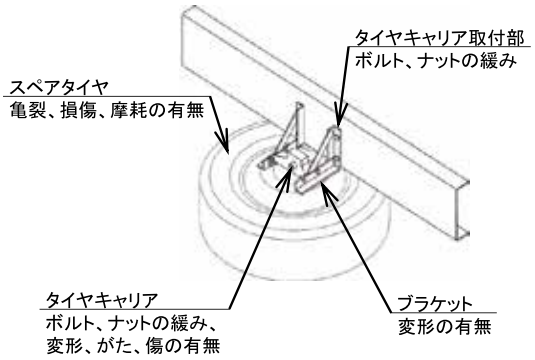


点検の実施方法

■ 本体やステーに変形等の損傷がないかを点検する。

■ 取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

点検箇所	タイヤキャリア
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



点検の実施方法

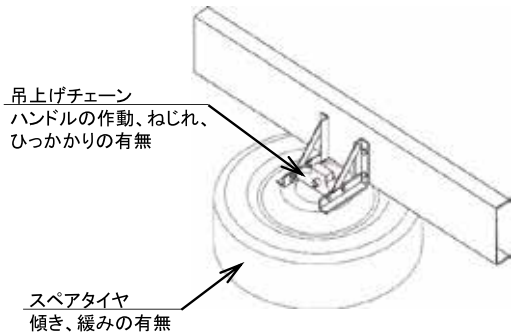
○ スペアタイヤを取り外し、次の点検を行います。

■ タイヤキャリアの取付部に緩みがないかをスパナなどにより点検します。また、損傷がないかを目視などにより点検します。

■ タイヤキャリアに緩みがないかをスパナなどにより点検します。また、がたがないかを手で揺するなどして点検します。さらに、損傷がないかを目視などにより点検します。

■ スペアタイヤのディスク・ホイールについて、ボルト穴や飾り穴の周り及び溶接部に亀裂及び損傷がないかを目視などにより点検します。また、タイヤキャリアとディスク・ホ イール合わせ面に摩耗や損傷がないかを目視などにより 点検します。

点検箇所	スペアタイヤ
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



点検の実施方法

○ スペアタイヤを取り付ける際に次の点検を行います。

■ タイヤキャリアのハンドルが円滑に回ること及び吊上チェーンにねじれやひっかかりがないことを確認し、規定トルクで締め付けます。

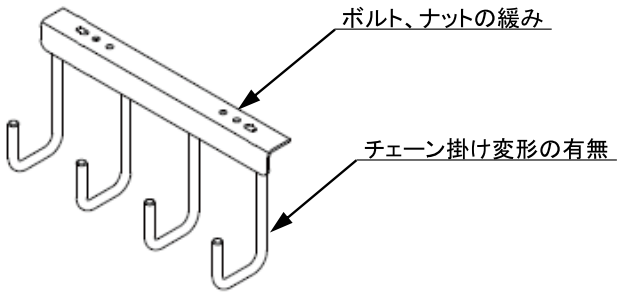
■ スペアタイヤを取り付けた後、スペアタイヤに異常な傾きがないかを目視などにより点検します。また、スペアタイヤの取付けに緩みがないかをスペアタイヤを強く押 すなどして点検します。

※ハンドル先端締付力については9.付属品装備品の5.スペアタイヤキャリアをご覧ください

●点検要領

【下廻り部】

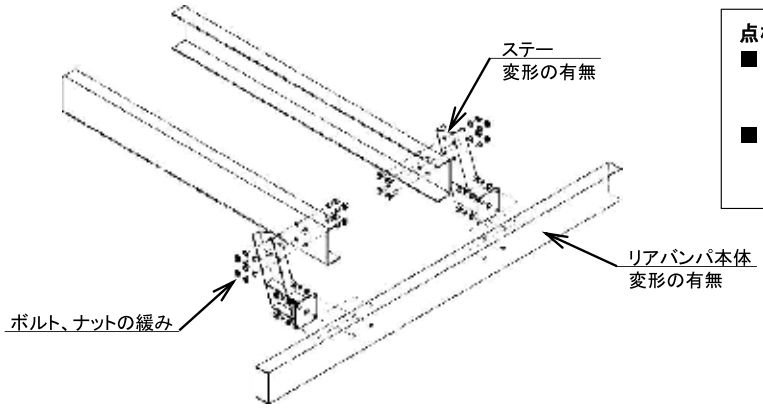
点検箇所	タイヤチェーン掛け
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



点検の実施方法

- ■ チェーンフックやステーに、変形等の損傷がないかを点検する。
- ■ 取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

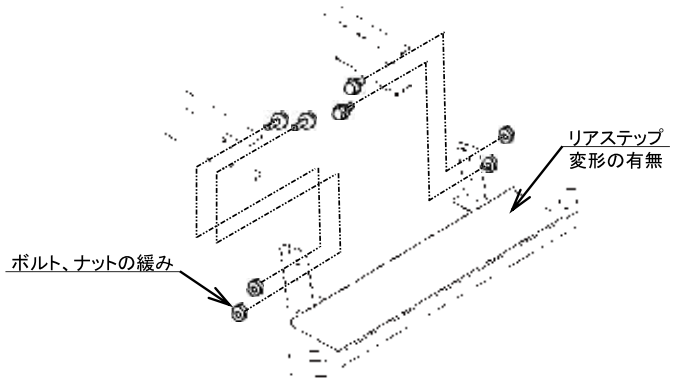
点検箇所	リアバンパ
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



点検の実施方法

- ■ リヤバンパ本体やステーに、変形等の損傷がないかを点検する。
- ■ 取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

点検箇所	リアステップ
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



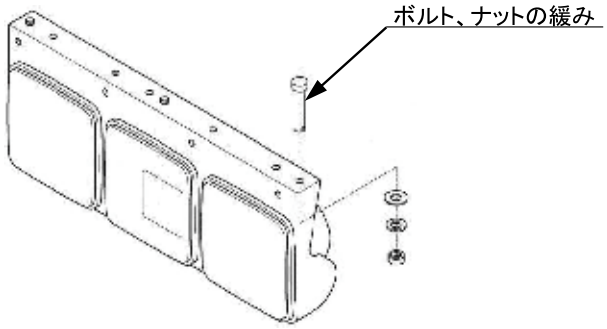
点検の実施方法

- ■ リアステップ本体やステーに変形等の損傷がないかを点検する。
- ■ 取付けボルトやナット、溶接 に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

●点検要領

【下廻り部】

点検箇所	リア灯火器
点検項目	点検方法
変形、損傷、取付部の緩み、がた	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



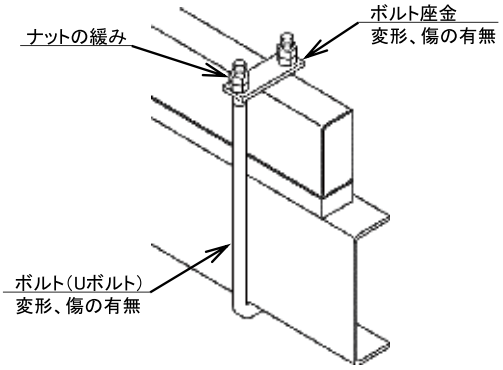
点検の実施方法

- ■ 灯火器本体やステーに、変形等の損傷がないかを点検する。
- ■ 取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

●点検要領

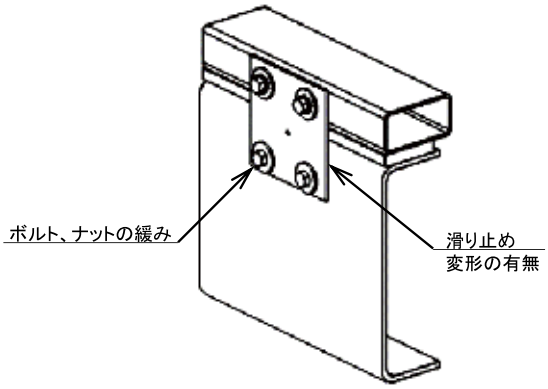
【結合部】

点検箇所	ボルト（Uボルト）
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



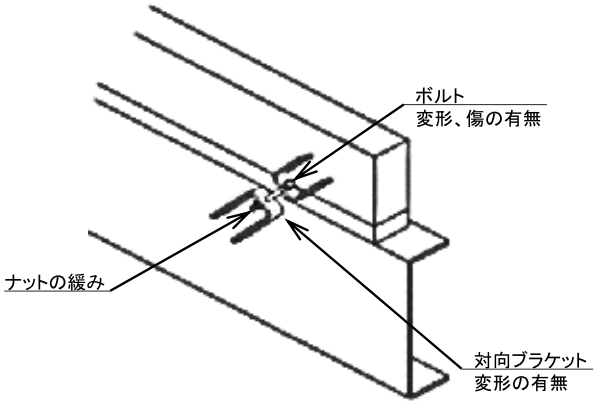
点検の実施方法
- ■ ボルト本体やボルト座金に、変形等の損傷がないかを点検する。
- ■ 取付けナットに、緩みやがたがないかを点検する。

点検箇所	滑り止め
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



点検の実施方法
- ■ 滑り止めに、変形等の損傷がないかを点検する。
- ■ 取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

点検箇所	対向ブラケット
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検

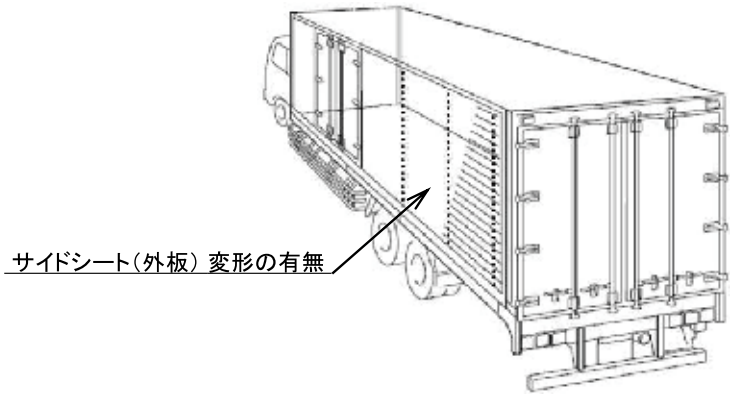


点検の実施方法
- ■ 対向ブラケットに、変形等の損傷がないかを点検する。
- ■ 取付けボルトやナット、溶接に、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

●点検要領

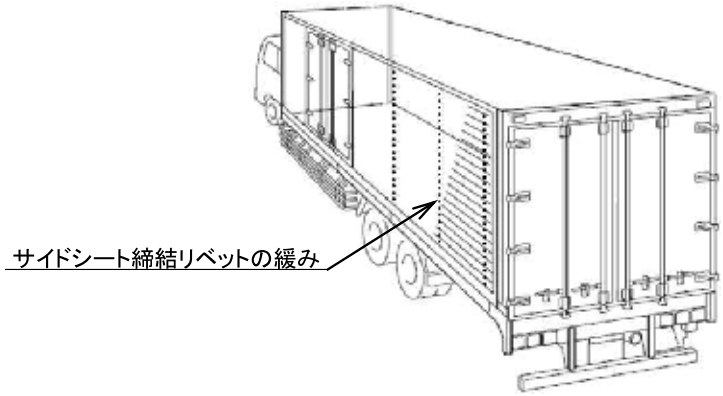
【ボデー部】
〔ドライバン/保冷・冷凍バン〕

点検箇所	サイドシート（外販）
点検項目	変形、損傷
点検方法	目視などによる点検



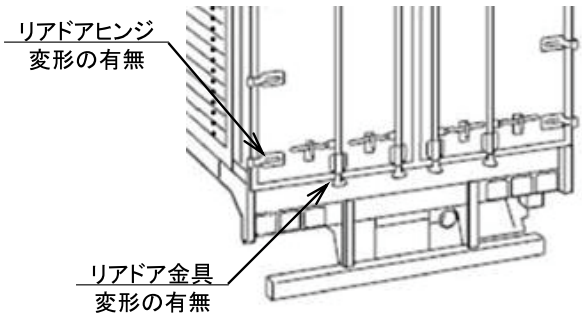
点検の実施方法
■ サイドシート（外板）に、変形や損傷がないかを点検する。

点検箇所	サイドシート締結リベット
点検項目	緩み、がた、損傷
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



点検の実施方法
■ サイドシート（外板）の締結リベットに、緩みやがた、損傷がないかを点検する。

点検箇所	リアドアヒンジ・金具
点検項目	変形、損傷、取付部の緩み、がた
点検方法	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



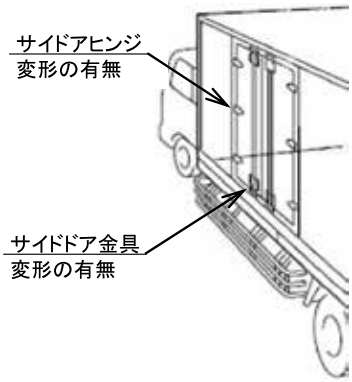
点検の実施方法
■ リアドアヒンジや金具に、変形等の損傷がないかを点検する。
■ 取付けボルトやナットに緩みやがた、損傷がないかを点検する。

●点検要領

【ボデー部】
〔ドライバン/保冷・冷凍バン〕

点検箇所	サイドドアヒンジ・金具

点検項目	点検方法
変形、損傷、取付部の緩み、がた	目視やスパナ（点検ハンマー）などによる点検



点検の実施方法

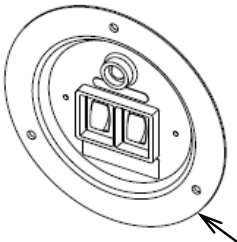
- ■ サイドドアヒンジや金具に、変形や損傷がないかを点検する。
- ■ 取付けボルトやナットに緩みやがた、損傷がないかを点検する。

●点検要領

点検箇所	緊急ブザー

点検項目	点検方法
作動	聴音による点検

点検の実施方法
■ 庫内のスイッチを作動させた時、緊急ブザーが鳴ることを点検する。



緊急ブザースイッチ
作動の確認

3. お手入れ

1.ボデー外板のお手入れ

○水洗いをしてください。
○汚れのひどい場合は、中性洗剤を使用してください。
○柔らかい布やセーム皮で洗い落とします。
　ブラシを使用するときは柔らかいものを選びます。
○看板や塗装・文字には堅いブラシや洗車機を強く当てないでください。
○洗車後は、外板に斑点が残らないように水切り、拭取りをしてください。

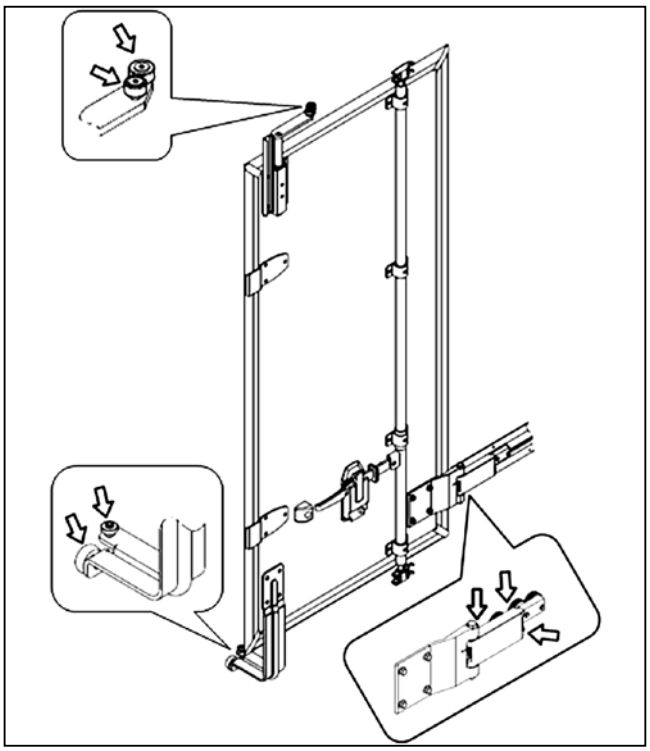
2.ボデー内のお手入れ

○普段は、箒などで掃き掃除をしたり、モップ掛けやカラ拭きをします。
○月に2度位を目安に水洗いと内部乾燥をしてください。

3.スライドドア式サイドドアの給脂（毎月1回）

ドアの開閉をいつも良好な状態に維持するために、月に一度給脂をしてください。

NFスライドドア



アドバイス
ボデー内清掃と内装材

ボデー内は、いつも清潔にしておきましょう。

塩分、油脂分などが付着し残留すると内装材の劣化を促進させたり腐食の原因になります。

アドバイス
ボデー下回りのお手入れ

特に降雪地域を走行されたときには、融雪剤対策のために、ボデーの下回りをブラシ等を使用して十分に水洗いをしてください。

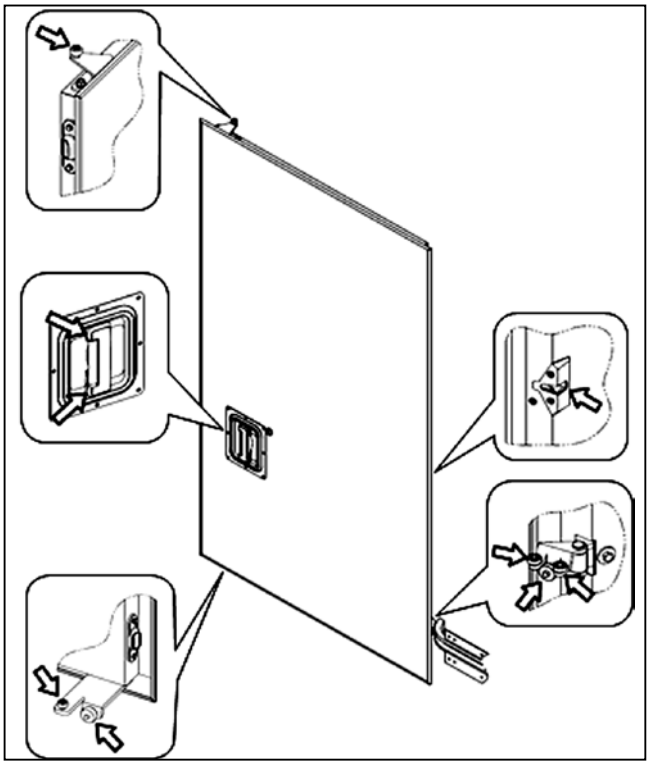
油脂名	シャシグリース
規　格 名　称	JIS　K　2220 自動車用シャシグリース1種1号

※スプレー式グリースの使用を推奨します。

⚠ 注意
ベアリング部への給脂について

ベアリングに、『溶剤入りスプレー式潤滑剤(CRC5-56など)』を吹き付けると、ベアリング内のグリースが溶け出し、ベアリングの寿命を短くします。
上記潤滑剤は使用しないでください。

ワンタッチスライドドア



油脂名	シャシグリース
規　格 名　称	JIS　K　2220 自動車用シャシグリース1種1号

※スプレー式グリースの使用を推奨します。

⚠ 注意

ベアリング部への給脂について

ベアリングに、『溶剤入りスプレー式潤滑剤(CRC5-56など)』を吹き付けると、ベアリング内のグリースが溶け出し、ベアリングの寿命を短くします。
上記潤滑剤は使用しないでください。

4.鍵の作動不良を防止するためのお手入れ

1）1ヶ月に1回はキーを使用し、作動を確認してください。
2）定期的にキー差込み穴よりスプレー式鍵穴用ドライタイプ潤滑剤を注入してください。

5.ボデー各部への給脂（毎月1回）

ボデー各部の可動部（回転・摺動部）には良好な作動状態を維持するため、月に1回は給脂をしてください。

6.非常脱出装置のお手入れ

3ヶ月に1回は非常脱出装置の作動を確認してください。(非常脱出装置装着車のみ)

ワンタッチスライドドアの開放不良時の対応

ドアが開かない

↓　YES

ハンドルの動きが軽い　YES →　ドア内のリンク機構に不具合が発生
修理工場にて修理してください。

↓　NO

ハンドルの動きが途中で重くなる

↓　YES

ドアが下がったためロック部の噛み込みが発生
3ヶ月に1回は非常脱出装置の作動を確認してください。(非常脱出装置装着車のみ)
ロック部の調整が必要です、修理工場にて修理してください。

７．樹脂部品（サイドマーカーランプ、ルームランプ、テールランプ等）のお手入れ

１．表面についた砂やほこりをていねいに取除きます。隅の清掃は歯ブラシを利用すると便利です。

２．水でぬらした柔らかい布又はスポンジ・市販のメラミンフォーム材などで全体の汚れを拭き取ります。
特に汚れがひどい場合は、中性洗剤で汚れを落とし、そのあと水洗いします。

３．最後に、かたく絞った柔らかい布又はスポンジで全体を拭き取ります。

※お手入れのご注意

１．洗浄剤は、中性のものを使用してください。

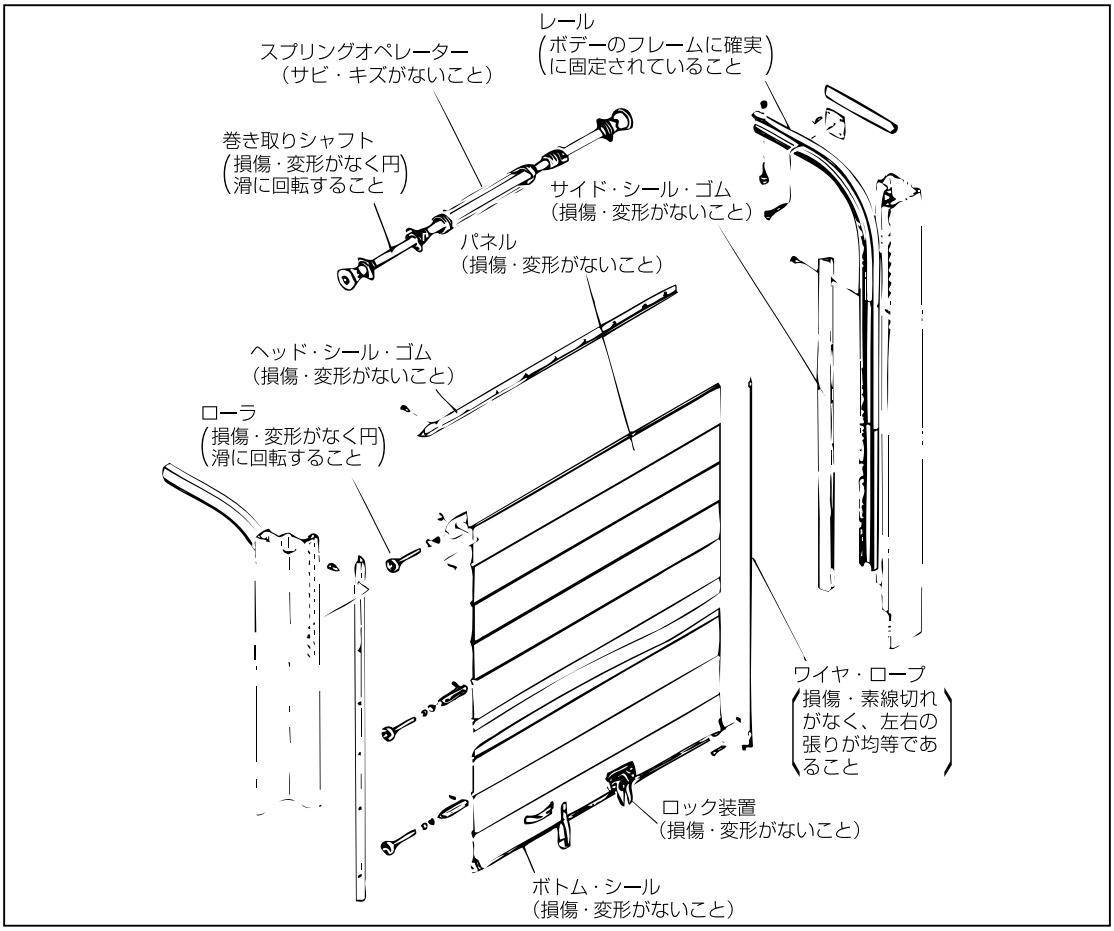
２．酸性薬品、アルカリ性薬品、塩素系薬品、アルコール系薬品及び有機溶剤は樹脂部材を溶かしたり、早期劣化、ひび割れを引き起こしますので絶対に使用しないでください。

３．お手入れの際には柔らかい布又はスポンジ・市販のメラミンフォーム材などを使い、ワイヤーブラシやサンドペーパーのご使用はおやめください。

４．マジックインクや塗料が附着すると落ちなくなりますのでご注意ください。

4. ロールアップドアの点検

ロールアップドアは図に指定する箇所の損耗や変形等について点検します。



5. 定期交換部品と消耗品

1.定期交換部品

次の各部品は定期的に交換して保冷･冷凍バンの性能と機能を維持し安全･快調な状態でご使用ください。

※使用頻度・環境により変化するため、交換時期の参考にしてください。

ロールアップドアワイヤロープ、ドアガスケット類	**（1年）**
ロールアップドアスプリングオペレーター	**（2年）**

2.消耗部品

次の部品は通常の使用や経年変化等により消耗・摩耗・劣化する部品です。日常（使用前）・定期点検時を利用して損耗状態を確かめ早めの手入れ交換が大切です。

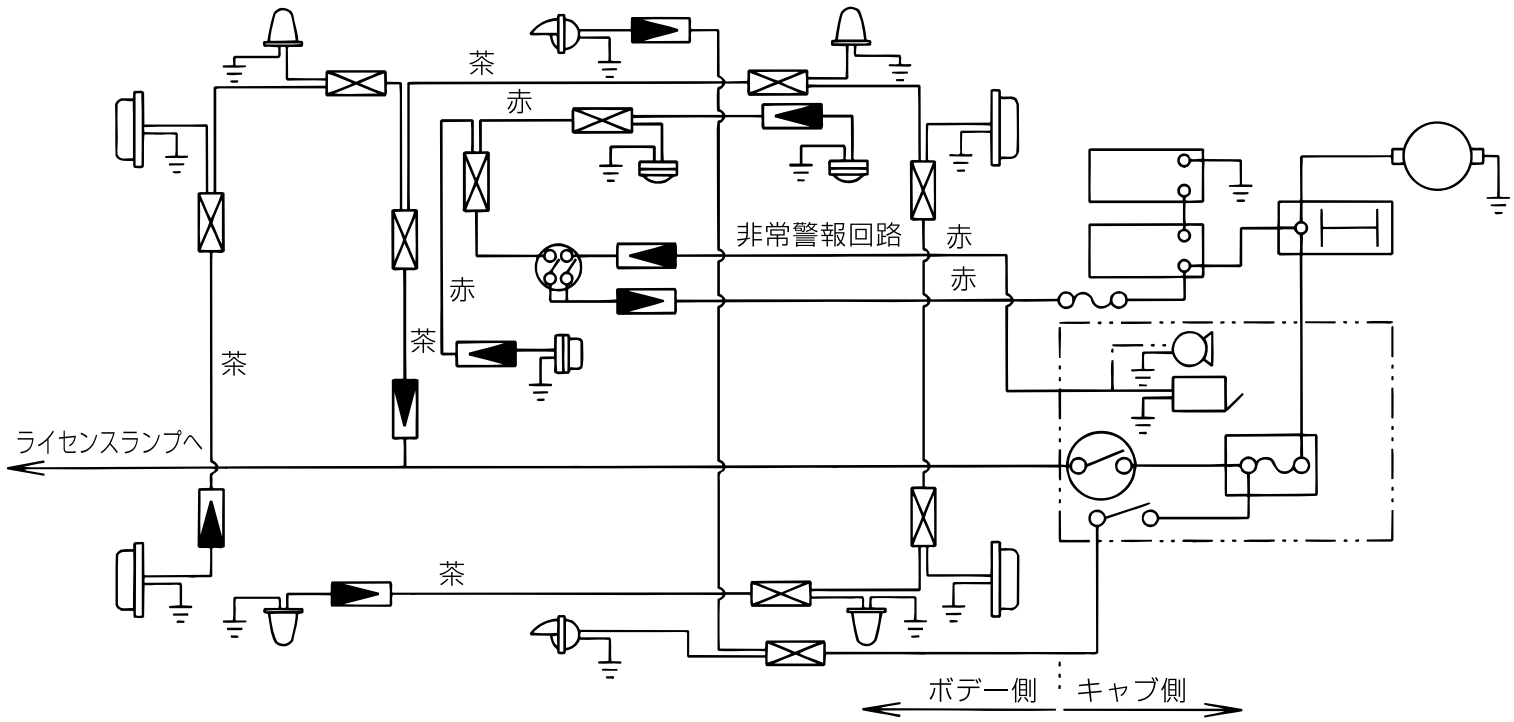
電球、ヒューズ、油脂類、ロールアップドアローラ、ゴム製品類、ブッシュ、ガスダンパ
スライドドア　ベアリング、錠及びキー、内外板のシーラー（コーキング剤）

※消耗部品は､保証対象にはなりません｡(保証書に記載有)

6. 参考配線図

配線図記号略記号等の説明

記号 略記号	名　　称	記号 略記号	名　　称
	コネクター、オス		トップマーカーランプ
	コネクター、メス		サイドマーカーランプ
	コネクタ、2種		作業灯
	スイッチ		室内灯
	ヒューズ		路肩灯
	ブザー　ホーン		アース



付属書

スペアタイヤ/スペアタイヤ取付装置/ツールボックス
3か月毎の定期点検*として義務について

＊　ここでの定期点検とは、道路運送車両法に基づく法定点検です

追加された点検項目と点検実施方法

～ 事故防止のため、確実な点検・整備をお願いします。～

●スペアタイヤ

※スペアタイヤとは・・・フレームやボディーなど、車外に取付けられている予備のタイヤ

①スペアタイヤ取付装置の緩み、がた及び損傷

※スペアタイヤを取り外し、次の点検を行います。

・スペアタイヤ取付装置の取付部に緩みがないかをスパナなどにより点検します。
また、損傷がないかを目視などにより点検します。

・スペアタイヤ取付装置に緩みがないかをスパナなどにより点検します。また、がたがないかを手で揺するなどして点検します。さらに、損傷がないかを目視などにより点検します。

・スペアタイヤのディスク・ホイールについて、ボルト穴や飾り穴の周り及び溶接部に亀裂及び損傷がないかを目視などにより点検します。また、スペアタイヤ取付装置とディスク・ホイール合わせ面に摩擦や損傷がないかを目視などにより点検します。

②スペアタイヤの取付状態

※スペアタイヤを取り付ける際に次の点検を行います。

・スペアタイヤ取付装置のハンドルが円滑に回ること及び吊上チェーンにねじれやひっかかりがないことを確認し、規定トルクで締め付けます。

・スペアタイヤを取り付けた後、スペアタイヤに異常な傾きがないかを目視などにより点検します。また、スペアタイヤの取付けに緩みがないかをスペアタイヤを強く押すなどして点検します。

●ツールボックス

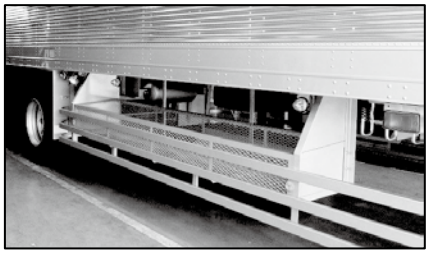
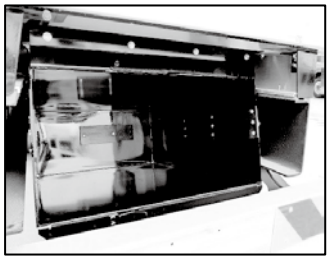
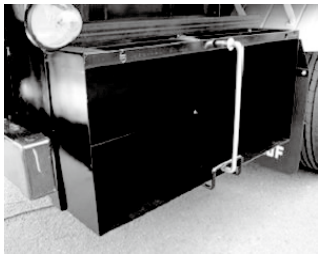
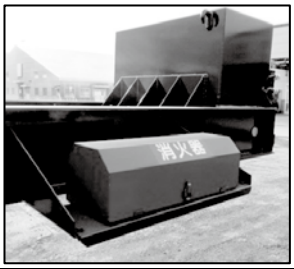
※ツールボックスとは・・・フレームやボディーなど、車外に取り付けられた工具箱や資材入れ等。
参考事例は次ページ参照。

③ツールボックスの取付部の緩み及び損傷

※ツールボックスの取付部に緩みがないかをスパナなどにより点検します。また、損傷がないかを目視などにより点検します。

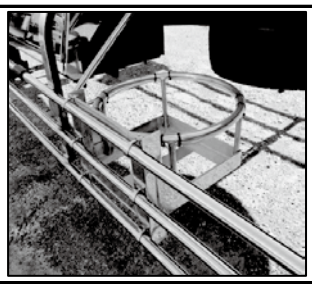
★ツールボックス等の参考事例

1）ツールボックスに【該当する】もの

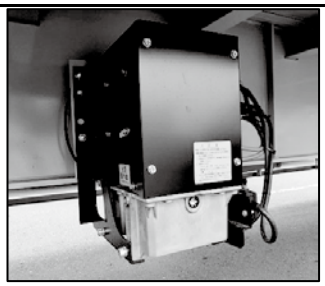
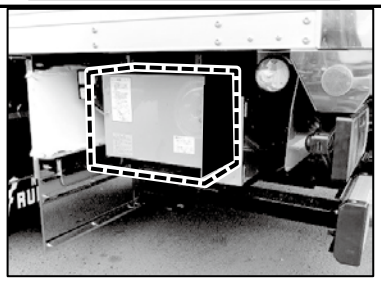
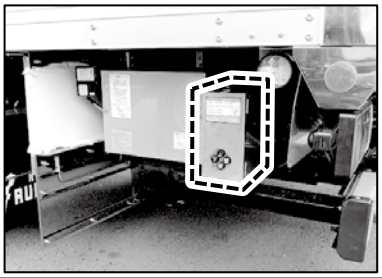
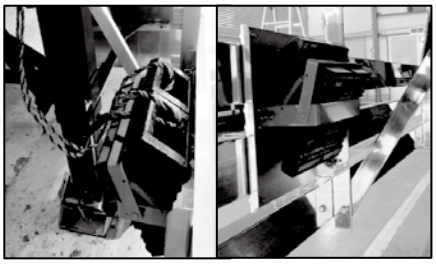
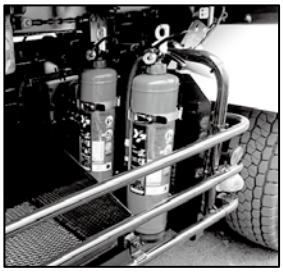
事　例（参考画像）	構造・取付方法・使用目的等
	板状の箱 フレーム側面へ取付
	エキスパンドメタルの箱 箱の上面はオープン 荷台下のフレーム側面へ取付 主にりん木入れとして使用
	板状の箱 フレーム下面へ取付 主に溝埋め材入れとして使用
	板状の箱 後面はオープン、帯板の飛出し防止付き フレーム後部下面へ取付 主に台車入れとして使用
	板状の箱 側面はオープン、丸棒の飛出し防止付き フレーム側面へ取付 主に台車入れとして使用
	板状の箱（六面体に限らず） フレーム側面へ取付 消火器入れとして使用

★ツールボックス等の参考事例

1）ツールボックスに【該当する】もの

事　例（参考画像）	構造・取付方法・使用目的等
	板状の箱 上面はオープン、下面は、すのこ状の板 荷台前立て上前部へ取付 主にシート入れとして使用
	ペール缶受け 平板を床とし、ペール缶がズレ落ちぬよう 丸棒を円状に配置した専用受け 左写真は巻込み防止装置へ取付
	上面はオープン、下面は、すのこ状の板、 側面及び前面は丸棒で構成のシート置き トレーラ単体での輸送効率化（全長制限） のため折り畳み可能としている

2）ツールボックスに【該当しない】もの

事　例（参考画像）	構造・取付方法・使用目的等
	ウイング扉のパワーユニット （モータ、油圧ポンプ等）ボックス 荷台床面へ取付
	テールゲートリフターのパワーユニット （モータ、油圧ポンプ等）ボックス 左写真はテールゲートリフターへ取付したもの 車枠や荷台へ取付ることもある
	テールゲートリフターの荷台操作ボックス フレーム側面へ取付 左写真はテールゲートリフターへ取付したもの 車枠や荷台へ取付ることもある
	チェーン掛け チェーンを掛けるためのフック
	車輪止め受け（タイヤ歯止め入れ） 平板と帯板で構成された車輪止め （タイヤ歯止め）専用受け 脱落防止の帯ゴム取付け部有り 左写真は巻込み防止装置へ取付 フレーム側面等へ取付けることもある
	消火器受け 平板を床とし、消火器をバンドで固定する 専用受け 左写真は巻込み防止装置へ取付たもの

2026年9月改訂

保冷バン・冷凍バン取扱説明書

日本フルハーフ株式会社
サービス部

（不　許　複　製）

本書の内容は、製品改良およびメーカーの仕様変更等により、予告なく変更される場合があります。
また、本書の記載内容と実際の製品仕様が一部異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

RUEHAUF
日本フルハーフ

9790-019-26